



DIGITAL PIANO

SCLP-5450

SCLP-5350

取扱説明書

この楽器のお取り扱いについては、ご使用前に必ず2~5ページの「安全上のご注意」をお読みください。
組み立て説明については巻末をご参照ください。

安全上のご注意




ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様やほかの方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

お子様がご使用になる場合は、保護者の方が以下の内容をお子様にご徹底くださいますようお願いいたします。お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。


■ 記号表示について


この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

	「ご注意ください」という注意喚起を示します。
	～しないでくださいという「禁止」を示します。
	「必ず実行」してくださいという強制を示します。

■ 「警告」と「注意」について

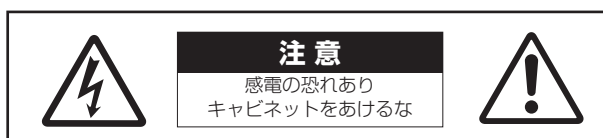
以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。

 警告	この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。
--	---

 注意	この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。
--	--

■ 本体に表示されている注意マークについて

本体には、次の注意マークが付いています。



これは、以下の内容の注意を喚起するものです。

「感電防止のため、パネルやキャビネットを外さないでください。内部には、お客様が修理 / 交換できる部品はありません。点検や修理は、必ずお買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターにご依頼ください。」

警告

電源 / 電源コード



禁止

電源コードをストーブなどの熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、傷つけたりしない。また、電源コードに重いものをのせない。

電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。



必ず実行

電源は必ず交流100Vを使用する。

エアコンの電源など交流200Vのものがあります。誤って接続すると、感電や火災のおそれがあります。



必ず実行

電源コード/プラグは、必ず付属のものを使用する。また、付属の電源コードをほかの製品に使用しない。

故障、発熱、火災などの原因になります。



必ず実行

電源プラグにほこりが付着している場合は、ほこりをきれいに拭き取る。

感電やショートのおそれがあります。

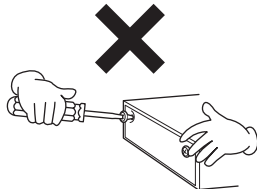
分解禁止



禁止

この製品の内部を開けたり、内部の部品を分解したり改造したりしない。

感電や火災、けが、または故障の原因になります。



水に注意



禁止

本体の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置かない。また、浴室や雨天時の屋外など湿気の多いところで使用しない。

内部に水などの液体が入ると、感電や火災、または故障の原因になります。入った場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いた上で、お買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。



禁止

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。

感電のおそれがあります。

火に注意



禁止

本体の上でろうそくなど火気のあるものを置かない。

ろうそくなどが倒れたりして、火災の原因になりません。

異常に気づいたら



必ず実行

下記のような異常が発生した場合、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く。

- ・電源コード/プラグがいたんだ場合
- ・製品から異常なおいや煙が出た場合
- ・製品の内部に異物が入った場合
- ・使用中に音が出なくなった場合

そのまま使用を続けると、感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。

⚠ 注意

電源 / 電源コード



禁止

たこ足配線をしない。

音質が劣化したり、コンセント部が異常発熱して火災の原因になることがあります。



必ず実行

電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く。

電源コードが破損して、感電や火災の原因になることがあります。



必ず実行

長期間使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。

感電や火災、故障の原因になることがあります。

組み立て



必ず実行

本書の組み立て方の説明をよく読み、手順どおりに組み立てる。

手順どおりに正しく組み立てないと、楽器が破損したりお客様がけがをしたりする原因になります。

設置



禁止

不安定な場所に置かない。

本体が転倒して故障したり、お客様やほかの方々がかげがをしたりする原因になります。



必ず実行

この製品を持ち運びする場合は、必ず2人以上で行なう。

この製品を1人で無理に持ち上げると、腰を痛めたり、この製品が落下して破損したり、お客様やほかの方々がかげがをしたりする原因になります。



必ず実行

本体を移動するときは、必ず電源コードなどの接続ケーブルをすべて外した上で行なう。

コードをいためたり、お客様やほかの方々転倒したりするおそれがあります。



必ず実行

この製品を電源コンセントの近くに設置する。

電源プラグに容易に手の届く位置に設置し、異常を感じた場合にはすぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。また、電源スイッチを切った状態でも微電流が流れています。この製品を長時間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

接続



必ず実行

すべての機器の電源を切った上で、ほかの機器と接続する。また、電源を入れたり切ったりする前に、機器のボリュームを最小にする。

感電、聴力障害または機器の損傷の原因になります。



必ず実行

演奏を始める前に機器のボリュームを最小にし、演奏しながら徐々にボリュームを上げて、適切な音量にする。

聴力障害または機器の損傷の原因になります。

取り扱い



禁止

キーカバーや本体のすき間に手や指を入れない。また、キーカバーで指などはさまないように注意する。

お客様がけがをするおそれがあります。



禁止

キーカバーやパネル、鍵盤のすき間から金属や紙片などの異物を入れない。

感電、ショート、火災、故障や動作不良の原因になることがあります。



禁止

本体の上ののったり重いものをのせたりしない。また、ボタンやスイッチ、入出力端子などに無理な力を加えない。

本体が破損したり、お客様やほかの方々がかげがをしたりする原因になります。



禁止

大きな音量で長時間ヘッドフォンを使用しない。

聴覚障害の原因になります。



イス



禁止

不安定な場所に置かない。

イスが転倒して、お客様やほかの方々がかげがをする原因になります。



禁止

イスで遊んだり、イスを踏み台にしたりしない。

イスが転倒したりこわれたりして、お客様がかげがをする原因になります。



禁止

イスには二人以上ですわらない。

イスが転倒したりこわれたりして、お客様がかげがをする原因になります。



禁止

イスにすわったままでイスの高さを調節しない。

高低調節機構に無理な力が加わり、高低調節機構がこわれたりお客様がかげがをしたりする原因になります。



必ず実行

イスのネジを定期的に締め直す。

イスを長期間使用すると、イスのネジがゆるむことがあります。ネジがゆるんだ場合は、付属のスパナで締め直してください。



必ず実行

イスの脚で床やたみを傷つけないよう注意する。

イスの下にマットを敷くなどして、床やたみを保護されることをおすすめします。



必ず実行

小さなお子様の後方への転倒に注意する。

背もたれがないため、後方へ転倒してけがをするおそれがあります。

- データが破損したり失われたりした場合の補償はいたしかねますので、ご了承ください。
- 不適切な使用や改造により故障した場合の保証はいたしかねます。

使用後は、必ず電源スイッチを切りましょう。

[o](スタンバイ/オン)スイッチを切った状態(電源ランプが消えている)でも微電流が流れています。[o](スタンバイ/オン)スイッチが切れているときの消費電力は、最小限の値で設計されています。この製品を長時間使用しないときは必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

注記(ご使用上の注意)

製品の故障、損傷や誤動作、データの損失を防ぐため、以下の内容をお守りください。

■ 製品の取り扱いに関する注意

- テレビやラジオ、ステレオ、携帯電話などの電気製品の近くで使用しないでください。楽器本体またはテレビやラジオなどに雑音が生じる原因になります。iPad、iPhone、iPod touchのアプリケーションと一緒に使用する場合は、通信によるノイズを避けるためiPad、iPhone、iPod touchの機内モードをオンにしてお使いいただくことをおすすめします。
- 直射日光のあたる場所(日中の車内など)やストーブの近くなど極端に温度が高くなる場所、逆に温度が極端に低いところ、また、ほこりや振動の多いところで使用しないでください。本体のパネルが変形したり、内部の部品が故障したり、動作が不安定になったりする原因になります(5℃~40℃の範囲で動作することを確認しています)。
- 本体上にビニール製品やプラスチック製品、ゴム製品などを置かないでください。本体のパネルや鍵盤が変色/変質する原因になります。

■ 本体やイスのお手入れ

この楽器をいつまでもきれいに保つため、下記のお手入れを定期的に行なうことをおすすめします。

- 手入れするときは、乾いたガーゼやネルのような柔らかい布、または水を固くしぼった柔らかい布をご使用ください。鍵盤の頑固な汚れには「エレクトーン・クラビノーバ用鍵盤クリーナー」をお使いください。ベンジンやシンナー、洗剤、化学ぞうきんなどを使用すると、変色/変質する原因になりますので、使用しないでください。
- 極端に湿度が変化すると、本体表面に水滴がつく(結露)することがあります。水滴をそのまま放置すると、木部が水分を吸収して変形する原因になります。水滴がついた場合は、柔らかい布ですぐに拭きとってください。
- ペダルは一般的なアコースティックピアノ同様経年変化によって変色することがあります。その際はピアノ用コンパウンドを楽器店などでご購入求めいただき、使用上の注意をよくご確認のうえご使用ください。

■ データの保存に関する注意

- 楽器本体に保存したデータは故障や誤操作などのために失われることがあります。大切なデータは、USB記憶装置/コンピューターなどの外部機器に保存してください。
- 保存したUSB記憶装置の万一の事故に備えて、大切なデータは予備のUSB記憶装置にバックアップとして保存されることをおすすめします。

お知らせ

■ データの著作権に関するお願い

- ヤマハ(株)および第三者から販売もしくは提供されている音楽/サウンドデータは、私的使用のための複製など著作権法上問題にならない場合を除いて、権利者に無断で複製または転用することを禁じられています。ご使用時には、著作権の専門家にご相談されるなどのご配慮をお願いします。
- この製品は、ヤマハ(株)が著作権を有する著作物やヤマハ(株)が第三者から使用許諾を受けている著作物を内蔵または同梱しています。その著作物とは、すべてのコンピュータープログラムや、伴奏スタイルデータ、MIDIデータ、WAVEデータ、音声記録データ、楽譜や楽譜データなどのコンテンツを含みます。ヤマハ(株)の許諾を受けることなく、個人的な使用の範囲を超えて上記プログラムやコンテンツを使用することについては、著作権法等に基づき、許されていません。

■ 製品に搭載されている機能/データに関するお知らせ

- 内蔵曲は、曲の長さやイメージが原曲と異なる場合があります。
- 本製品には、株式会社リコーのBitmap Fontが使われています。
- この製品には、オーディオファイルの再生およびオーディオ録音の機能はありません。また、本体のUSB [TO HOST]/MIDI端子とコンピューターやiPad/iPhoneを接続しても、オーディオデータの通信は行なわれません。

■ 調律について

- 調律の必要はありません。電源を入れるといつでも正しいピッチ(音の高さ)でお使いいただけます。

■ 取扱説明書の記載内容に関するお知らせ

- この取扱説明書に掲載されているイラストや画面は、すべて操作説明のためのものです。したがって、実際の仕様と異なる場合があります。
- Mac、Macintosh、iPad、iPhone、iPod touchは、米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。
- MIDIは社団法人音楽電子事業協会(AMEI)の登録商標です。
- その他、本書に記載されている会社名および商品名等は、各社の登録商標または商標です。

このたびは、ヤマハ電子ピアノをお買い求めいただきまして、誠にありがとうございました。
この楽器の優れた機能を十分に生かして演奏をお楽しみいただくため、本書をお読みください。
また、お読みになったあとも、いつでもご覧になれるところに大切に保管してください。

付属品(お確かめください)

- 取扱説明書(本書)
- ピアノで弾く名曲50選(楽譜集)
- 保証書
- ユーザー登録のご案内
ユーザー登録の際に必要なプロダクトIDが記載されています。
- 電源コード
- ヘッドフォン
- イス

取扱説明書について

この楽器には、以下の説明書が用意されています。

冊子マニュアル



取扱説明書(本書)

この楽器の機能や使いかたを説明しています。

- **基本編**
ご使用前の準備について説明しています。簡単な準備だけでピアノ演奏を楽しめます。さっそく音を出してみましょう。
- **応用編**
内蔵曲を再生したり、演奏を録音するなど、練習に役立つ機能について説明しています。
- **詳細設定編**
この楽器をさらに便利に使いこなすための細かい設定について説明しています。
- **付録**
音色一覧(詳細版)やメッセージ一覧などの資料を掲載しています。

電子マニュアル(PDF)



iPhone/iPad接続マニュアル

この楽器をiPhoneやiPadなどのスマートデバイスと接続する方法を説明しています。



コンピューターとつなぐ

この楽器をコンピューターと接続する方法を説明しています。



MIDIリファレンス

エフェクトやMIDIに関する資料が掲載されています。

電子マニュアルは、ヤマハ ダウンロードのウェブサイトからご覧いただけます。インターネットに接続して以下のウェブサイトを開き、「モデル名から検索」テキストボックスにモデル名(「SCLP-5450」など)を入力して「検索」をクリックします。

ヤマハ ダウンロード

<http://download.yamaha.com/jp/>

特長



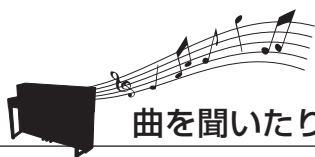
本格的なピアノ演奏を楽しみましょう

▶▶ 20、26ページ

ヤマハ最上位コンサートグランドピアノCFXからサンプリングした音色、そしてグランドピアノと同様に、高速の同音連打も可能な鍵盤を搭載。本格的な音とタッチにより、グランドピアノを弾いているような感覚で演奏できます。また、ウイナー トーンで有名なベーゼンドルファー社*のコンサートグランドピアノからサンプリングした音色を含む、15種類のピアノ音色を搭載しており、曲想に合わせてピアノ音色をお選びいただけます。また、この楽器では、ダンパーペダルを使用したときの広がりや奥行のある共鳴音を再現した「ダンパーレゾナンス」、アコースティックピアノ独特の弦同士の共鳴「ストリングレゾナンス」を採用し、ピアノの響きを再現しています。

アコースティックピアノさながらの多彩で豊かな響きをどうぞお楽しみください。

*ベーゼンドルファー社は、ヤマハのグループ会社です。



曲を聞いたり、弾いて練習しましょう

▶▶ 33ページ

ピアノの名曲としてなじみの深い「ピアノ50選」、有名なクラシック曲を厳選した「クラシック50曲」、さらに、練習に役立つ「レッスン」用の303曲が内蔵されています。聞いて楽しむのはもちろん、右手部分をオフ（消音）にして、左手部分だけをオン（再生）にし、オフにした部分をご自分で弾いて練習することも可能です*。「レッスン」用の303曲には、ピアノの代表的な教則本であるバイエル、ブルグミュラー、チェルニー100番、チェルニー30番、ハノンを収録しています。ぜひご活用ください。

*この機能は、右手部分、左手部分に分かれている曲を選んだ場合にのみ使えます。



20種類のリズムを内蔵 (SCLP-5450)

▶▶ 43ページ

SCLP-5450には、よく使われるシンプルナリズム20種類が搭載されています。ご自分の演奏にリズムを加えることができるので、さまざまなジャンルの曲をより華やかに演奏できます。ポピュラーやジャズを想定したリズムの中からお気に入りのものを探し出し、鳴らしながら一緒に演奏してみましょう。



演奏を録音しましょう

▶▶ 44ページ

この楽器は、MIDI録音の機能を備えています。録音機能を使って、ご自分の演奏を楽器本体やUSBフラッシュメモリー（別売）に保存できます。MIDI録音はトラックごとの録音にも対応していますので、両手で弾くのが難しい曲は、右手の演奏を録音してから、左手の演奏を重ねて録音することで、1つの曲に仕上げることができます。

目次

安全上のご注意	2
注記(ご使用上の注意)	6
お知らせ	6
付属品(お確かめください)	7
取扱説明書について	7
特長	8

基本編 10

各部の名前と機能	10
操作パネル	10
ピアノとして演奏する	12
電源を入れる/切る	12
譜面立てを使う	14
譜面止めを使う(SCLP-5450)	14
音量を調節する	15
ヘッドフォンを使う	16
ペダルを使う	17
基本操作	18
3大機能	18
詳細設定	18

応用編 20

いろいろな楽器音(音色)で演奏する	20
音色を選んで弾く	20
デモ曲を聞く	23
音に効果をかける	25
2つの音色を重ねて鳴らす(デュアル)	27
鍵域を左右に分けて別々の2つの音色で弾く(スプリット)	28
スプリットとデュアルを同時に使う	29
メトロノームを使う	30
タッチ感度を変える	32
曲を再生する、練習する	33
曲を再生する	33
右手または左手パートだけを再生する	37
繰り返し再生する	38
音量バランスを調節する	41
再生に関するその他の機能	42
リズムに合わせて弾く(SCLP-5450)	43
演奏を録音する	44
録音の方法	44
簡単に録音する	44
トラックを指定して録音する	47
USBフラッシュメモリーに録音する	49
そのほかの録音方法とテクニック	50

曲ファイル进行操作する	54
曲の種類とファイル操作の制限	54
曲ファイルの基本操作	55
曲を削除する	56
曲をコピーする	56
曲を移動する	57
曲名を変更する	58

他の機器と接続する	59
端子について	59
USB機器を接続する(USB [TO DEVICE]端子)	61
コンピューターと接続する(USB [TO HOST]端子)	62
外部MIDI機器と接続する(MIDI端子)	62
iPhone/iPadと接続する(USB [TO DEVICE]端子、 USB [TO HOST]端子、MIDI端子)	63

詳細設定編 69

基本操作	69
音色メニュー	70
曲メニュー	74
メトロノームメニュー	77
録音メニュー	78
システムメニュー	79

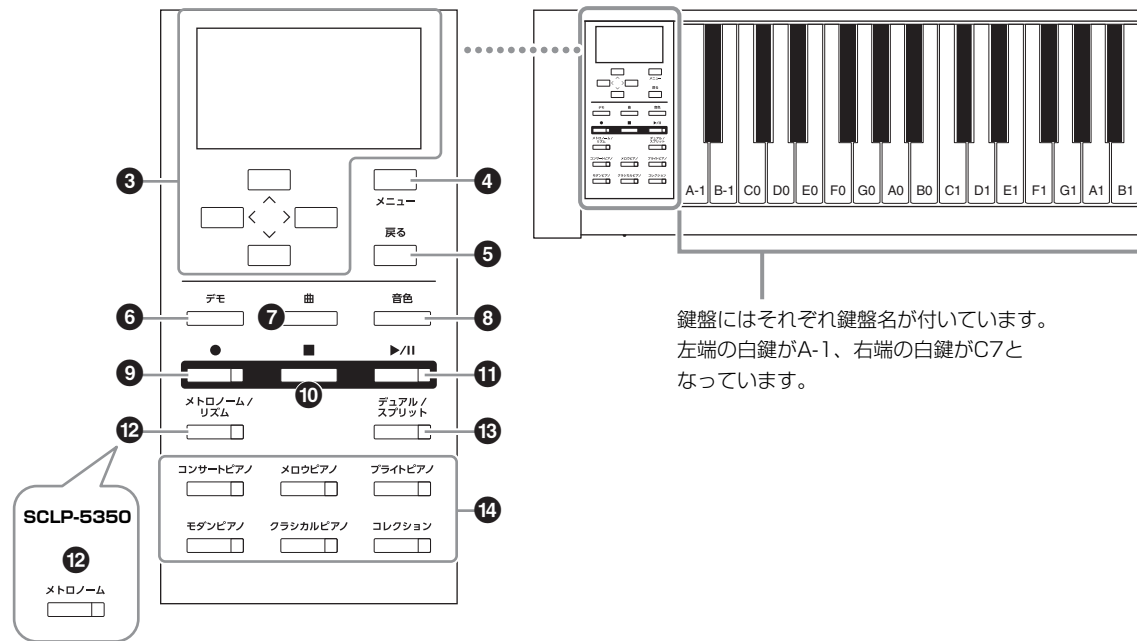
付録 85

音色一覧(詳細版)	85
曲一覧	87
音色デモ曲	87
ピアノ50選	87
クラシック50曲	88
レッスン曲	88
リズム一覧	89
メッセージ一覧	90
困ったときは	92
楽器を組み立てる	94
組み立て時の注意	94
仕様	97
別売ミュージックデータ紹介	99
ミュージックデータのご使用にあたって	99
索引	100
保証とアフターサービス	103

各部の名前と機能

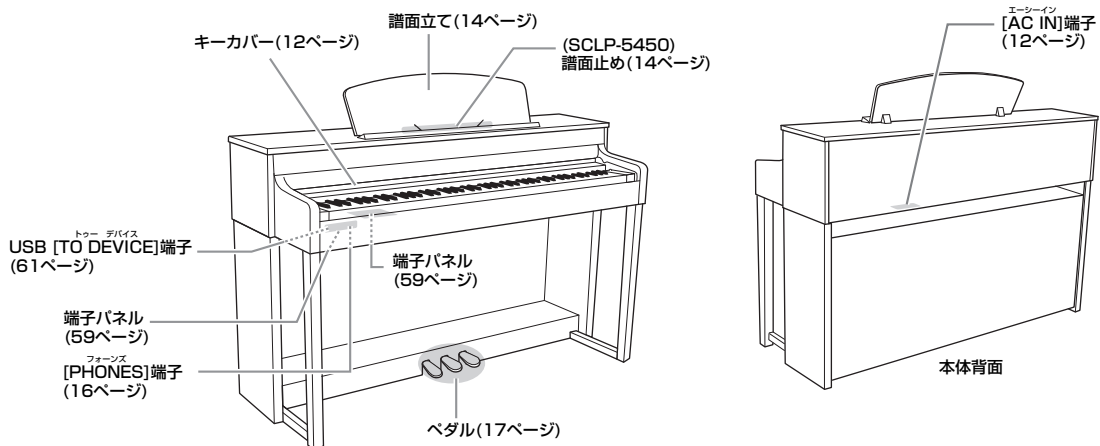
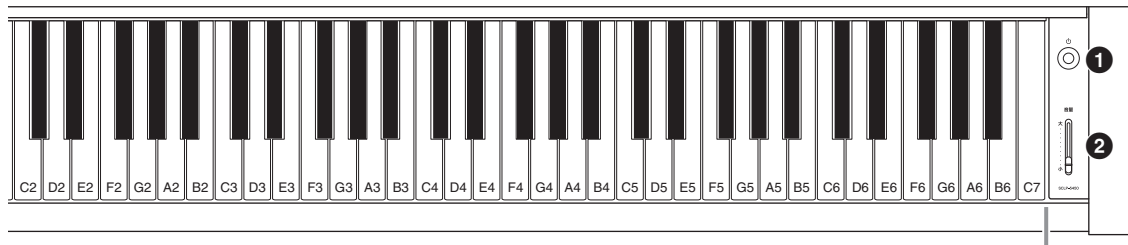
イラストはSCLP-5450のものです。

操作パネル



鍵盤にはそれぞれ鍵盤名が付いています。
左端の白鍵がA-1、右端の白鍵がC7と
なっています。

- ① [⏻] (スタンバイ/オン) スイッチ 12ページ
電源のスタンバイ/オンを切り替えます。
- ② [音量] スライダー 15ページ
楽器全体の音量を調節します。
- ③ [^]/[v]/[<]/[>] ボタン、画面 18ページ
画面内の項目を選んだり、選んだ項目の値を変更するときに使います。
- ④ [メニュー] ボタン 25、69ページ
押すたびに音色メニュー、曲メニュー、メトロノームメニュー、録音メニュー、システムメニューの5つの画面が切り替わります。各画面で、関連する機能の詳細な設定ができます。
- ⑤ [戻る] ボタン 19、22、35ページ
現在の画面から抜けて、音色画面や曲画面に戻りたいときに使います。
- ⑥ [デモ] ボタン 23ページ
音色の特徴がわかるデモ曲などを選ぶときに使います。
- ⑦ [曲] ボタン 34ページ
再生や編集する曲を選びます。
- ⑧ [音色] ボタン 21ページ
現在選ばれている音色を表示します。
- ⑨ [●] (録音) ボタン 45ページ
ご自身の演奏を録音します。
- ⑩ [■] (ストップ) ボタン 35、45ページ
再生中の曲をストップしたり、録音を終了したりします。
- ⑪ [▶/||] (スタート/一時停止) 35、45ページ
楽器本体に入っている曲や録音した演奏などを再生したり、一時停止したりします。
- ⑫ [メトロノーム/リズム] ボタン (SCLP-5450) 30、43ページ
メトロノームやリズムを鳴らしたり、拍子を設定したりします。
[メトロノーム] ボタン (SCLP-5350) 30ページ
メトロノームを鳴らしたり、拍子を設定したりします。
- ⑬ [デュアル/スプリット] ボタン 27、28、29ページ
音色を重ねたり、鍵盤の左右で違う音を鳴らしたいときに使います。
- ⑭ 音色グループボタン 20ページ
音色を選びます。



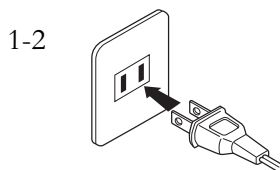
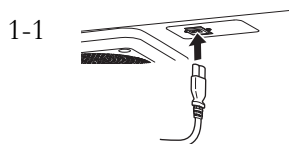
ピアノとして演奏する

この楽器では、ペダルを使ってアコースティックピアノと同様の演奏ができます。また、ピアノ演奏に役立つメトロノーム機能も搭載しています。付属の楽譜集「ピアノで弾く名曲50選(楽譜集)」をご活用ください。

電源を入れる/切る

1. 電源コードを接続します。

最初に本体側のプラグを^{エーシーイン}[AC IN]端子に差し込み、次にコンセント側(家庭用AC100V)のプラグを差し込みます。[AC IN]端子の位置は「各部の名前と機能」(11ページ)でご確認ください。



2. キーカバーを開けます。

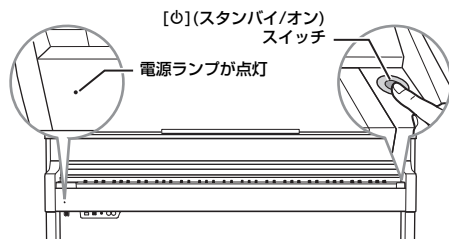
少し持ち上げて奥へ押し込むと、鍵盤の左側に操作パネルが見え、キーカバーが完全に開いた状態になります。鍵盤演奏だけでなく、操作パネルを使って、音色を選んだり、曲を再生/録音したりできます。



注意
手や指をはさまないように注意

3. 鍵盤右端の[φ](スタンバイ/オン)スイッチを押して、電源を入れます。

鍵盤左端の画面が表示が現れ、本体前面左の電源ランプが点灯します。



注意

- キーカバーを開閉するときは、両手でゆっくりと行なってください。また、ご自分や周りの方、特にお子様などが、キーカバーの縁と本体の間に手や指をはさまないようにご注意ください。
- キーカバーを開けると、キーカバーの上に金属や紙片などを置かないでください。本体の内部に落ちて取り出せなくなり、感電、ショート、発火や故障などの原因になります。

4. 鍵盤右端の[音量]スライダーで音量を調節します。

鍵盤を弾いて音を出しながら調節してください。詳しくは、「音量を調節する」(15ページ)をご参照ください。

5. 楽器を使い終わったら、[⏻](スタンバイ/オン)スイッチを1秒以上押し続けて電源を切ります。

画面の表示が消え、本体前面左の電源ランプも消灯します。

オートパワーオフ機能

この楽器は、電源の切り忘れによる無駄な電力消費を防ぐため、オートパワーオフ機能を搭載しています。これは、本体が一定時間操作されないと自動的に電源が切れる機能です。電源が切れるまでの時間は、初期設定では30分ですが、変更することもできます(82ページ)。

6. キーカバーを閉めます。

手前に引いて、静かに降ろします。



注意
手や指をはさまないように注意

注意

電源が切れた状態でも微電流が流れています。楽器を長時間使用しないときは、必ずコンセントから電源プラグを抜いてください。

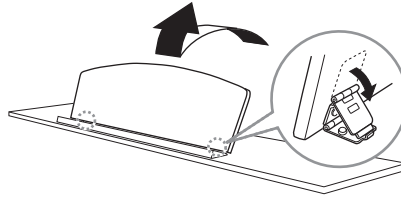
注記

- オートパワーオフ機能により電源が切れると、保存していない録音データは失われます。ご注意ください。
- 本体の状態によっては、一定時間操作せずにオートパワーオフの設定時間が経過しても、電源が切れない場合があります。使用後は、手動で本体の電源を切ってください。

譜面立てを使う

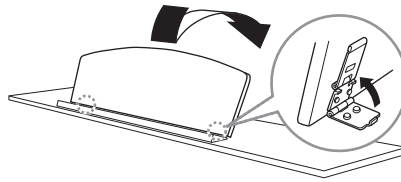
立てるとき

1. 譜面立てを、止まる位置まで手前に起こします。
2. 譜面立て裏にある左右2つの金具を下ろします。
3. 金具が固定される位置まで、譜面立てを戻します。



倒すとき

1. 譜面立てを、止まる位置まで手前に起こします。
2. 譜面立て裏にある左右2つの金具を上げます。
3. 譜面立てに手を添えて、ゆっくり戻します。



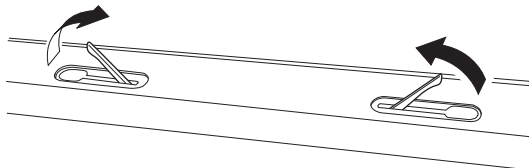
⚠ 注意

金具が固定されていない位置で譜面立てを使用したり、放置したりしないでください。また、譜面立てを立てたり倒したりするときは、途中で手を離さないでください。

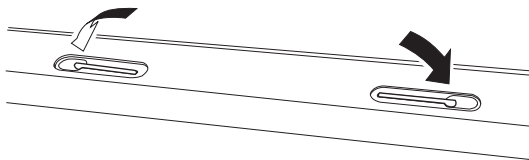
譜面止めを使う (SCLP-5450)

譜面立てに置いた楽譜のページを止めることができます

使うとき

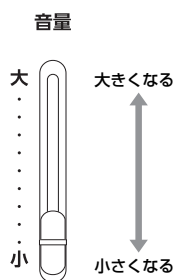


しまうとき



音量を調節する

鍵盤右端の[音量]スライダーで調節します。実際に鍵盤を弾いて音を出しながら、音量を調節してください。



NOTE

[音量]スライダーを動かすと、[PHONES]端子やAUX OUT端子の出力レベルも変更されます。

⚠ 注意

大きな音量で長時間使用しないでください。聴覚障害の原因になります。

インテリジェント・アコースティック・コントロール(IAC)

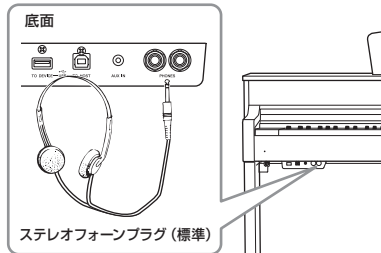
IACとは、楽器の全体音量の大小に応じて、自動的に音質を補正する機能です。音量が小さい場合でも、低音や高音がしっかりと聞こえるようになります。

IACは、この楽器のスピーカーからの出力音のみに有効です。

システムメニュー画面の「音響」→「IAC」で、この機能のオン/オフを切り替えられます(80ページ)。初期設定はオンです。

ヘッドフォンを使う

ヘッドフォンを^{フォンス}[PHONES]端子に接続して使います。[PHONES]端子は2つありますので、ヘッドフォンを2本接続して2人で演奏を楽しむこともできます。1本だけ接続する場合は、どちらの端子をご使用いただいても構いません。



⚠ 注意

大きな音量で長時間ヘッドフォンを使用しないでください。聴覚障害の原因になります。

別売ヘッドフォン

ヤマハヘッドフォン：HPE-160

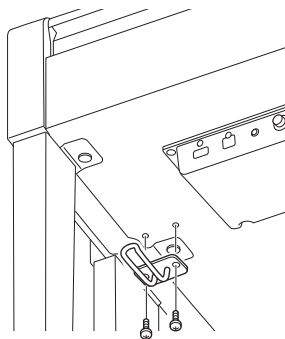
音の距離感を再現する(ステレオフィニックオプティマイザー) (SCLP-5450)

ステレオフィニックオプティマイザーは、ヘッドフォンの音に対して、アコースティックピアノの前に座って弾いているかのような音の広がり再現する機能です。通常、ヘッドフォンでは、音が耳のすぐそばで鳴っているように聞こえますが、この機能がオンの場合は、ピアノ本体から音が鳴っているような自然な距離感を体験できます。

システムメニュー画面の「音響」→「SP オプティマイザー」で、この機能を有効(HP)にするか無効(オフ)にするかを切り替えられます(80ページ)。初期設定では有効になっています。

ヘッドフォンハンガー

付属のヘッドフォンハンガーを取り付けると、本体にヘッドフォンを掛けられます。付属のネジ(4×10mm) 2本で、図のように取り付けてください。

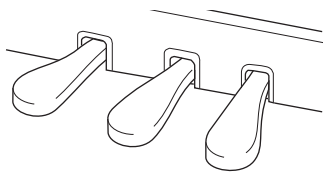


注記

ヘッドフォンハンガーにヘッドフォン以外のものを掛けしないでください。本体またはヘッドフォンハンガーが破損する場合があります。

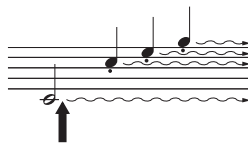
ペダルを使う

この楽器には、3本のペダルが付いています。



右のペダル(ダンパーペダル)

このペダルを踏むと、鍵盤から指を離しても音が長く響きます。またこの楽器では、ダンパーレゾナンス対応のピアノ音色を選択して踏んだ場合は、よりリアルな共鳴音(レゾナンス)を付加できます。



ここでダンパーペダルを踏むと、このとき押さえていた鍵盤とそのあと弾いた音すべてが長く響く

NOTE

音色メニュー画面の「ペダル割り当て」を使って、各ペダルへ別の機能を割り当てることができます(72ページ)。

NOTE

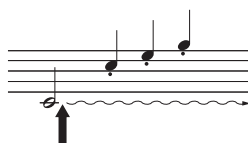
ダンパーレゾナンス対応のピアノ音色については、「音色一覧(詳細版)」(85ページ)を確認してください。

ハーフペダル機能

ダンパーペダルを踏んでいない状態と、完全に踏み込んだ状態の中間の状態を「ハーフペダル」といい、グランドピアノのダンパーが弦に触れるか触れないかの微妙な状態を指します。この楽器のダンパーペダルはハーフペダルに対応しており、どの程度踏み込んだらハーフペダル効果がかかるか(ハーフペダルポイント)を、システムメニュー画面の「ペダル」→「ハーフペダルの位置」で設定できます(80ページ)。

まん中のペダル(ソステヌートペダル)

このペダルを踏んだときに押さえていた鍵盤の音だけが、鍵盤から指を離しても長く響きます。ペダルを踏んだあとに弾いた音には効果はかかりません。



ここでソステヌートペダルを踏むと、このとき押さえていた鍵盤の音だけが長く響く

NOTE

ストリングスやオルガンなどの音色では、まん中のペダルを踏むと、音が減衰せずに持続して鳴り続けます。

まん中のペダル/左のペダルへの再生/一時停止機能割り当て

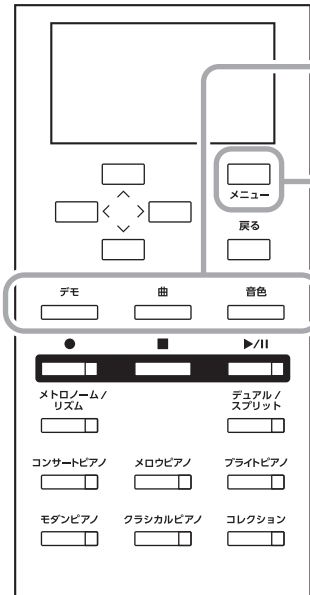
システムメニュー画面の「ペダル」→「再生/一時停止」で、まん中のペダルか左のペダルへパネル上の「▶/■」(スタート/一時停止)ボタンと同じ機能を割り当てることができます(80ページ)。

左のペダル(ソフトペダル)

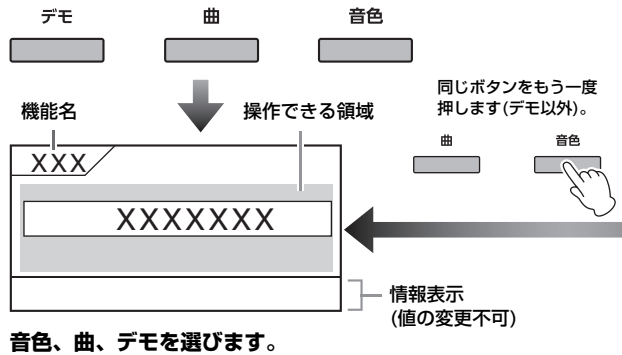
このペダルを踏んでいる間、ペダルを踏んだあとに弾いた鍵盤の音量をわずかに下げ、音の響きを柔らかくします。ペダルを踏んだときに押さえていた鍵盤の音には効果はかかりませんので、効果をかけたい場合は、ペダルを踏んでから鍵盤を弾きます。ただし、「メロウオルガン」音色を選ぶとロータリースピーカーの回転の速い/遅いの切り替え(ロータリースピード)、「ビブラフォン」音色を選ぶとビブラートのオン/オフ(バイプローター)機能に切り替わります(73ページ)。

基本操作

パネル中央の3つのボタンを押すことで、この楽器の3大機能である音色(20ページ)、曲(33ページ)、デモ(23ページ)の各画面を呼び出せます。これらの機能を使って演奏をしたり、いろいろな機能を使うことができます。また、[メニュー]ボタンを使って楽器の詳細設定を行なうと、さらに楽しく便利に楽器を使いこなすことができます。

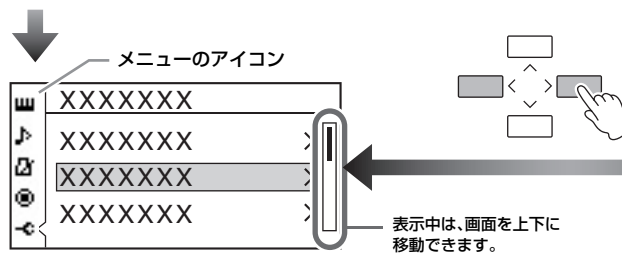


3大機能

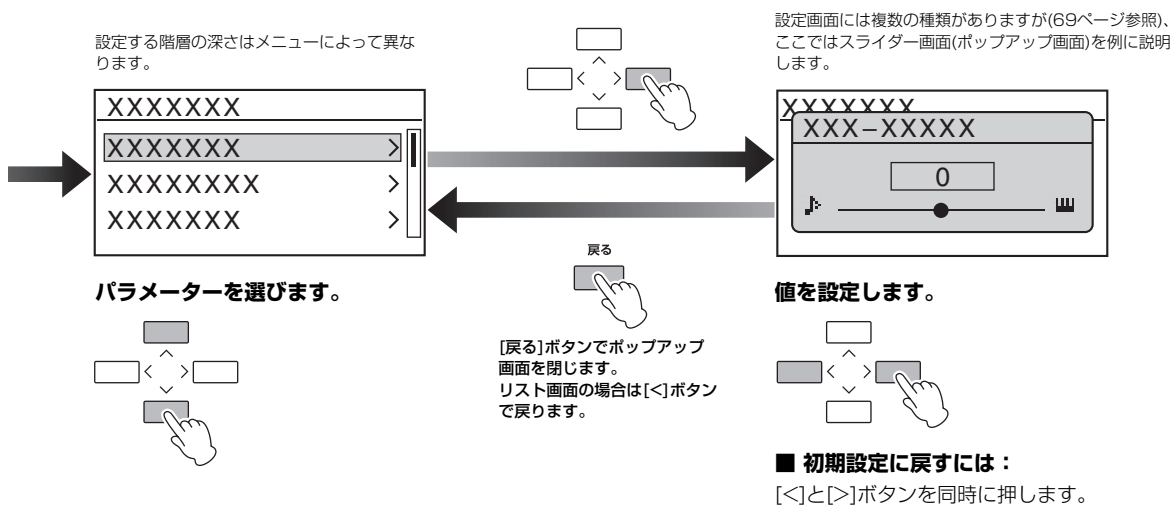
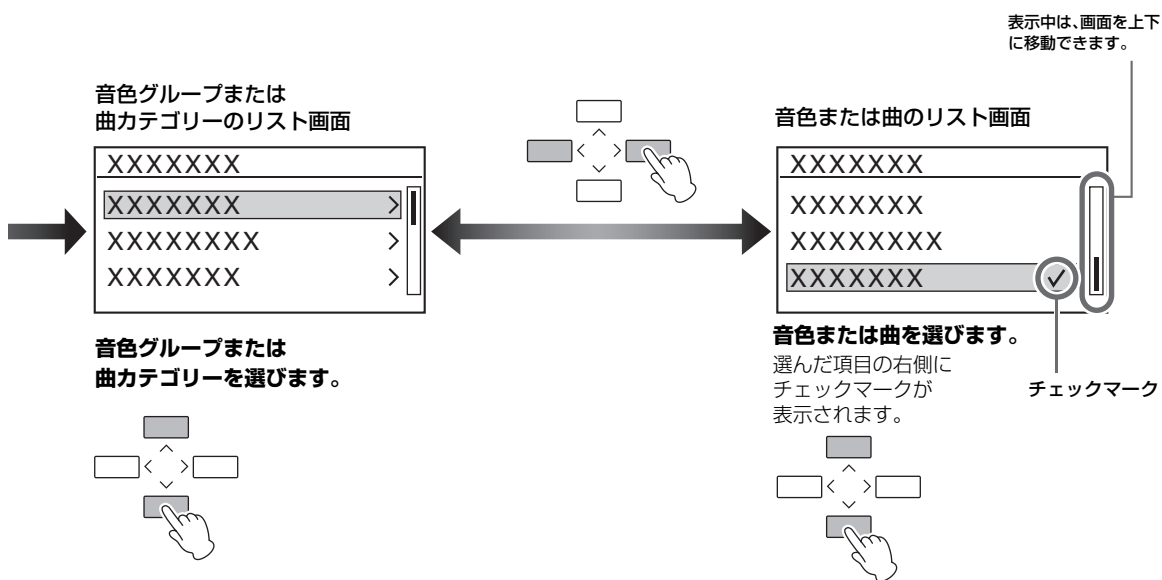


詳細設定

[メニュー]ボタンを何度か押して、目的の画面を選びます。
メニュー



音色： 鍵盤を弾いたときに鳴る楽器音です。ピアノ以外にもさまざまな音で演奏を楽しむことができます。
曲： 曲データのことです。聞いて楽しんだり、曲に合わせて演奏したりできます。
デモ： 音色の特徴がわかる音色デモ曲と、各DSP技術、サンプリング技術ごとの特徴がわかるピアノデモのことです。



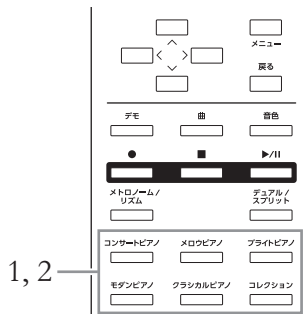
いろいろな楽器音(音色)で演奏する

ピアノのほかに、オルガンや弦楽器などの楽器音(音色)を選んで弾くことができます。電源を入れた直後は「CFX グランド」の音色が選ばれています。

音色を選んで弾く

この楽器に内蔵されたたくさんの音色は、グループ別に分けられ、パネル上の音色グループボタンに割り当てられています。音色を選ぶには、音色グループボタンを使う方法と、音色リスト画面から選ぶ方法の2つがあります。

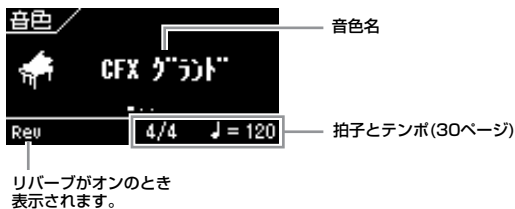
音色グループボタンを使って選ぶ



1. 音色グループボタンを押して、音色グループを選びます。

ボタンに割り当てられた音色の1つが選ばれ、画面に表示されます。鍵盤を弾いて音を出してみましょう。

音色画面



2. 手順1で選んだ音色グループボタンを押すたびに、グループ内の音色を順番に選べますので、好きな音色を選びます。

[<]/[>]ボタンを押すことでも、現在選ばれている音色の前後の音色を順番に選べます。選択範囲は現在の音色グループ(点灯している音色グループボタン)内です。グループ内の先頭の音色を選ぶには、[<]と[>]ボタンを同時に押します。85ページの「音色一覧(詳細版)」を参考にしてください。

3. 鍵盤を弾いてみましょう。

音色の特徴をつかむには

音色ごとのデモ曲を聞いたり(23ページ)、「音色一覧(詳細版)」(85ページ)の「音色紹介」欄を参照したりしてください。

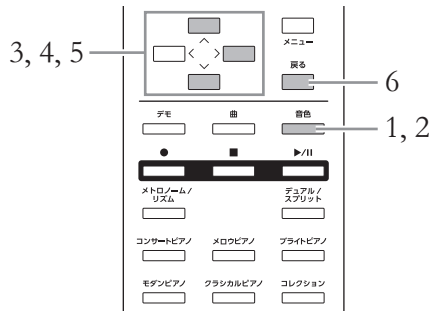
NOTE

音色によっては、鍵盤を弾く強さに応じた音の強弱(タッチ感度: 79ページ)が付かないものもあります。どの音色にタッチ感度が付くかは、「音色一覧(詳細版)」(85ページ)の「タッチ感度」欄を確認してください。

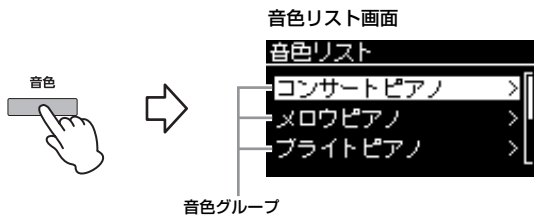
NOTE

別の音色グループボタンを押すと、前回そのグループで最後に選んだ音色が選ばれます。

音色のリスト画面から選ぶ

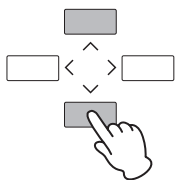


1. [音色]ボタンを押して、音色画面を表示させます。
2. もう一度[音色]ボタンを押して、音色リスト画面を表示させます。
音色グループのリストが表示されます。現在選ばれている音色グループが反転表示されています。

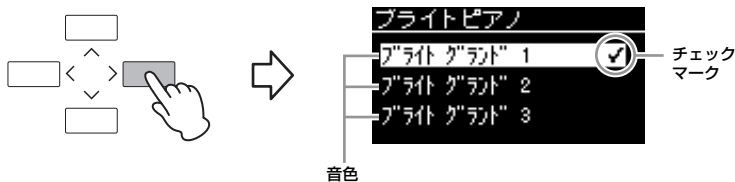


[音色]ボタンを押すたびに、音色画面と音色リスト画面が交互に表示されます。

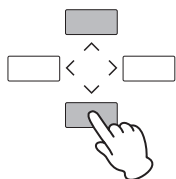
3. [△]/[▽]ボタンで音色グループを選びます。
選びたい音色グループを反転表示させます。



4. [>]ボタンを押します。
選んだグループ内の音色が表示されます。



5. [△]/[▽]ボタンで音色を選びます。



リスト画面で音色を選択するとチェックマークがつき、選んだ音色に変わります。

6. [戻る]ボタンを押して、音色画面に戻ります。

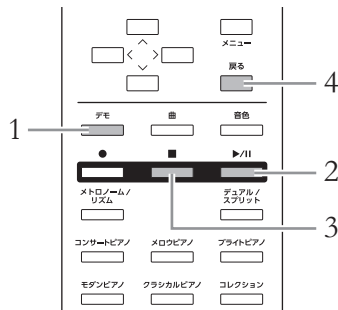
7. 鍵盤を弾いてみましょう。

デモ曲を聞く

デモ曲には、音色の特徴がわかる音色デモ曲と、各DSP技術、サンプリング技術ごとの特徴がわかるピアノデモ(24ページ)の2種類があります。

音色の特徴がわかる音色デモ曲を聞く

音色グループごとに数曲ずつ、音色の特徴がわかる音色デモ曲が入っています。どの音色にデモ曲が用意されているかは、音色一覧(85ページ)をご覧ください。



1. [デモ]ボタンを押して、デモモードに入ります。

現在選ばれている音色グループボタンが点灯し、グループ内の先頭のデモ曲が表示されます。

2. [▶/||](スタート/一時停止)ボタンを押して、再生をスタートします。

再生をストップするまで、点灯している音色グループボタンの左上から順にデモ曲が連続して再生されます。音色グループボタンごとに数曲のデモ曲が再生されます。

前のデモ曲/次のデモ曲を選ぶ

[<]/[>]ボタンを押すことで、現在選ばれているデモ曲の前後のデモ曲を順番に選べます。選択範囲は音色デモ曲すべてです。先頭のデモ曲を選ぶには、[<]と[>]ボタンを同時に押します。

音色グループボタンを使って、音色グループ内で順番に選ぶこともできます。

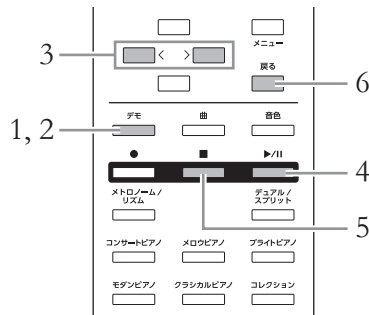
3. [■](ストップ)ボタンを押して、再生をストップします。

4. [戻る]ボタンを押して、デモモードを抜けます。

モードとは

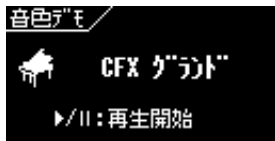
ある機能を実行できる状態を意味します。ここでは、デモ曲を再生できる状態のことを「デモモード」と呼んでいます。

ピアノデモ(各DSP技術、サンプリング技術)を聞き比べる



1. [デモ]ボタンを押して、デモモードに入ります。

音色デモ画面が表示されます。



2. もう一度[デモ]ボタンを押して、ピアノデモが選べる画面を表示させます。

現在選ばれているピアノデモの名前が表示されています。

[デモ]ボタンを押すたびに、音色デモ曲を選べる画面とピアノデモを選べる画面が、交互に表示されます。

3. [<]/[>]ボタンを使って、下記の表を参考に、聞きたいデモを選びます。

先頭のデモを選ぶには、[<]と[>]ボタンを同時に押します。

ピアノデモリスト		
1	CFX グランド サンプリング	
2	ベーゼンドルファー サンプリング	
3	ダンパーレゾナンス	アリ
4	ダンパーレゾナンス	ナシ
5	キーオフサンプル	アリ
6	キーオフサンプル	ナシ
7	ストリングレゾナンス	アリ
8	ストリングレゾナンス	ナシ

4. [▶/||](スタート/一時停止)ボタンを押して、再生をスタートします。

ピアノデモは、1曲が最後まで再生されると自動的にストップし、連続再生はされません。

5. [■](ストップ)ボタンを押して、再生をストップします。

6. [戻る]ボタンを押して、デモモードを抜けます。

DSP

DSPとは デジタルシグナルプロセッサ (Digital Signal Processor)の略で、デジタル信号を加工してさまざまなエフェクトを作り出す技術のことです。

サンプリング

アコースティック楽器の音を録音して電子ピアノに組み込む技術のことです。

NOTE

ピアノデモは[コンサートピアノ]ボタンに割り当てられていますので、ピアノデモ画面が表示されているときに[コンサートピアノ]ボタンを押して、デモを順番に選ぶこともできます。

NOTE

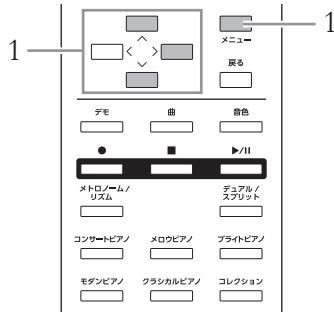
各DSP/サンプリングの説明や、どの音色にDSPがかけられるか、どの音色にサンプリングが適用されているかについては、「音色一覧(詳細版)」(85ページ)を確認してください。また、各効果のかかり具合は、音色メニュー画面の「ピアノ設定」の各項目(70ページ)、音色メニュー画面の「音色編集」→「エフェクトの深さ」(71ページ)で設定できます。

音に効果をかける

効果をかけると、演奏表現に幅を出すことができます。

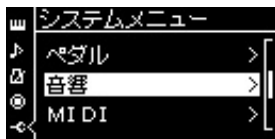
ブリリアンス

音の明るさを調節します。設定は、すべてのパート(手弾き/曲/MIDI)に共通です。



1. [メニュー]ボタンを何度か押してシステムメニュー画面を表示させてから、以下の画面イラストで反転表示された項目を順番に選んでいきます。

システムメニュー画面



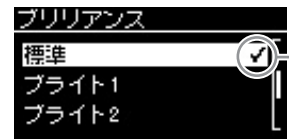
- 1-1. [上]/[下]ボタンで「音響」を選択
- 1-2. [右]ボタンで次へ

音響画面



- 1-3. [上]/[下]ボタンで「ブリリアンス」を選択
- 1-4. [右]ボタンで次へ

ブリリアンス画面



- 1-5. [上]/[下]ボタンで音の明るさを選択

ブリリアンス画面には音の明るさのタイプが表示されますので、[上]/[下]ボタンで選びます。[上]/[下]ボタンを同時に押すと、初期設定に戻ります。

- **メロウ1~3**
柔らかくまるやかな音になります。1、2、3の順で音の柔らかさが増します。
- **標準**
標準的な明るさです。
- **ブライト1~3**
明るい音になります。1、2、3の順で音の明るさが増します。

初期設定：標準

音がひずむ場合は

「ブライト1~3」に設定すると、音量が少し大きくなります。音量が大きくなっている状態では音がひずむことがありますので、音量を少し下げてください。

リバーブ

音に残響を加えます。コンサートホールなどで演奏しているような臨場感が味わえます。音色を選ぶたびに、最適なリバーブタイプが自動で選ばれますが、ご自分で選ぶこともできます。

リバーブタイプをご自分で設定したい場合は、音色メニュー画面の「リバーブ」で設定します(70ページ)。

リバーブタイプの設定は、すべてのパート(手弾き/曲/MIDI)に共通です。

コーラス

音に広がり感を加えます。音色を選ぶたびに、最適なコーラスタイプが自動で選ばれますが、ご自分で選ぶこともできます。

コーラスタイプをご自分で設定したい場合は、音色メニュー画面の「コーラス」で設定します(70ページ)。

コーラスタイプの設定は、すべてのパート(手弾き/曲/MIDI)に共通です。

エフェクト

鍵盤演奏にエコーやトレモロなどの効果をかけられます。効果は音色メニュー画面の「音色編集」→「エフェクト」(71ページ)で選べます。

ダンパーレゾナンス

[コンサートピアノ]ボタン内の音色を選ぶと、自動的にエフェクトにダンパーレゾナンスが選ばれます。

NOTE

リバーブのかかり具合を音色ごとに設定したい場合は、音色メニュー画面の「音色編集」→「リバーブの深さ」で設定します(70ページ)。

NOTE

コーラスのかかり具合を音色ごとに設定したい場合は、音色メニュー画面の「音色編集」→「コーラスの深さ」で設定します(71ページ)。

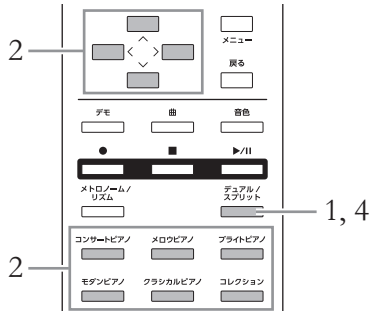
NOTE

ピアノなどコーラスの初期設定がオフの音色にコーラスをかけたい場合は、コーラスタイプにオフ以外の設定を選び、コーラスの深さを0以外に設定してください。

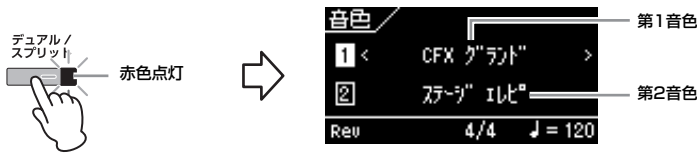
2つの音色を重ねて鳴らす(デュアル)

デュアル=2つの

2つの音色を重ねて鳴らします。系統の違う2つの音色(違う音色グループの音色を組み合わせる)を重ねてデュエットさせたり、同じ系統の2つの音色(同じ音色グループの音色を組み合わせる)を重ねて厚みのある音色を作ったりできます。



1. デュアルをオンにするために、[デュアル/スプリット]ボタンを1回押して、[デュアル/スプリット]ボタンを赤色に点灯させます。



画面の上に表示される音色を第1音色、下を第2音色と呼びます。

2. 重ねる音色を選びます。
 - 2-1. [^]/[V]ボタンを押して、画面の [1] (第1音色)を反転表示させます。
 - 2-2. [<]/[>]ボタンや音色グループボタンを押して音色を選びます。
音色グループボタンは、押すたびにグループ内で音色が切り替わります。
第2音色([2])も同様にして選びます。

3. 鍵盤を弾いてみましょう。
4. デュアルをオフにするには、[デュアル/スプリット]ボタンのランプが消灯するまで[デュアル/スプリット]ボタンを何度か押します。

NOTE

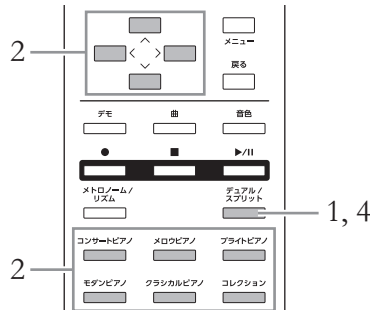
異なる2つの音色グループボタンを同時に押すことでも、デュアルをオンにできます。

NOTE

画面の第1音色 [1] もしくは第2音色 [2] を反転表示させた状態で、音色グループボタンを押すと、その音色グループ内で前回使った音色に変更できます。

鍵域を左右に分けて別々の2つの音色で弾く(スプリット)

鍵盤全体を左右の領域に分け、別々の音色で演奏できます。左側でベースパートを、右側でメロディーパートを演奏したりできます。



1. スプリットをオンにするために、[デュアル/スプリット]ボタンを何度か押して、[デュアル/スプリット]ボタンを緑色に点灯させます。



画面の上に表示される音色が右側の音色、下が左側の音色です。

2. 左右の音色を選びます。
 - 2-1. [^]/[V]ボタンを押して、画面の [R] (右側の音色)を反転表示させます。
 - 2-2. [<]/[>]ボタンや音色グループボタンを押して音色を選びます。
音色グループボタンは、押すたびにグループ内で音色が切り替わります。
左側の音色([L])も同様にして選びます。

3. 鍵盤を弾いてみましょう。

スプリットポイントの変更

スプリットポイントは「F#2」が初期設定になっていますが、変更できます。スプリットがオンの状態で、[デュアル/スプリット]ボタンを押したままスプリットポイントにしたい鍵盤を押します。



4. スプリットをオフにするには、[デュアル/スプリット]ボタンのランプが消灯するまで[デュアル/スプリット]ボタンを何度か押します。

スプリット=分ける
左右の境目をスプリットポイントと呼びます。

NOTE

右側の音色 [R] もしくは左側の音色 [L] を反転表示させた状態で、音色グループボタンを押すと、その音色グループ内で前回使った音色に変更できます。

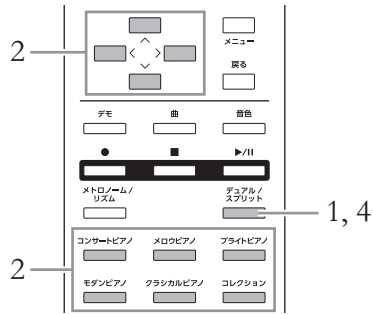
NOTE

スプリットポイントに当たる鍵盤は、左側に属します。

NOTE

スプリットポイントは、システムメニュー画面の「鍵盤」→「スプリットポイント」でも設定できます(79ページ)。

スプリットとデュアルを同時に使う



1. デュアルとスプリットをどちらもオンにするために、[デュアル/スプリット]ボタンを何度か押して、[デュアル/スプリット]ボタンをオレンジ色に点灯させます。



画面の上に表示される音色が右側の第1音色、真ん中が右側の第2音色、下が左側の音色です。

2. 重ねる音色、左側の音色をそれぞれ選びます。

2-1. [^]/[V]ボタンを押して、画面の **[R1]** (右側の第1音色)を反転表示させます。

2-2. [<]/[>]ボタンや音色グループボタンを押して音色を選びます。
音色グループボタンは、押すたびにグループ内で音色が切り替わります。

右側の第2音色(**[R2]**)、左側の音色(**[L]**)も同様にして選びます。

3. 鍵盤を弾いてみましょう。

4. デュアルとスプリットをオフにするには、[デュアル/スプリット]ボタンのランプが消灯するまで[デュアル/スプリット]ボタンを何度か押します。

NOTE

[R1]、**[R2]** もしくは **[L]** を反転表示させた状態で、音色グループボタンを押すと、その音色グループ内で前回使った音色に変更できます。

NOTE

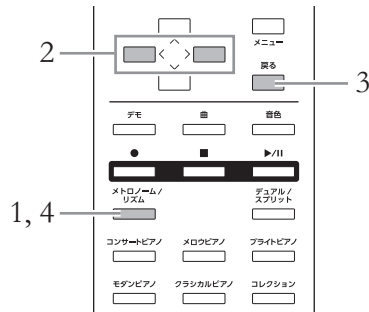
スプリットポイントに当たる鍵盤は、左側に属します。

NOTE

スプリットポイントは、システムメニュー画面の「鍵盤」→「スプリットポイント」でも設定できます(79ページ)。

メトロノームを使う

この楽器は、メトロノーム(ピアノの練習でよく使われる正確なテンポを刻む道具)を備えています。ご利用ください。



1. [メトロノーム/リズム]ボタン(SCLP-5350は[メトロノーム]ボタン)を押して、メトロノームを鳴らします。

メトロノーム画面が表示されます。

2. [<]/[>]ボタンでテンポを調節します。



テンポの値が反転表示されている状態ですので、[<]/[>]ボタンを使ってテンポ(1分間の拍数)を調節します。[<]と[>]ボタンを同時に押すと、テンポは初期設定に戻ります。テンポが反転表示されていない場合は、[^]/[v]ボタンでテンポを反転表示させてから、[<]/[>]ボタンで値を調節してください。

何も操作しないと、メトロノーム画面は数秒で閉じます。

3. [戻る]ボタンを押して、メトロノーム画面を閉じます。

メトロノームを鳴らしたままメトロノーム画面を表示させたいときは、[メトロノーム/リズム]ボタン(SCLP-5350は[メトロノーム]ボタン)を1秒以上押します。

4. メトロノームを止めたいときは、もう一度[メトロノーム/リズム]ボタン(SCLP-5350は[メトロノーム]ボタン)を押します。

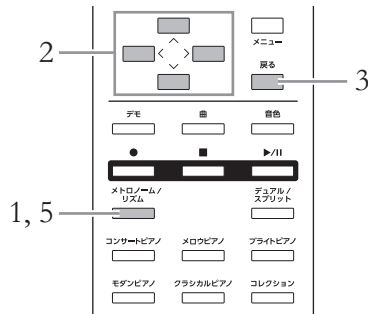
NOTE

音色画面、曲画面以外の画面が表示されていたり、曲再生中/一時停止中/録音モード中は、メトロノーム画面は表示されません。

NOTE

メトロノームメニュー画面で、メトロノームの音量、BPM (画面上のテンポ表示の基準音価を、メトロノームの拍子設定に連動させるか、拍子設定に関係なく4分音符基準にするか)などを設定できます(77ページ)。

メトロノームの拍子を設定する



1. **[メトロノーム/リズム]ボタン(SCLP-5350は[メトロノーム]ボタン)を押して、メトロノーム画面を表示させます。**

メトロノームが鳴ります。

2. **拍子を選びます。**

(SCLP-5450)

[^]/[V]/[<]/[>]ボタンを使って、以下の画面イラストで反転表示された項目を順番に選んでいきます。

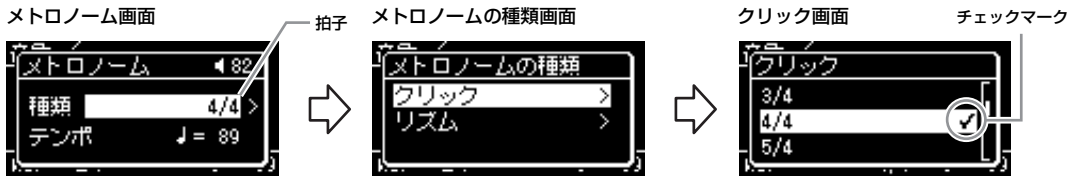
クリック画面では、拍子を選びます。

NOTE

音色画面、曲画面以外の画面が表示されていたり、曲再生中/一時停止中/録音モード中は、メトロノーム画面は表示されません。

NOTE

(SCLP-5450)
メトロノーム画面では、リズムも選べます(43ページ)。



2-1. [^]/[V]ボタンで

「種類」を選択

2-2. [>]ボタンで次へ

2-3. [^]/[V]ボタンで

「クリック」を選択

2-4. [>]ボタンで次へ

2-5. [^]/[V]ボタンで拍子を選択

(SCLP-5350)

[^]/[V]ボタンで「拍子」の値を反転表示させ、[<]/[>]ボタンで拍子を選びます。

メトロノーム画面



いろいろな楽器音(音色)で演奏する

設定範囲 : 2/2、1/4、2/4、3/4、4/4、5/4、6/4、7/4、3/8、6/8、7/8、9/8、12/8

初期設定 : 4/4 (曲による)

テンポ表示と設定範囲

テンポは「音価=テンポ値」(例 ♩=120)の形式で表示されます。拍子を設定すると、音価と設定範囲は以下のように変わります。

音価	拍子	設定範囲
♪ 2分音符	2/2	3~250
♪ 4分音符	1/4, 2/4, 3/4, 4/4, 5/4, 6/4, 7/4	5~500
♪ 付点4分音符	6/8, 9/8, 12/8	4~332 (設定可能なテンポは2の倍数のみ)
♪ 8分音符	3/8, 7/8	10~998 (設定可能なテンポは2の倍数のみ)と999

* MIDI曲のテンポが楽器で設定できる範囲外の場合、楽器で設定可能な範囲に変更されます。

* メトロノームメニュー画面の「BPM」が4分音符に設定されている場合は、拍子の設定に関わらず音価は4分音符で表示されます。

音価

1拍の基準となる音の長さ

メトロノームの詳細設定

メトロノームメニュー画面で、メトロノームの音量、BPM (画面上のテンポ表示の基準音価を、メトロノームの拍子設定に連動させるか、拍子設定に関係なく4分音符基準にするか)などを設定できます(77ページ)。

3. [戻る]ボタンを押して、メトロノーム画面を閉じます。

4. 必要に応じて、メトロノームのベル音をオンにします。

メトロノームメニュー画面の「ベル」で設定します(77ページ)。

選んだ拍子に従って、1拍目でチーンと鳴り、それ以外の拍ではカチ、カチと鳴ります。

5. [メトロノーム/リズム]ボタン(SCLP-5350は[メトロノーム]ボタン)を押してメトロノームを止めます。

タッチ感度を変える

鍵盤を弾く強さに対する音の強弱の付きかた(タッチ感度)を変えられます。使う音色や演奏する曲、好みによって使い分けてください。設定は、システムメニュー画面の「鍵盤」→「タッチ」(79ページ)で行ないます。

曲を再生する、練習する

この楽器では、内蔵曲や録音した曲、市販の曲データをまとめて「曲」と呼んでいます。単に再生して楽しむだけでなく、曲を再生しながら演奏の練習ができます。

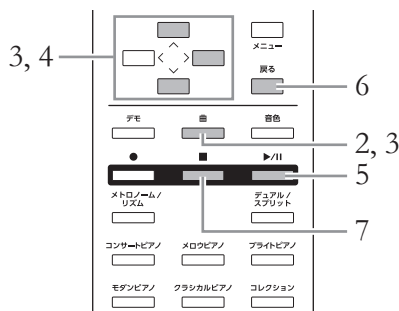
ミディ MIDI曲

この楽器では、MIDI曲を再生できます。MIDI曲は、鍵盤を押す/離すといった演奏の動きを記録したデータです。楽譜と同じように、どの鍵盤をどのくらいの強さでどのタイミングで弾いた、といった演奏情報が記録され、音そのものは記録されません。記録された演奏情報にもとづいて、この楽器の音源部が鳴ることではじめて音になります。データ容量が小さく、また、音色の変更などの編集がしやすいのが特長です。

この楽器では、以下の曲を再生できます。

- 本体に内蔵されている曲(ピアノ50選、クラシック曲、レッスン曲)
 - 本体での鍵盤演奏を録音したデータ(録音方法については44ページ参照)
 - 市販のMIDIデータ：SMF (Standard MIDI File)形式またはESEQ形式(ピアノプレイヤー用曲のみ)のファイル
- この楽器で再生可能なMIDIデータのサイズは、1曲につき約500KBまでです。

曲を再生する



1. USBフラッシュメモリーに入っている曲を再生したいときは、
USBフラッシュメモリーを楽器のUSB [TO DEVICE]端子に
接続しておきます。

NOTE

この楽器で再生できるのは、MIDI曲のみです。オーディオ曲の再生はできません。

オーディオ曲

オーディオ曲は、演奏した音そのものを記録したデータです。カセットテープやボイスレコーダーなどに録音するのと同じしくみで記録したものです。

NOTE

USBフラッシュメモリーを接続したとき、USBフラッシュメモリーのルートにある(フォルダーに入っていない)曲を自動で呼び出す機能「USB自動ロード」があります。設定方法については、81ページをご覧ください。

NOTE

USBフラッシュメモリーを使う前に、必ず「USB機器を接続する(USB [TO DEVICE]端子)」(61ページ)をお読みください。

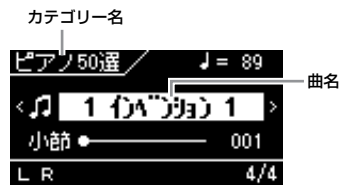
NOTE

この楽器で再生できるのは、MIDI曲のみです。本体に接続したUSBフラッシュメモリーにオーディオファイルが入っていても、再生はできません。

2. [曲]ボタンを押します。

曲画面が表示され、現在選ばれている曲名と、その曲が入っているカテゴリ名が表示されます。楽器起動直後は、内蔵の「ピアノ50選」の先頭の曲が選ばれています。

曲画面



前曲/次曲を選ぶ

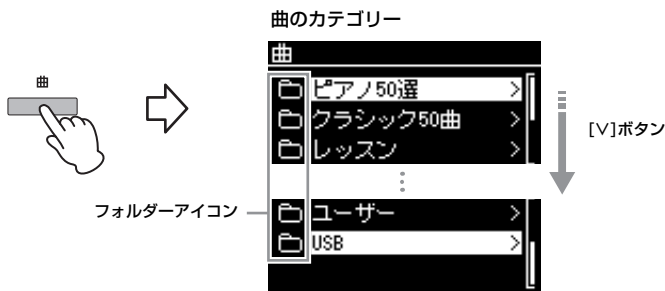
曲名が反転表示されている状態で、[<]/[>]ボタンを押すと、同じカテゴリ/フォルダー内の前後の曲を順番に選べます。カテゴリ/フォルダー内の先頭の曲を選ぶには、[<]と[>]ボタンを同時に押します。

別のカテゴリ/フォルダーから曲を選びたいときは、次の手順で曲カテゴリを表示させて選びます。

3. もう一度[曲]ボタンを押すと曲カテゴリが表示されますので、[△]/[▽]ボタンで目的のカテゴリ/フォルダーを選びます。

下記のカテゴリの説明を参考に、「ピアノ50選」、「クラシック50曲」、「レッスン」、「ユーザー」、「USB」のいずれかから選びます。

カテゴリ名の左端には、フォルダーであることを示すアイコン(📁)が表示されます。



ピアノ50選	内蔵のピアノ曲50曲です。曲名や作曲者名は、「曲一覧」(87ページ)でご確認いただけます。付属の「ピアノで弾く名曲50選」に楽譜が掲載されていますので、ご活用ください。
クラシック50曲	内蔵のクラシック曲50曲です。曲名や作曲者名は、「曲一覧」(88ページ)でご確認いただけます。
レッスン	内蔵の練習曲です。チェルニーやハノンなど、ピアノ練習に広く使われている曲が303曲入っています。練習曲は曲集ごとになんらかのフォルダーに分けられています。曲名や作曲者名は、「曲一覧」(88ページ)でご確認いただけます。
ユーザー	この楽器で録音(44ページ)し、楽器本体に保存されている曲と、USBフラッシュメモリーから楽器本体へコピー/移動した曲です(56ページ)。
USB	この楽器での演奏をUSBフラッシュメモリーに録音した曲と、USBフラッシュメモリーに保存した市販の曲です。

[曲]ボタンを押すたびに、曲画面と曲カテゴリ画面が交互に表示されます。

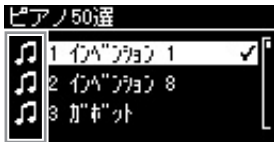
NOTE

曲名が反転表示していないときは、[△]/[▽]ボタンで曲名を反転表示させてから、[<]/[>]ボタンで曲を選んでください。

4. [>]ボタンを押して決定すると、カテゴリーの中の曲が表示されますので、[△]/[▽]ボタンで聞きたい曲を選びます。

曲名の左端には、曲であることを示すアイコン(🎵)が表示されます。

曲リスト



曲アイコン

レッスン曲はさらにいくつかのフォルダーに分けられているため、フォルダーを選んで[>]ボタンを押してから、曲を選んでください。

USBフラッシュメモリーに録音した曲を選ぶ

この楽器での演奏をUSBフラッシュメモリーに録音した場合、曲データはUSBフラッシュメモリー内の「USER FILES」フォルダーに保存されます。「USER FILES」フォルダー内の曲を選びたい場合は、手順3で「USB」を選び、手順4で「USER FILES」フォルダーを選びます。

NOTE

フォルダーの中にデータが存在しない場合は「曲なし」と表示されません。

USBフラッシュメモリー内の曲が読み込めない場合

曲ファイルの名前を変更してください(58ページ)。

5. [▶/||] (スタート/一時停止) ボタンを押して、再生をスタートします。

6. [戻る] ボタンを押して、曲画面に戻ります。

再生位置が表示されます。

曲画面



再生位置

再生しながらご自身で鍵盤を弾くこともできます。その際、手弾き音の音色も変えられます。手弾き音と曲再生音の音量バランスは、曲メニュー画面の「音量」で調節してください(74ページ)。

7. [■] (ストップ) ボタンを押して、再生をストップします。

[■] (ストップ) ボタンを押さない場合にも、1曲の再生が終了すると、自動的にストップします。

NOTE

テンポは、自動的にその曲特有のテンポにセットされます。「メトロノームを使う」(30ページ)での設定は無効になります。

NOTE

再生に便利な機能を42ページで紹介しています。ご覧ください。

巻き戻し/早送り

1. 曲画面表示中に[△]/[▽]ボタンを押して、画面内の小節番号を反転表示させます。

曲画面



小節番号

2. [◀]/[▶]ボタンを押して、小節番号の巻き戻し/早送りをします。
ボタンを長く押すと値が連続して変わります。[◀]と[▶]ボタンを同時に押すと、曲の先頭に戻ります。

一時停止

曲再生中に▶/⏸(スタート/一時停止)ボタンを押すと、一時停止します。もう一度▶/⏸ボタンを押すと、一時停止した位置から再スタートします。一時停止中は、曲画面の小節番号が点滅します。

テンポの調節

曲の再生速度を変えられます。

1. 曲画面表示中に[△]/[▽]ボタンを押して、画面内のテンポを反転表示させます。

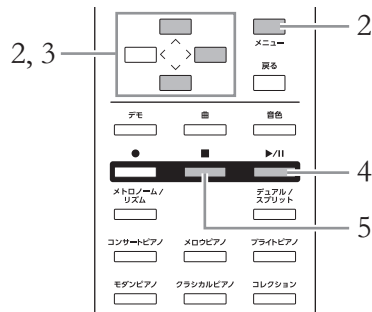
曲画面



2. [◀]/[▶]ボタンを押して、テンポを変更します。
[◀]と[▶]ボタンを同時に押すと、元のテンポ(その曲固有のテンポ)に戻ります。
テンポの設定範囲は、選ばれている曲の拍子によって異なります。また拍子によっては、設定できる数値は2の倍数のみになります。詳しくは32ページをご覧ください。

右手または左手パートだけを再生する

内蔵曲などのMIDI曲には、データが右手パートと左手パートに分かれているものがあります。このような曲データの場合、右手パートだけをオンにして左手の練習を、左手パートだけをオンにして右手の練習ができるので、順序立てて練習を進められます。



1. 練習する曲を選びます。

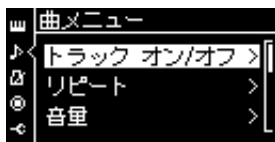
選びかたは、33～35ページを参照してください。内蔵のピアノ曲「ピアノ50選」、クラシック曲「クラシック50曲」、または練習曲「レッスン」カテゴリーから選ぶのがおすすめです。

2. 練習したいパートを選んで再生をオフにします。

[メニュー]ボタンを何度か押して曲メニュー画面を表示させてから、以下の画面イラストで反転表示された項目を順番に選んでいきます。

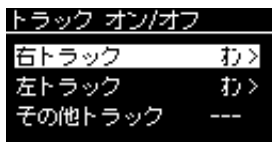
トラック オン/オフ画面では、再生をオフにしたい(練習したい)パート(トラック)を選びます。右手練習したい場合は「右トラック」、左手練習したい場合は「左トラック」を選びます。

曲メニュー画面



- 2-1. [△]/[▽]ボタンで
「トラック オン/オフ」を選択
2-2. [▶]ボタンで次へ

トラック オン/オフ画面



- 2-3. [△]/[▽]ボタンでトラックを選択

3. [▶]ボタンを使って、選んだパートを「オフ」に設定します。

4. [▶/||](スタート/一時停止)ボタンを押して、再生をスタートします。

再生パートはお手本として聞き、再生をオフにしたパートをご自分で弾いて練習します。

5. [■](ストップ)ボタンを押して、再生をストップします。

[■](ストップ)ボタンを押さない場合にも、1曲の再生が終了すると、自動的にストップします。

NOTE

再生中にも、パートごとの再生オン/オフは切り替えられます。

NOTE

通常、「右トラック」にチャンネル1、「左トラック」にチャンネル2、「その他トラック」にチャンネル3～16が割り当てられています。曲によっては異なる場合があります。

NOTE

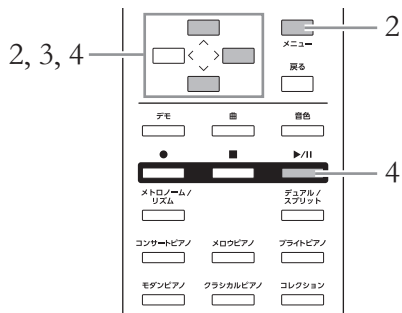
別の曲を選ぶと、両パートとも再生オンに自動的にリセットされます。

繰り返し再生する

繰り返し(リピート)には、下記3つのタイプがあります。難しいフレーズを繰り返して練習するときなどに便利です。「右手または左手パートだけを再生する」の機能とあわせて使うこともできます。

- **ABリピート**..... 1曲内のある範囲を指定して繰り返し再生します。
- **フレーズリピート**..... 1曲内のフレーズを繰り返し再生します。
- **曲リピート**..... 1曲または全曲を順番/順不同(ランダム)に連続再生します。

ここではABリピートと曲リピートの設定方法を説明します。フレーズリピートの詳細については、曲メニューの「リピート」(74ページ)をご覧ください。



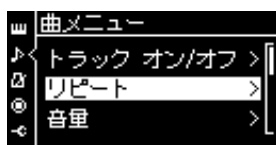
1. 再生する曲を選びます。

選びかたは、33~35ページを参照してください。

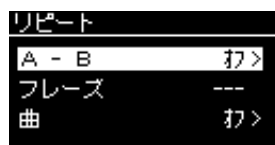
2. リピート画面を表示させます。

[メニュー]ボタンを何度か押して曲メニュー画面を表示させ、「リピート」を選んで[>]ボタンを押します。

曲メニュー画面



リピート画面



3. リピート画面で設定したい項目を[△]/[▽]ボタンを使って選び、[>]ボタンを押します。

ABリピートを設定したい場合は「A - B」、曲リピートを設定したい場合は「曲」を選びます。

4. 設定画面で、設定をします。

- **ABリピート**..... 39ページをご覧ください。
- **曲リピート**..... 40ページをご覧ください。

ABリピートの設定

繰り返しの範囲を指定します。

- 4-1. [▶/III](スタート/一時停止)ボタンを押して、曲の再生をスタートします。
- 4-2. 繰り返し再生の開始位置(A点)にしたいところで、[>]ボタンを押します。

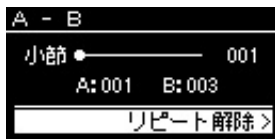
A - B画面



- 4-3. 繰り返し再生の終了位置(B点)にしたいところで、もう一度[>]ボタンを押します。

カウント音が入ったあと、A点からB点までが繰り返し再生されます。

5. 繰り返し再生をやめたい場合は、画面の「リピート解除」が反転表示している状態で[>]ボタンを押すか、別の曲を選びます。



繰り返し中は、曲画面を表示させると画面下部に **AB C** が表示されます。

曲の先頭をA点にする

A点を指定してから曲の再生をスタートし、そのあとB点を指定します。

曲の最後をB点にする

A点だけを指定して、曲の最後まで再生します。曲の最後が自動的にB点になります。

NOTE

繰り返しの範囲は、以下の方法でも設定できます。




- 1 [^]ボタンを押して「小節番号」を反転表示させ、[<]/[>]ボタンを使って小節番号を増減します。
- 2 [V]ボタンを押して「A点設定」を反転表示させ、[>]ボタンを押します。
A点が設定され、B点を設定する画面になります。
- 3 同様の操作でB点も設定します。

曲リピートの設定

4-1. [△]/[▽]ボタンを使って、再生方法を下記から選びます。

設定画面



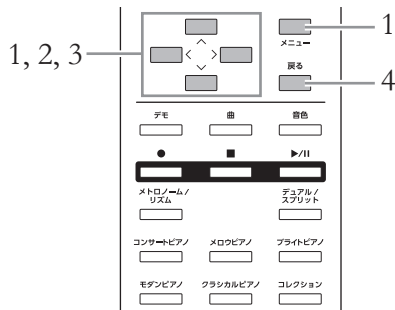
- オフ
連続再生しません。
- 1曲
現在選ばれている曲を繰り返し再生します。
- 全て
現在選ばれている曲のフォルダー内の全曲を順番に連続再生します。
- ランダム
現在選ばれている曲のフォルダー内の全曲をランダム(順不同)に連続再生します。
繰り返し中は、曲画面を表示させると画面下部に 、、 が表示されます。

4-2. [▶/||](スタート/一時停止)ボタンを押して、繰り返し再生をスタートします。

5. 繰り返し再生をやめたい場合は、[■](ストップ)ボタンを押して曲をストップさせてから、手順4-1の設定を「オフ」にします。

音量バランスを調節する

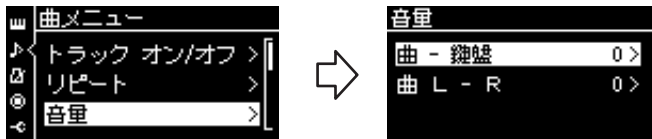
再生音と手弾き音の音量バランス、曲の右手/左手パートの音量バランスが調節できます。



あらかじめ音量調節をしたい曲を選んでおきます。

1. [メニュー]ボタンを何度か押して曲メニュー画面を表示させ、[△]/[▽]ボタンで「音量」を選び、[>]ボタンを押します。

曲メニュー画面



2. 「曲 - 鍵盤」または「曲 L - R」を[△]/[▽]ボタンで選んで[>]ボタンを押し、設定画面を表示させます。

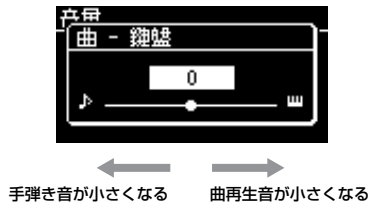
- 曲 - 鍵盤
曲再生音と手弾き音の音量バランスを調節します。
- 曲 L - R
曲の右手パート/左手パートの音量バランスを調節します。

NOTE

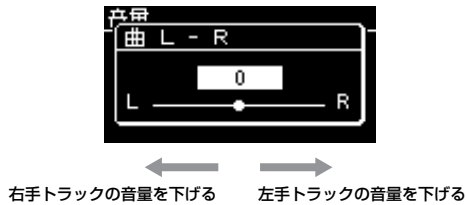
市販のミュージックデータの中には、非常に大音量のデータがあります。そのようなデータを使用する場合、「曲 - 鍵盤」を調節してください。

3. [<]/[>]ボタンで設定します。

曲 - 鍵盤を選んだ場合



曲 L - Rを選んだ場合



4. [戻る]ボタンを2回押して、曲メニュー画面を抜けます。

別の曲を選ぶと、「曲 L - R」の設定は初期設定に戻りますが、「曲 - 鍵盤」の設定はそのままです。

再生に関するその他の機能

弾くと同時に再生をスタートする(シンクロスタート)

シンクロ=同時の、同時に起こる

鍵盤を弾くと同時に再生をスタートできます(シンクロスタート)。
曲を選んだあと、[■](ストップ)ボタンを押したまま[▶/■](スタート/一時停止)ボタンを押すとシンクロスタート待機状態になり、[▶/■]ボタンのランプが曲のテンポに合わせて点滅します。
(シンクロスタートを解除するには、[■]ボタンを押します。)

このあと鍵盤を弾くと、同時に再生もスタートします。

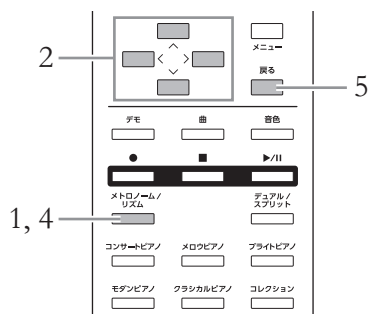
ペダルで再生/一時停止する

システムメニュー画面の「ペダル」→「再生/一時停止」(80ページ)で、まん中か左のペダルの機能を、再生/一時停止(パネル上の[▶/■](スタート/一時停止)ボタンと同じ機能)に切り替えることができます。

鍵盤を弾きながら、曲を再生/一時停止したいときに便利です。

リズムに合わせて弾く (SCLP-5450)

この楽器には、20種類のリズムが内蔵されています。リズムに合わせて楽しく演奏ができます。



リズムのテンポ

- リズムのテンポは、メトロノームで設定したテンポと同じになります(30ページ)。
- リズムのテンポ設定後に曲を選ぶと、リズムのテンポ設定はキャンセルされ、選択した曲固有のテンポに切り替わります。

リズムの詳細設定

メトロノームメニュー画面(77ページ)で、リズムの音量を設定したり、鍵盤を弾くと同時にリズムをスタートさせる(シンクロスタート)などの設定ができます。

NOTE

音色画面、曲画面以外の画面が表示されていたり、曲再生中/一時停止中/録音モード中は、メトロノーム画面は表示されません。

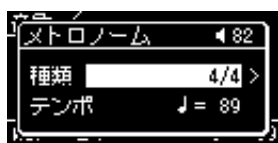
1. [メトロノーム/リズム]ボタンを押して、メトロノーム画面を表示させます。

メトロノーム再生がスタートします。

2. [上]/[下]/[左]/[右]ボタンを使って、以下の画面イラストで反転表示された項目を順番に選んでいき、リズムの画面で使いたいリズムを選びます。

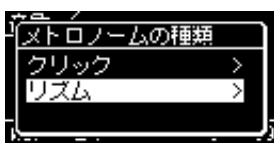
リズムについては、リズム一覧(89ページ)をご参照ください。

メトロノーム画面



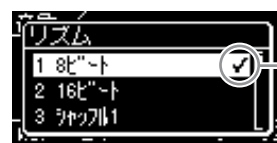
- 2-1. [上]/[下]ボタンで「種類」を選択
2-2. [右]ボタンで次へ

メトロノームの種類画面



- 2-3. [上]/[下]ボタンで「リズム」を選択
2-4. [右]ボタンで次へ

リズム画面



- 2-5. [上]/[下]ボタンでリズムを選択

チェックマーク

3. リズムに合わせて演奏しましょう。

4. リズムを止めたいときは、[メトロノーム/リズム]ボタンを押します。

5. [戻る]ボタンでメトロノーム画面を閉じます。

イントロ/エンディングを鳴らす
リズムには、演奏を盛り上げるために、イントロとエンディングが用意されています。メトロノームメニュー画面(77ページ)でリズムのイントロ、エンディング機能をオンにすると、リズムの再生開始時にはイントロが、再生停止時にはエンディングが鳴ります。エンディングが鳴り終わると、自動的にリズムはストップします。

演奏を録音する

この楽器には、MIDI録音の機能があります。この機能を使って、本体での演奏を録音してみましょう。

MIDI録音では、録音した演奏をSMF(フォーマット0)のMIDI曲として、楽器本体またはUSBフラッシュメモリーに保存します。MIDI曲は、データ容量が小さく、編集しやすいのが特長です。トラックごとに録音したり、録音後に部分的に録音し直したりできます。この楽器で録音できるMIDIデータのサイズは、1曲につき約500KBまでです。

録音の方法

以下3通りの録音方法があります。

• 簡単に録音する 44ページ

ピアノ曲の演奏などを、楽器本体に手軽に録音します。録音したデータは楽器本体の「ユーザー」カテゴリ内に保存されます。

• トラックを指定して録音する 47ページ

左手/右手パートを別々に録音したり(右手パートを再生させながら左手パートを録音できます)、アンサンブルの曲を1パートずつ録音したりできます。

• USBフラッシュメモリーに録音する 49ページ

空の曲ファイルに録音してUSBフラッシュメモリーに保存したり、USBフラッシュメモリーにある録音済みの曲に追加録音したりできます。

NOTE

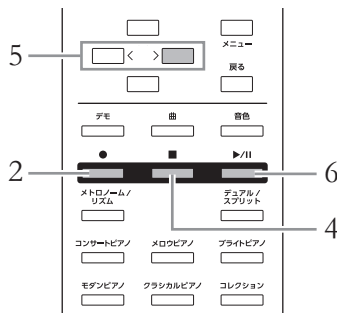
この楽器には、オーディオ録音の機能はありません。

NOTE

MIDI曲とオーディオ曲の違いについては、33ページで説明しています。

簡単に録音する

最も簡単な録音方法です。



1. 録音に使う音色や、拍子などの設定を選びます。

録音に使う音色を選びます(20ページ)。デュアル/スプリットを使う場合は、ここでオンにします。必要に応じてメトロノーム/リズムの拍子とテンポ(30ページ)、エフェクト(26ページ)もここで選んでください。

NOTE

右手パートを録音したあと左手パートを録音して1曲に仕上げたい場合は、「トラックを指定して録音する」(47ページ)をご覧ください。

メトロノーム/リズム(SCLP-5450)を使う

メトロノーム/リズムを鳴らしながら録音することもできます。ただし、メトロノームの音は録音されません。またリズム再生は、録音モードに入ったあとに行なってください。リズム再生中に録音モードに入ると、リズムが停止してしまいます。

NOTE

音量バランス「曲 - 鍵盤」(41ページ)は記録(録音)されません。

NOTE

録音の際、自動的に「トラック1」が指定されますが、デュアル/スプリット/リズムを使った録音では、指定されたトラックと実際に録音されるトラックが異なります。詳しくは「トラックの割り当て」(47ページ)をご覧ください。

2. [●](録音)ボタンを押して、録音モードに入ります。

録音のための空の曲ファイルが用意されます。



[▶/|||](スタート/一時停止)ボタンがテンポに合わせて点滅します。
録音モードから抜きたいときはもう一度[●](録音)ボタンを押します。

3. 鍵盤を弾くと同時に録音がスタートしますので、演奏します。

曲の始めに空白の小節を録音したいときは、[▶/|||](スタート/一時停止)ボタンを押して録音をスタートさせます。

録音画面には、録音中の小節番号が表示されます。

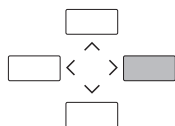


4. 演奏が終わったら、[■](ストップ)ボタンを押して、録音を終了します。

録音モードを抜け、曲を保存するための画面が表示されます。

5. 録音した演奏を保存したい場合は、確認画面で「保存」が選ばれている状態で、[>]ボタンを押して決定します。

保存が終わると「保存が完了しました」のメッセージが表示され、曲画面に戻ります。
保存した曲には、新しい曲の場合は自動的に「USERSONGxxx」(xxxは数字)という名前が付けられます。



- 録音をやり直したい場合は[^]/[V]ボタンで「やり直し」を選び、[>]ボタンを押します。手順3から再スタートできます。
- 保存したくない場合は「中止」を選び、[>]ボタンを押します。

6. [▶/|||](スタート/一時停止)ボタンを押して、録音した演奏を聞いてみましょう。

録音した曲は「USERSONGxxx」(xxxは数字)という名前で、楽器本体の「ユーザー」カテゴリの中に保存されます。

NOTE

[●](録音)ボタンを長めに押すと、録音のための曲を選ぶリストが表示されます。この画面が表示された場合は、49ページの表をご参照のうえ、「新しい曲 (本体)」を選んで[>]ボタンを押してください。

NOTE

(SCLP-5450)
リズムが選択されている状態で[メトロノーム/リズム]ボタンを押して、リズム再生と同時に録音をスタートさせることもできます。

注記

録音した曲を保存せずに曲を切り替えたり電源を切ったりすると、録音したデータは失われます。ご注意ください。

曲名を変更する

録音した曲には自動的に名前が付けられますが、ご自分で名前を付け直すことができます(58ページ)。

MIDI録音で記録されるデータの種類

パートごとに録音されるデータ

- ノートデータ(弾いた音)
- 音色選択
- ペダル操作(ダンパー、ソフト、ソステヌート)
- リバープのかかり具合「リバープデプス」
- コーラスのかかり具合「コーラスデプス」
- エフェクトのかかり具合「エフェクトデプス」
- 音の明るさ「ブライトネス」
- レゾナンス効果の設定「ハーモニックコンテンツ」
- 音色のオクターブ設定
- 音色ごとの音量の設定
- 音色ごとの左右の音の位置の設定「パン」
- 2つの音色の音の高さをずらす微調整(デュアルのみ)「デチューン」
- 音色ごとのタッチに対する音量変化度合の設定「タッチセンス」

全パートで共通に録音されるデータ

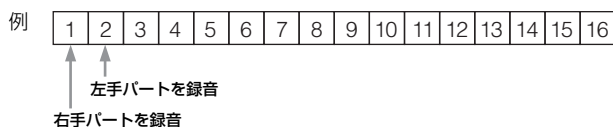
- 音律
- テンポ
- 拍子
- リバープタイプ
- コーラスタイプ
- エフェクトタイプ

NOTE

ノートデータ、ペダル操作、オクターブ設定、および拍子は、録音後に変更できません。

トラックを指定して録音する

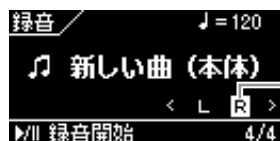
MIDI録音では、全部で16トラックで構成される曲を、1トラックずつ録音して作り上げることができます。たとえば、ピアノ曲の場合、右手部分をトラック1に録音したあと、左手部分をトラック2に録音すれば、両手で弾くのが難しいピアノ曲を録音することができます。また、リズム機能のあるSCLP-5450では、トラック9/10にリズムを先に録音しておき、あとでリズムを聞きながらトラック1にメロディーを録音する、ということができます。このように、1回で演奏するのが難しい曲でも、パート別に重ねて録音をすることによって、1つの曲に仕上げることができます。



1. 「簡単に録音する」(44ページ)の手順1~2と同じ方法で、録音の準備をします。
2. [V]ボタンを押して画面の録音トラックを反転表示させ、[<]/[>]ボタンで録音トラックを指定します。

右手部分を録音したいときは「R」、左手部分を録音したいときは「L」を反転表示させます。

トラック3~トラック16のいずれかを指定したいときは、[<]/[>]ボタンを何度か押すことで指定できます。



録音トラック

: データあり

: データなし

3. 鍵盤を弾くと同時に録音がスタートしますので、演奏します。
4. 演奏が終わったら、[■](ストップ)ボタンを押して、録音を終了します。

録音モードを抜け、曲を保存するための画面が表示されます。

NOTE

USBフラッシュメモリーに録音したい場合や、USBフラッシュメモリー上の曲に追加録音したい場合は、「USBフラッシュメモリーに録音する」(49ページ)をご覧ください。

NOTE

リズムは追加録音できません。

本体に録音済みの曲に追加録音したい場合：

追加録音したい曲を選びます(33ページ 手順1~4)。**[●]**(録音)ボタンを1秒以上押すと、録音のための曲を選ぶリストが表示されます。曲を選んで[>]ボタン押してから、手順2へ進んでください。

NOTE

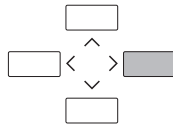
RとLに別々の曲を録音すると、一緒に再生されてしまいます。

トラックの割り当て

デュアル/スプリット時の録音では、指定したトラックに入るのは第1音色のみです。デュアルの第2音色は、指定したトラックに6を足した番号のトラック、スプリットの左側の音色は、指定したトラックに3を足した番号のトラックに入ります。16を超えた場合は折り返して数えます。リズムはトラック9/10に入ります。

5. 録音した演奏を保存したい場合は、確認画面で「保存」が選ばれている状態で、[>]ボタンを押します。

保存が終わると「保存が完了しました」のメッセージが表示され、曲画面に戻ります。保存した曲には、新しい曲の場合は自動的に「USERSONGxxx」(xxxは数字)という名前が付けられます。



- 録音をやり直したい場合は「やり直し」を選び、[>]ボタンを押します。手順3から再スタートできます。
- 保存したくない場合は「中止」を選び、[>]ボタンを押します。

トラックのデータの有無：

トラックにデータがあるかどうか確認できます。



データのあるトラックだけが表示されます。

6. [▶/||] (スタート/一時停止) ボタンを押して、録音した演奏を聞いてみましょう。

録音した曲は「USERSONGxxx」(xxxは数字)という名前で、楽器本体の「ユーザー」カテゴリの中に保存されます。

7. 追加録音のためにもう一度録音モードに入ります。

7-1. [●] (録音) ボタンを1秒以上押します。

録音対象の曲がリスト表示されます。



7-2. [V] ボタンを押して、手順5で保存した曲(一番下に表示)を選び、[>] ボタンを押します。

8. 手順2～6の方法で、別の空トラックに演奏を追加で録音していきます。

手順2では一度録音したトラック以外のトラックを選び、手順3では録音済みのトラックを聞きながら演奏しましょう。

注記

録音した曲を保存せずに曲を切り替えたり電源を切ったりすると、録音したデータは失われます。ご注意ください。

曲名を変更する

録音した曲には自動的に名前が付けられますが、ご自分で名前を付け直すことができます(58ページ)。

USBフラッシュメモリーに録音する

空の曲ファイルに録音してUSBフラッシュメモリーに保存したり、USBフラッシュメモリーにある録音済みの曲に追加録音する方法です。

1. USBフラッシュメモリーを楽器のUSB ^{トゥー デバイス} [TO DEVICE]端子に接続します。

2. 録音のための曲を選び、録音モードに入ります。

2-1. 録音済みの曲に追加録音したい場合は、録音済みの曲をUSBフラッシュメモリーから選びます(33ページの手順1~4)。空の曲ファイルに録音したい場合にはこの操作は不要です。

2-2. [●](録音)ボタンを1秒以上押して、録音のための曲を選ぶリストを表示させます。



2-3. 録音のための曲として、「新しい曲(USB)」か、「xxxxxxx」(リストの一番下)を[△]/[▽]ボタンで選び、[>]ボタンを押します。

録音モードに入ります。

録音のための曲	説明
新しい曲(本体)	演奏データを、本体内部に新規MIDI曲として保存する場合には選びます。
新しい曲(USB)*	演奏データを、USBフラッシュメモリーに新規MIDI曲として保存する場合には選びます。
xxxxxxx (手順2-1で選んだ曲の名前)**	録音済みのMIDI曲に追加録音/上書き録音する場合には選びます。

* USBフラッシュメモリー接続時のみ選べます。

** 手順2-1で曲を選んでいない場合や、内蔵曲/プロテクト曲を選んでいた場合は表示されません。

3. 録音して保存します。

録音済みの曲に追加録音したい場合/空の曲ファイルにトラック指定をして録音したい場合：

このあとの手順は、「トラックを指定して録音する」(47ページ)の手順2~8とまったく同様です。

空の曲ファイルに簡単録音したい場合：

このあとの手順は、「簡単に録音する」(44ページ)の手順3~6とまったく同様です。

NOTE

USBフラッシュメモリーを使う前に、必ず「USB機器を接続する(USB [TO DEVICE]端子)」(61ページ)をお読みください。

NOTE

録音前に、USBフラッシュメモリーの空き容量を確認しておきましょう。システムメニュー画面：「ユーティリティ」→「USBプロパティ」(81ページ)

注記

既存の曲を選んで、データがあるトラックに録音すると、そのデータは消えてしまいますので、ご注意ください。

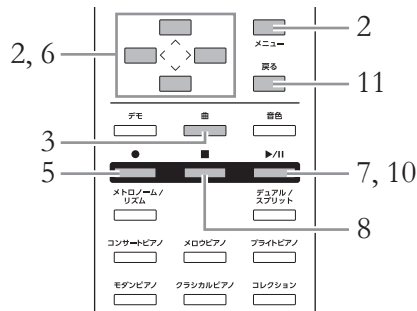
NOTE

既存の曲に上書き/追加録音する場合は、選んだ曲の拍子とテンポに自動的に設定されます。

そのほかの録音方法とテクニック

部分的に録音し直す

MIDI曲は部分的に録音し直すことができます。ご自分で録音した曲の編集などにお使いください。

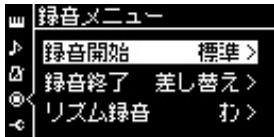


1. 録音し直す曲を選びます。

選びかたは、33～35ページを参照してください。

2. 録音開始/終了方法を選びます。

2-1. 録音メニュー画面が表示されるまで、[メニュー]ボタンを何度か押します。



2-2. [△]/[▽]ボタンを押して、「録音開始」(録音開始方法)を選び、[>]ボタンで設定を選びます。

- 標準
録音開始以降のデータを消します。
- 押鍵
録音を開始しても、最初に鍵盤を弾くまでのデータは消しません。

2-3. [△]/[▽]ボタンで「録音終了」(録音終了方法)を選び、[>]ボタンで設定を選びます。

- 差し替え
録音終了以降にあった元のデータを消します。
- パンチアウト
録音終了以降にある元のデータは消しません。

3. [曲]ボタンを押して、曲画面を表示させます。

4. 録音開始をしたい場所を指定します。

[^]/[V]ボタンを押して小節番号を反転表示させ、[<]/[>]ボタンを押して再生位置を移動するか、[▶/||] (スタート/一時停止) ボタンを押して演奏を再生して、録音し直したい場所の手前でもう一度[▶/||] ボタンを押します。

必要に応じて、変更したい内容(音色やそのほかの設定)を選び直します。

先に録音したときと設定を変えたい場合に行なってください。

5. [●] (録音) ボタンを1秒以上押したあと、手順1で選んだ曲を選び、[>] ボタンを押します。

6. [V] ボタンでトラックを反転表示させ、[<]/[>] ボタンで書き換えをしたいトラックを選びます。

7. 演奏を始めるまたは[▶/||] (スタート/一時停止) ボタンを押して、録音を開始します。

8. [■] (ストップ) ボタンを押して、録音を終了します。

9. 48ページの手順5に従って、録音した演奏を上書き保存します。

10. [▶/||] (スタート/一時停止) ボタンを押して、録音した演奏を再生します。

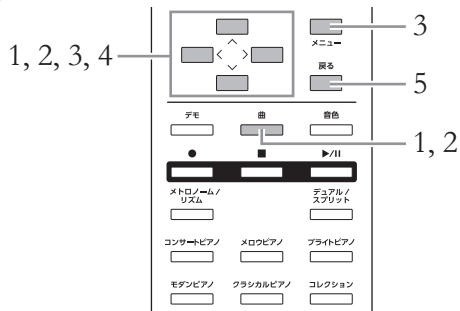
NOTE

部分的に録音し直す場合、拍子は変更できません。

録音後に音色やテンポなどを変更する

MIDI曲は、録音を終えたあとでも、演奏データの設定を変更できます。たとえば、録音したあとで音色を変更して違った雰囲気曲にしたり、適切なテンポに調節したりできます。曲の途中からの変更もできます。

テンポの変更



1. 変更する曲を選びます。

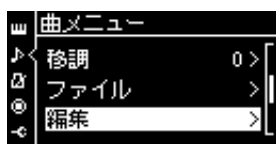
選びかたは、33～35ページを参照してください。

2. テンポを設定します。

[曲]ボタンを押して曲画面を表示させてから、[^]/[V]ボタンを使って画面のテンポ表示を反転表示させ、[<]/[>]ボタンで値を設定します。

3. [メニュー]ボタンを何度か押して曲メニュー画面を表示させてから、以下の画面イラストで反転表示された項目を順番に選んでいきます。

曲メニュー画面



編集画面



テンポ変更画面



3-1. [^]/[V]ボタンで

「編集」を選択

3-2. [>]ボタンで次へ

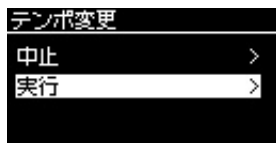
3-3. [^]/[V]ボタンで

「テンポ変更」を選択

3-4. [>]ボタンで次へ

4. 選んだテンポで上書きします。

[V]ボタンを押して画面の「実行」を反転表示させ、[>]ボタンを押します。



変更が完了すると、「操作を完了しました」と表示され、数秒後にテンポ変更画面に戻ります。

5. [戻る]ボタンを押して曲メニュー画面から抜けます。

音色の変更

1. 変更する曲を選びます。

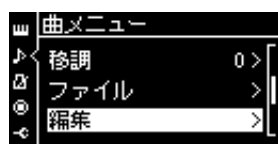
選びかたは、33～35ページを参照してください。

2. 変更したい音色を選びます。

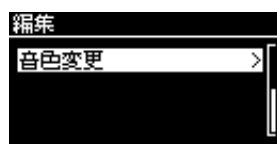
選びかたは、20ページを参照してください。

3. [メニュー]ボタンを何度か押して曲メニュー画面を表示させてから、以下の画面イラストで反転表示された項目を順番に選んでいきます。

曲メニュー画面



編集画面



音色変更画面



3-1. [△]/[▽]ボタンで「編集」を選択

3-2. [▷]ボタンで次へ

3-3. [△]/[▽]ボタンで「音色変更」を選択

3-4. [▷]ボタンで次へ

4. [▷]ボタンを押すと設定画面が表示されますので、[△]/[▽]ボタンで音色を変更したいトラックを選びます。

5. 手順2で選んだ音色で上書きします。

[◀]ボタンを押して1つ前の画面に戻ります。[▽]ボタンを押して画面の「実行」を反転表示させ、[▷]ボタンを押します。



変更が完了すると、「操作を完了しました」と表示され、数秒後に音色変更画面に戻ります。

6. [戻る]ボタンを押して曲メニュー画面から抜けます。

曲ファイル进行操作する

曲メニュー画面(74ページ)の「ファイル」を選ぶと、市販のミュージックデータ、ご自分で録音した曲などの、既存の曲ファイルに関する操作ができます。

USBフラッシュメモリーをご使用になる場合は、事前に「USB機器を接続する(USB [TO DEVICE]端子)」(61ページ)をお読みください。

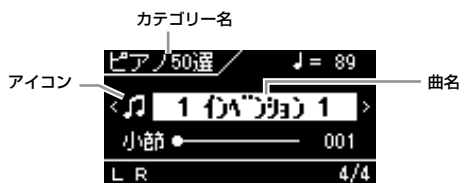
操作	表示	ページ
曲を削除する	削除	55、56ページ
曲をコピーする	コピー	55、56ページ
曲を移動する	移動	55、57ページ
曲名を変更する	名前の変更	55、58ページ

ファイルとは

あるデータのみとまりを1つの単位として保存したものです。曲データを曲名単位で曲ファイルと言います。

曲の種類とファイル操作の制限

曲画面には、曲の種類を示すカテゴリ名やアイコンが表示されます。曲の種類によって、ファイル操作に下記のとおり制限があります。



プロテクトがかかった曲の制限

市販のミュージックデータ(曲)の中には、コピー防止や誤消去防止のためにプロテクトがかかっているものがあります。プロテクト曲の保存には、動作確認済みのUSB記憶装置をお使いください。動作確認済みのUSB記憶装置は、「USB機器を接続する(USB [TO DEVICE]端子)」(61ページ)に記載されたURLでご確認いただけます。

保存場所	カテゴリ	曲の種類	曲を削除する	曲名を変更する	曲をコピーする	曲を移動する
	本体	ピアノ50選	本体のピアノ50曲	×	×	×
クラシック50曲		本体のクラシック50曲	×	×	×	×
レッスン		本体の練習曲	×	×	×	×
ユーザー		録音曲	○	○	○	○
USBフラッシュメモリー	USB	プロテクトがかかった曲	○	○	×	×
		ヤマハ独自のプロテクトがかかった曲	○	○	×	○
		録音曲	○	○	○	○

* ヤマハ独自のプロテクトがかかった曲と、それを編集し、保存した曲の2種類があります。編集し、保存した曲は編集元の曲と同じフォルダーの中においてください。同じフォルダーの中に編集元の曲がないと、再生できません。

曲ファイルの基本操作

曲ファイルの操作は以下の手順で行ないます。

1. 必要に応じて、USBフラッシュメモリーをUSB ^{トロー デバイス} [TO DEVICE] 端子に接続してください。

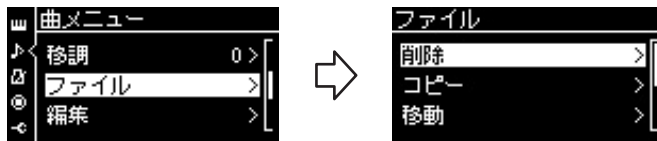
2. ファイル操作の対象となる曲を選びます。

曲の選びかたは、「曲を再生する」(33ページ)をご覧ください。

3. ファイル操作モードに入ります。

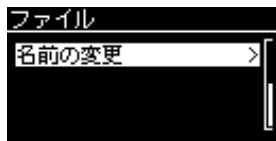
- 3-1. [メニュー] ボタンを何度か押して曲メニュー画面を表示させてから、[△]/[▽] ボタンで「ファイル」を選んで、[>] ボタンを押します。

曲メニュー画面



- 3-2. [△]/[▽] ボタンで、設定したい項目を「削除」、「コピー」、「移動」、「名前の変更」のいずれかから選びます。

例 曲名を変更する場合



これ以降、操作を中止してファイル操作モードから抜けるには[戻る] ボタンを押します。

4. 操作を実行します。

ここでの操作は、該当する項目の手順を参照してください。

- 削除 56ページ
- コピー 56ページ
- 移動 57ページ
- 名前の変更 58ページ

操作中、画面にメッセージ(情報や確認など)が表示されることがあります。その意味や対処の方法については、90ページの「メッセージ一覧」をご覧ください。

5. [戻る] ボタンを押して、ファイル操作モードを抜けます。

注記

ファイル操作中やUSBフラッシュメモリーのマウント中は、USBフラッシュメモリーを外さないでください。USBフラッシュメモリーや楽器本体のデータが壊れたりするおそれがあります。

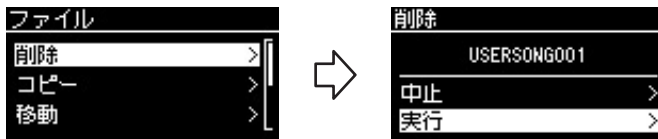
曲を削除する

削除できる曲の種類は、54ページを確認してください。

基本操作は、55ページをご覧ください。

手順4は、下記に従って操作します。

4-1. 「削除」が選ばれた状態で[>]ボタンを押すと、設定画面が表示されます。



4-2. [V]ボタンを押して「実行」を反転表示させ、[>]ボタンを押して実行します。

曲削除後、曲のリスト画面が表示されます。

注記

「操作を実行しています」の表示中は、電源を切ったり、USBフラッシュメモリーを外さないでください。

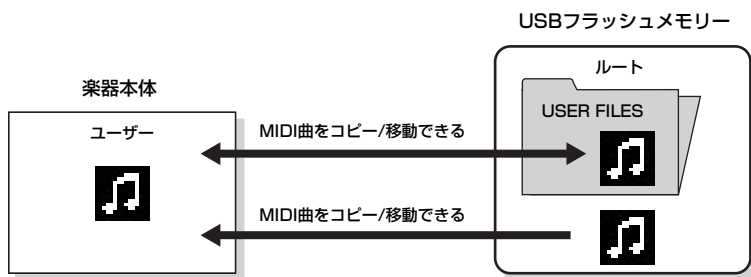
曲をコピーする

コピーできる曲の種類は、54ページを確認してください。

コピー / 移動できる範囲

楽器本体の「ユーザー」にある録音曲は、USBフラッシュメモリーの「USER FILES」フォルダーへのみコピー / 移動できます。この場合「USER FILES」フォルダーの指定は自動的に行なわれますので、ご自分で指定する必要はありません。

USBフラッシュメモリー内のMIDI曲は、楽器本体の「ユーザー」へコピー / 移動できます。



基本操作は、55ページをご覧ください。

手順4の操作は次のページにあります。

USER FILESフォルダー

USBフラッシュメモリーをこの楽器で初期化したり、この楽器の演奏をUSBフラッシュメモリーに録音した場合、USBフラッシュメモリーの中に自動的に「USER FILES」という名前のフォルダーが作られ、その中にデータが保存されます。

NOTE

市販のミュージックデータは著作権で保護されていますので、コピー機能は個人で楽しむ範囲でご利用ください。

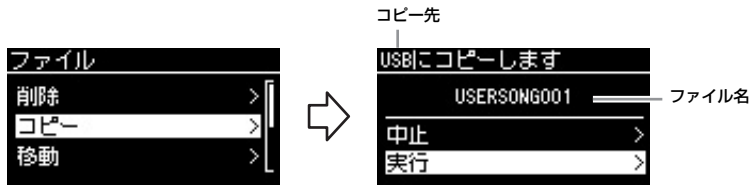
NOTE

フォルダーはコピーできません。

ルートとは

階層構造のいちばん上の部分を表わします。フォルダーに入っていない領域のことです。

- 4-1. 「コピー」が選ばれた状態で[>]ボタンを押すと、設定画面が表示されます。



- 4-2. [V]ボタンを押して「実行」を反転表示させ、[>]ボタンを押して実行します。

曲がコピーされ、曲のリスト画面が表示されます。コピー先のファイル名は、コピー元のファイル名と同じになります。

コピー先

コピー先がUSBフラッシュメモリーの場合は「USBにコピーします」、楽器本体の場合は「ユーザーにコピーします」と表示されます。コピー先がUSBフラッシュメモリーの場合、ファイルはUSBフラッシュメモリー内の「USER FILES」フォルダーへコピーされます。

NOTE

コピー先にすでに同じ名前のファイルがある場合は、メッセージが表示されます。上書きする場合は「上書き」、キャンセルする場合は「中止」を[△]/[V]ボタンで選び、[>]ボタンを押します。

注記

上書きした場合、コピー先のファイルのデータはすべて消去され、コピー元のファイルのデータで上書きされますのでご注意ください。

注記

「操作を実行しています」の表示中は、電源を切ったり、USBフラッシュメモリーを外さないでください。

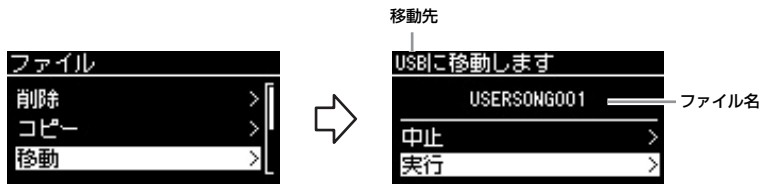
曲を移動する

移動できる曲の種類は、54ページを確認してください。

基本操作は、55ページをご覧ください。

手順4は、下記に従って操作します。

- 4-1. 「移動」が選ばれた状態で[>]ボタンを押すと、設定画面が表示されます。



- 4-2. [V]ボタンを押して「実行」を反転表示させ、[>]ボタンを押して実行します。

曲が移動され、曲のリスト画面が表示されます。

移動先

移動先がUSBフラッシュメモリーの場合は「USBに移動します」、楽器本体の場合は「ユーザーに移動します」と表示されます。移動先がUSBフラッシュメモリーの場合、ファイルはUSBフラッシュメモリー内の「USER FILES」フォルダーへ移動されます。

NOTE

移動先にすでに同じ名前のファイルがある場合は、メッセージが表示されます。上書きする場合は「上書き」、キャンセルする場合は「中止」を[△]/[V]ボタンで選び、[>]ボタンを押します。

注記

上書きした場合、移動先のファイルのデータはすべて消去され、移動元のファイルのデータで上書きされますのでご注意ください。

注記

「操作を実行しています」の表示中は、電源を切ったり、USBフラッシュメモリーを外さないでください。

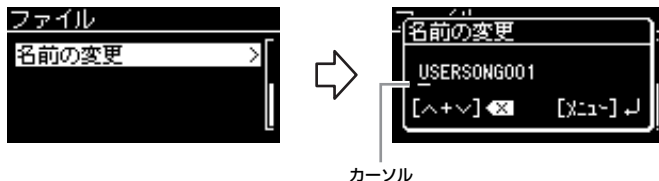
曲名を変更する

名前を変更できる曲の種類は、54ページを確認してください。

基本操作は、55ページをご覧ください。

手順4は、下記に従って操作します。

4-1. 「名前の変更」が選ばれた状態で[>]ボタンを押すと、設定画面が表示されます。



4-2. 曲名を付けます。

[<]/[>]ボタンでカーソル(下線)を移動します。

[^]/[V]ボタンでカーソルの位置の文字を変更します。同時押しで文字が削除されます。

最大46文字の曲名を付けられます(下表参照)。画面からはみだした文字は、[<]/[>]ボタンでカーソルを移動し、順次表示させることができます。

この楽器で使用できる文字および記号

0~9	A~Z	a~z	ア~ン	ア~オ	ヤ	ユ	ヨ	ツ	°	ー	。									
「	」	、	・	!	#	\$	%	&	'	()	+	,	-	;	=	@	[]	^
_	`	{	}	~	.															

無線LANの設定(64、65ページ)では、カタカナは使用できません。

4-3. [メニュー]ボタンを押して実行します。

曲名変更後、曲のリスト画面が表示されます。名前を変更した曲が選ばれています。

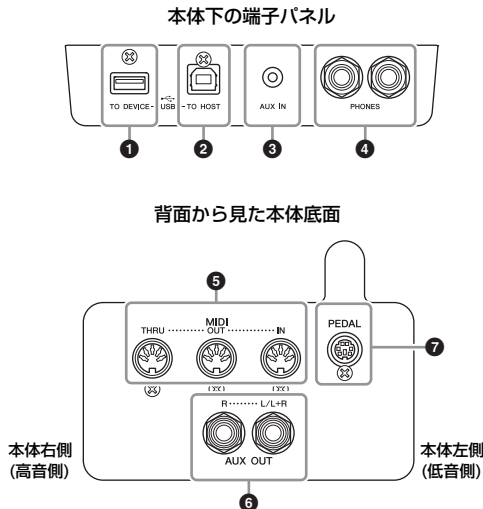
注記

「操作を実行しています」の表示中は、電源を切ったり、USBフラッシュメモリーを外さないでください。

他の機器と接続する

端子について

端子の位置は「各部の名前と機能」(11ページ)でご確認ください。



① USB [TO DEVICE] 端子

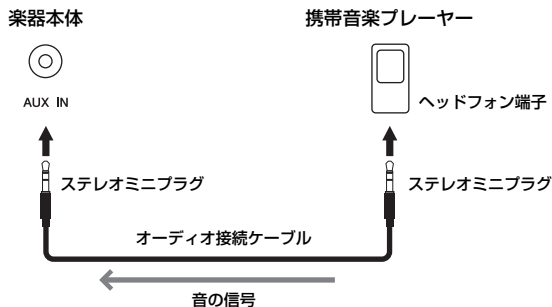
USBフラッシュメモリーや、別売の無線LANアダプターを接続する端子です。詳しくは61ページの「USB機器を接続する(USB [TO DEVICE]端子)」と、63ページの「iPhone/iPadと接続する(USB [TO DEVICE]端子、USB [TO HOST]端子、MIDI端子)」をご覧ください。

② USB [TO HOST] 端子

コンピューターや、別売のi-UX1を接続する端子です。詳しくは62ページの「コンピューターと接続する(USB [TO HOST]端子)」と、63ページの「iPhone/iPadと接続する(USB [TO DEVICE]端子、USB [TO HOST]端子、MIDI端子)」をご覧ください。

③ [AUX IN] 端子

楽器本体の[AUX IN]端子と、携帯音楽プレーヤーなどのオーディオ機器のヘッドフォン端子を接続すると、楽器本体のスピーカーから携帯音楽プレーヤーの音を鳴らせます。



⚠ 注意

外部機器と接続するときは、すべての機器の電源を切った上で行ってください。また、電源を入れたり切ったりする前に、必ず機器のボリュームを最小(0)にしてください。感電、聴力障害または機器の損傷の原因になります。

NOTE

この楽器のUSB端子には、USB [TO HOST]端子とUSB [TO DEVICE]端子の2種類があります。どちらもUSB端子ですが、形状/用途が違いますので、接続するときに間違えないようご注意ください。(端子の形状に合うプラグを上下の向きに注意して差し込んでください。)

注記

楽器本体の[AUX IN]を使う場合、外部機器の損傷を防ぐため、電源を入れるときは、外部機器 → この楽器の順に、電源を切るときは、この楽器 → 外部機器の順に行なってください。

NOTE

[AUX IN]端子からの入力音は、楽器の[音量]スライダーで音量を調節できます。

NOTE

オーディオ接続ケーブルおよび変換プラグは、抵抗のないものをお使いください。

④ ^{フォーンズ} [PHONES]端子

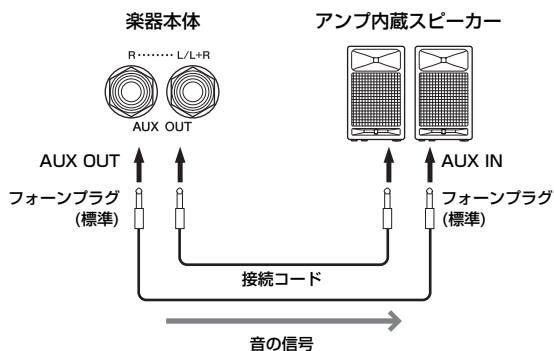
ヘッドフォンのプラグを接続する端子です。詳しくは16ページの「ヘッドフォンを使う」をご覧ください。

⑤ ^{ミディ イン アウト スルー} MIDI [IN][OUT][THRU]端子

MIDI接続専用のケーブルを使って外部MIDI機器と接続する端子です。詳しくは62ページの「外部MIDI機器と接続する(MIDI端子)」をご覧ください。また、別売のi-MX1も接続できます。詳しくは63ページの「iPhone/iPadと接続する(USB [TO DEVICE]端子、USB [TO HOST]端子、MIDI端子)」をご覧ください。

⑥ ^{エーユーエックスアウト} AUX OUT [R][L/L+R]端子

楽器本体にアンプ内蔵スピーカーなどを接続して、より大きな音を出します。接続コードを使って図のように接続します。



AUX OUT端子からの出力音は、楽器の[音量]スライダーで音量を調節できます。外部スピーカー使用時、本体スピーカーからの音を消したい場合は、「スピーカー」の設定をオフにしてください。設定は、システムメニュー画面：「ユーティリティ」→「スピーカー」(82ページ)で行ないます。

⑦ ^{ペダル} [PEDAL]端子

ペダルコードのプラグを接続する端子です。詳しくは「楽器を組み立てる」の96ページをご覧ください。

NOTE

モノ出力の場合(スピーカーを1台だけ使う場合には、[L/L+R]端子をご使用ください。

注記

- 楽器本体のAUX OUTを使う場合、外部機器の損傷を防ぐため、電源を入れるときは、この楽器 → 外部機器(アンプ内蔵スピーカーなど)の順に、電源を切るときは、外部機器 → この楽器の順に行なってください。オートパワーオフ機能(13ページ)により、自動的に電源が切れることがありません。外部機器を接続した状態では、一定時間本体を操作しない場合は、この手順に従って手動で電源を切るか、オートパワーオフを解除してください。
- AUX OUT端子から出力した音を、[AUX IN]に戻さないでください(AUX OUTから外部オーディオ機器に接続した場合、その機器からふたたび楽器本体の[AUX IN]に接続しないでください)。楽器本体の[AUX IN]から入力された音はそのままAUX OUTから出力されますので、オーディオ系の発振が起こり、正常な再生がなされないばかりでなく、両機器の故障の原因になります。

USB機器を接続する(USB [TO DEVICE]端子)

USB [TO DEVICE]端子には、USBフラッシュメモリーや別売のUSB無線LANアダプターを接続します。楽器本体とUSBフラッシュメモリーでデータをやりとりしたり(54、83ページ)、別売のUSB無線LANアダプターを使ってiPadなどと無線通信(63ページ)したりできます。

USB [TO DEVICE]端子ご使用上の注意

本機にはUSB [TO DEVICE]端子があります。USB [TO DEVICE]端子にUSB機器を接続する場合は、以下のことをお守りください。

NOTE

USB機器の取り扱いについては、お使いのUSB機器の取扱説明書もご参照ください。

■ 使用できるUSB機器

- USBフラッシュメモリー
- USBハブ
- 別売のUSB無線LANアダプター(98ページ)

上記以外のUSB機器(マウス、コンピューターのキーボードなど)は、接続しても使えません。

本機では、USB1.1～3.0の機器がご使用になれますが、機器への保存や機器からの読み込みにかかる時間は、データの種類や本機の状態により異なりますのでご了承ください。

動作確認済みUSB機器については、ご購入の前にインターネット上の下記URLでご確認ください。

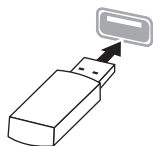
<http://jp.yamaha.com/products/musical-instruments/keyboards/support/>

NOTE

USB [TO DEVICE]端子の定格は、最大5V/500mAです。定格を超えるUSB機器は故障の原因になるため、接続しないでください。

■ USB機器の接続

USB [TO DEVICE]端子の形状に合うプラグを、上下の向きに注意して差し込んでください。



注記

- USB機器の抜き差しは、再生や録音中、ファイル操作中(保存/コピー/削除/フォーマットなど)、およびUSB機器へのアクセス中には行わないでください。楽器本体の機能が停止したり、USB機器やデータが壊れたりするおそれがあります。
- USB機器の抜き差しは、数秒間隔を空けて行ってください。

NOTE

- 1つのUSB [TO DEVICE]端子に2台以上のUSB機器を同時に接続したい場合は、USBハブを使います。USBハブをパスワードでお使いください。USBハブは1台のみ使用可能です。USBハブの使用中にエラーメッセージが出た場合は、本機からUSBハブを抜き、本機の電源を入れ直した上で、再度USBハブを接続してください。
- USBケーブルで接続する場合、3メートル未満のケーブルをご使用ください。

USBフラッシュメモリーの取り扱いについて

本機にUSBフラッシュメモリーを接続すると、楽器本体で作成したデータをUSBフラッシュメモリーに保存したり、USBフラッシュメモリーのデータを楽器本体で再生したりできます。

■ 接続できるUSBフラッシュメモリーの数

同時に使用できるUSBフラッシュメモリーは、1台までです。(USBハブを使用した場合でも、同時に使用できる記憶装置は1台までです。)

■ USBフラッシュメモリーのフォーマット

USBフラッシュメモリーは本機でフォーマット(81ページ)することをおすすめします。他の機器でフォーマットしたUSBフラッシュメモリーは、本機で正しく動作しない場合があります。

注記

フォーマットを実行すると、そのUSBフラッシュメモリーの中身は消去されます。必要なデータが入っていないのを確認してからフォーマットしてください。

■ 誤消去防止

USBフラッシュメモリーには、誤ってデータを消してしまわないようライトプロテクト機能のついたものがあります。大切なデータが入っている場合は、ライトプロテクトで書き込みができないようにしましょう。逆にデータを保存する場合などは、ご使用前にお使いのUSBフラッシュメモリーのライトプロテクトが解除されていることをご確認ください。

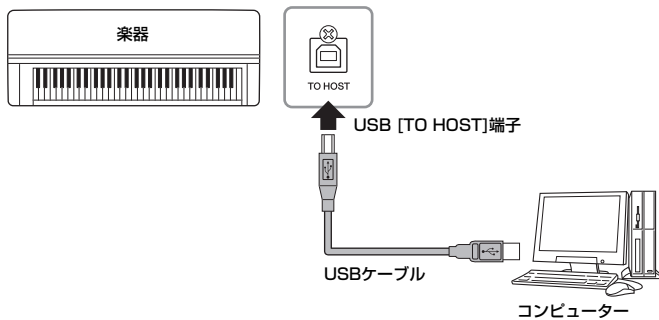
■ USBフラッシュメモリー接続時に電源を切るには

電源を切る場合は、再生/録音やファイル操作(保存/コピー/削除/フォーマットなど)によるUSBフラッシュメモリーへのアクセス中でないことを確認してください。USBフラッシュメモリーやデータが壊れたりするおそれがあります。

コンピューターと接続する(USB [TO HOST]端子)

USBケーブルを使って楽器のUSB [TO HOST]端子とコンピューターを接続すると、コンピューターとMIDIデータをやり取りしたり、コンピューター用の音楽ソフトを楽しんだりできます。

コンピューターとの接続方法など、詳しくはウェブサイト上の「コンピューターとつなぐ」をご覧ください(7ページ)。



注記

USBケーブルは、ABタイプのもをご使用ください。また、3メートル未満のケーブルをご使用ください。USB3.0ケーブルは、ご使用にできません。

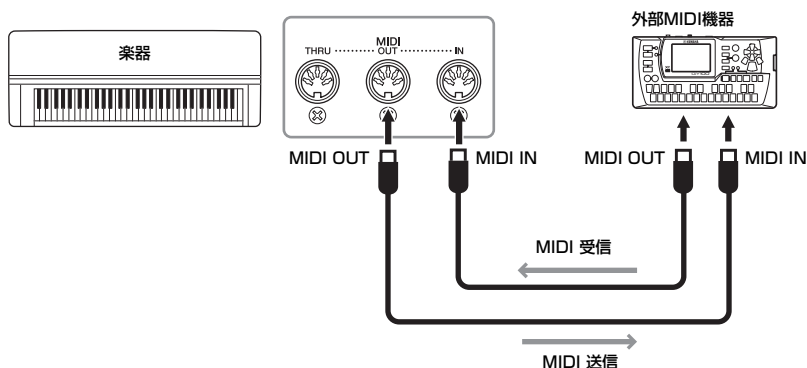
NOTE

- 楽器本体は、USB接続後しばらくしてから通信を開始します。
- 楽器とコンピューターをUSBケーブルで接続する場合は、ハブを経由せず直接接続してください。
- 使用するコンピューターやシーケンスソフトウェアでの必要なMIDI設定については、それぞれの取扱説明書をお読みください。

外部MIDI機器と接続する(MIDI端子)

MIDIケーブルを使って、この楽器と外部MIDI機器(キーボード、シンセサイザー、シーケンサーなど)のMIDI端子を接続すると、この楽器から外部MIDI機器をコントロールしたり、外部MIDI機器からこの楽器をコントロールしたりできます。

- **MIDI [IN] :** MIDIデータを受信する端子です。
- **MIDI [OUT] :** MIDIデータを送信する端子です。
- **MIDI [THRU] :** MIDI INから入ってきたデータをそのまま送信する端子です。複数の機器にMIDIデータを供給する場合などに使います。



⚠ 注意

外部機器と接続するときは、すべての機器の電源を切った上で行ってください。

NOTE

ヤマハダウンロード(7ページ)で、MIDIについての基礎知識を説明した「MIDI入門」をご覧ください。

NOTE

MIDI機器の中でも、機種ごとに送受信できるMIDIデータの内容が同じではないため、接続しているMIDI機器間で共通に扱えるMIDIデータだけが送受信できることになります。この楽器で扱えるMIDIデータについては、ウェブサイト上の「MIDIリファレンス」をご覧ください(7ページ)。

iPhone/iPadと接続する(USB [TO DEVICE]端子、USB [TO HOST]端子、MIDI端子)

この楽器はiPhoneやiPadなどのスマートデバイスと接続できます。楽器対応のアプリケーションを使うことにより、楽器をもっと便利に楽しむことができます。

- 接続の方法については、ウェブサイト上の「iPhone/iPad接続マニュアル」をご覧ください(7ページ)。
- 対応のスマートデバイスやアプリケーションについて詳しくは、ウェブサイト上の下記ページでご確認ください。
<http://jp.yamaha.com/kbdapps/>

USB無線LANアダプター (別売)を使った接続

別売のUSB無線LANアダプター (UD-WL01)を使うと、この楽器をスマートデバイスに無線接続できます。基本的な接続方法は、ウェブサイト上の「iPhone/iPad接続マニュアル」にあります。操作の途中で必要になる楽器側の設定については、次の「無線LANの設定」もあわせてお読みください。

無線LANの設定

iPhone/iPad接続マニュアルの説明手順に沿って操作を始めると、途中で「ネットワーク一覧から選んで接続する」、「WPSによる接続」、「手動接続」、「アクセスポイントモードによる接続」のいずれかの設定が楽器側で必要になります。本書の65ページをご覧ください。必要な操作を行なってください。

NOTE

- USB [TO DEVICE]端子を使う前に、「USB [TO DEVICE]端子ご使用上の注意」(61ページ)をお読みください。
- iPhone/iPadのアプリケーションと一緒に使用する場合は、通信によるノイズを避けるため、iPhone/iPadの機内モードをオンにしてから、Wi-Fiをオンにしてお使いいただくことをおすすめします。

注記

iPhone/iPadを不安定な場所に置かないでください。iPhone/iPadが落下して破損するおそれがあります。

以下の項目は、楽器の電源を入れたあと、USB無線LANアダプターを挿すと表示されます。

* 無線LANの項目は、無線LANモードの設定がインフラストラクチャーモードか、アクセスポイントモードかで表示が異なります。無線LANモードの設定は、初期設定ではインフラストラクチャーモードです。

各項目の呼び出し方： [メニュー]ボタンを何度か押して「システムメニュー」を選択し、[^]/[V]/[<]/[>]ボタンで項目を選択します。								
[>] [<]	[>] [<]	[>] [<]	[>] [<]	[>] [<]	説明	初期設定	設定範囲	
ユーティリティ	無線LAN* (インフラストラクチャーモード時)	ネットワーク 選択	(ネットワーク一覧)		一覧から接続先ネットワークを選ぶことで、ネットワークへ接続します。	-	-	
			その他	SSID	接続先ネットワークのSSIDを設定します。	-	最大32文字。英数字、記号(58ページ)	
				セキュリティ	接続先ネットワークのセキュリティ種別を設定します。	なし	なし、WEP、WPA-PSK(TKIP)、WPA-PSK(AES)、WPA2-PSK(AES)、WPA/WPA2 mixed PSK	
				パスワード	接続先ネットワークのパスワードを設定します。	-	最大64文字。英数字、記号(58ページ)	
				接続	「その他」画面で設定した内容で、ネットワークへ接続します。	-	-	
	無線LAN オプション	無線LAN モード	インフラストラクチャーモード	DHCP		無線LANの詳細設定をします。IPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイ、DNSサーバー1、DNSサーバー2は、DHCPがオフのときは設定できません。設定範囲は0.0.0.0~255.255.255.255です。入力画面では、[<]/[>]ボタンでそれぞれのオクテットを選択し、[^]/[V]ボタンで値を設定します。入力を確定するときは[メニュー]ボタンを押します。	オン	オン、オフ
				IPアドレス		0.0.0.0	0.0.0.0~255.255.255.255	
				サブネットマスク		0.0.0.0	0.0.0.0~255.255.255.255	
				ゲートウェイ		0.0.0.0	0.0.0.0~255.255.255.255	
				DNSサーバー 1		0.0.0.0	0.0.0.0~255.255.255.255	
				DNSサーバー 2		0.0.0.0	0.0.0.0~255.255.255.255	
			保存		-	-		
	アクセスポイントモード		無線LAN接続に、アクセスポイントを使うか(インフラストラクチャーモード)使わないか(アクセスポイントモード)を設定します。	インフラストラクチャーモード	-			
	初期化	中止	無線LANの設定情報の初期化を行ないます。画面の「実行」を反転表示させ、[>]ボタンを押すと実行されます。		中止	-		
			実行		-	-		
詳細	ホスト名	ホスト名を設定します。		SCLP-XXXX-[MACアドレス下6桁]	最大57文字。英数字に加え「-」と「_」も設定可能。			
		MACアドレス		-	-			
		ステータス		-	-			

アクセスポイントモード時の無線LAN

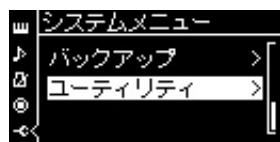
各項目の呼び出し方： [メニュー]ボタンを何度か押して「システムメニュー」を選択し、[^]/[V]/[<]/[>]ボタンで項目を選択します。					
[>] [<]	[>] [<]	[>] [<]	説明	初期設定	設定範囲
ユーティリティ	無線LAN* (アクセスポイントモード時)	SSID	アクセスポイントとしてのSSIDを設定します。	ap-SCLP-XXXX- [MACアドレス下6桁]	最大32文字。英数字、記号(58ページ)
		セキュリティ	アクセスポイントとしてのセキュリティ種別を設定します。	WPA2-PSK(AES)	なし、WEP、WPA-PSK(TKIP)、WPA-PSK(AES)、WPA2-PSK(AES)、WPA/WPA2 mixed PSK
		パスワード	アクセスポイントとしてのパスワードを設定します。	00000000	最大64文字。英数字、記号(58ページ)
		チャンネル	アクセスポイントとしてのチャンネルを設定します。	11	1~13
		DHCPサーバー	IPアドレスに関連する項目を設定します。	オン	オン/オフ
		IPアドレス		192.168.0.1	192固定、168固定、0~255、1~254
		サブネットマスク		255.255.255.0	255.255.0.0、255.255.128.0、255.255.192.0、255.255.224.0、255.255.240.0、255.255.248.0、255.255.252.0、255.255.254.0、255.255.255.0
保存	無線LAN*画面(アクセスポイントモード時)で設定した内容を保存します。 画面の「保存」を反転表示させ、[>]ボタンを押すと保存されます。	—	—		

ネットワーク一覧から選んで接続する

必ず別売のUSB無線LANアダプターを本体のUSB [TO DEVICE]端子に接続しておいてください。接続していないと操作に必要な画面が表示されません。

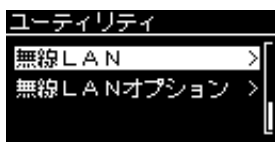
1. [メニュー]ボタンを何度か押してシステムメニュー画面を表示させてから、以下の画面イラストで反転表示された項目を順番に選んでいきます。

システムメニュー画面



- 1-1. [^]/[V]ボタンで「ユーティリティ」を選択
- 1-2. [>]ボタンで次へ

ユーティリティ画面



- 1-3. [^]/[V]ボタンで「無線LAN」を選択
- 1-4. [>]ボタンで次へ

無線LAN画面



- 1-5. [^]/[V]ボタンで「ネットワーク選択」を選択

2. [>]ボタンを押して、楽器近くにあるネットワーク一覧を画面に表示させます。

セキュリティが設定されているネットワークには鍵アイコン(🔒)が表示されます。



NOTE

楽器に電波が届いていない場合やSSIDを非公開にしているネットワークは、一覧に表示されません。

3. 楽器本体をネットワークと接続します。

3-1. お使いになるネットワークを選択し、[>]ボタンを押します。

選んだネットワーク名全体が表示されますので、目的のネットワークであることを確認します。

3-2. [>]ボタンを押します。

• 鍵アイコンが付いていないネットワークの場合：

接続が開始されます。

• 鍵アイコンが付いているネットワークの場合：

パスワード入力画面が表示されますので、パスワードを入力してください。入力方法は、「曲名を変更する」(58ページ)の曲名の付け方と同じです。入力が終わったら[メニュー]ボタンを押して確定します。すると接続が自動的に開始されます。

接続に成功すると、画面に「操作を完了しました」と表示され、数秒後に「ネットワーク選択」画面に戻ります。

4. iPhone/iPadとネットワークを接続します。

ウェブサイト上の「iPhone/iPad接続マニュアル」をご覧ください(7ページ)。

WPSによる接続

お使いのアクセスポイントがWPSに対応している場合は、パスワードなどの設定をすることなく、簡単に楽器をアクセスポイントに接続できます。

必ず別売のUSB無線LANアダプターを本体のUSB [TO DEVICE]端子に接続しておいてください。接続していないと操作に必要な画面が表示されません。

WPSによる接続を開始するには、別売のUSB無線LANアダプターのWPSボタンを3秒以上押し、2分以内にお使いのアクセスポイント側のWPSボタンを押します。WPSによる接続が完了すると、楽器の画面に「操作を完了しました」と表示され、数秒後に音色画面が表示されます。

そのあと、iPhone/iPadとネットワークを接続します。ウェブサイト上の「iPhone/iPad接続マニュアル」をご覧ください(7ページ)。

NOTE

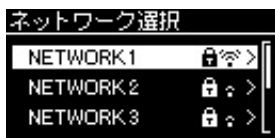
楽器が以下の状態のとき、WPSボタンによる接続はできません。

- デモモード中、曲再生/一時停止/録音中。
- システムメニュー画面の「無線LANオプション」の「無線LANモード」がアクセスポイントモードに設定されている。

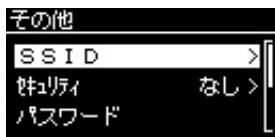
手動接続

必ず別売のUSB無線LANアダプターを本体のUSB [TO DEVICE]端子に接続しておいてください。接続していないと操作に必要な画面が表示されません。

1. 「ネットワーク一覧から選んで接続する」(65ページ)の手順1、2を行ない、楽器の画面に「ネットワーク選択」を表示させます。



2. ネットワーク一覧の一番下の「その他」を選んで[>]ボタンを押します。
3. 「SSID」、「セキュリティ」、「パスワード」を順に設定します。



- 3-1. 「SSID」を選んで[>]ボタンを押すと、入力画面が表示されますので、アクセスポイントとしてのSSIDを入力します。
入力方法は、「曲名を変更する」(58ページ)の曲名の付け方と同じです。入力が終わったら、[メニュー]ボタンを押して確定します。自動的に「その他」画面に戻ります。
- 3-2. 「セキュリティ」を選んで[>]ボタンを押すと、セキュリティのリストが表示されますので、セキュリティを選んでから[<]ボタンでその他画面に戻ります。
- 3-3. 「パスワード」はSSIDと同様の方法で設定します。

NOTE

セキュリティで「なし」を選ぶと、パスワードの設定はできません。

4. 手順3の画面で、一番下の項目「接続」を選び、[>]ボタンを押すと、自動で接続を開始します。

接続が完了すると、楽器の画面に「操作を完了しました」と表示され、ネットワーク選択画面に戻ります。

5. iPhone/iPadとネットワークを接続します。

ウェブサイト上の「iPhone/iPad接続マニュアル」をご覧ください(7ページ)。

アクセスポイントモードによる接続

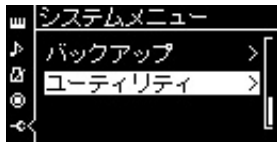
NOTE

インターネットや他の無線機器との通信はできません。

1. 楽器をアクセスポイントモードに切り替えます。

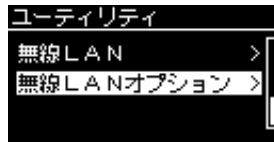
[メニュー]ボタンを何度か押してシステムメニュー画面を表示させてから、以下の画面イラストで反転表示された項目を順番に選んでいきます。

システムメニュー画面



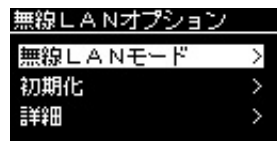
- 1-1. [△]/[▽]ボタンで「ユーティリティ」を選択
- 1-2. [>]ボタンで次へ

ユーティリティ画面



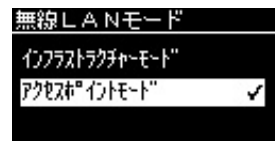
- 1-3. [△]/[▽]ボタンで「無線LANオプション」を選択
- 1-4. [>]ボタンで次へ

無線LANオプション画面



- 1-5. [△]/[▽]ボタンで「無線LANモード」を選択
- 1-6. [>]ボタンで次へ

無線LANモード画面



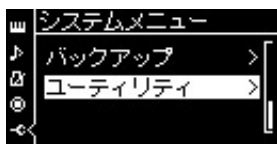
- 1-7. [△]/[▽]ボタンで「アクセスポイントモード」を選択

完了すると、画面に「操作を完了しました」と表示され、数秒後に無線LANモード画面に戻ります。

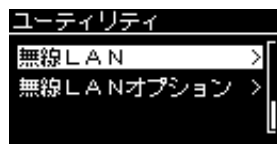
2. 無線LAN項目のSSID、セキュリティ、パスワード、チャンネルを設定します。

- 2-1. システムメニュー画面で、以下の画面イラストで反転表示された項目を順番に選んでいきます。

システムメニュー画面



ユーティリティ画面



無線LAN画面



- 2-2. SSID、セキュリティ、パスワード、チャンネルを設定します。

それぞれ選んで[>]ボタンを押すと入力画面や選択画面が表示されますので、入力、選択を行いません。入力方法とセキュリティの選択方法は、手動接続の手順3と同様です。それぞれの項目の設定範囲については、65ページの表をご覧ください。

3. 設定を保存します。

無線LAN画面の一番下の項目「保存」を選び、[>]ボタンを押すと、設定の保存を開始します。

保存が完了すると、画面に「操作を完了しました」と表示され、ユーティリティ画面に戻ります。

4. iPhone/iPadと楽器(アクセスポイント)を接続します。

ウェブサイト上の「iPhone/iPad接続マニュアル」をご覧ください(7ページ)。

[メニュー]ボタンを押すことにより、音色、曲再生、メトロノーム、録音、楽器の全体設定に関する詳細設定画面を呼び出すことができます。

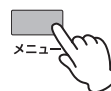
基本操作






1. 必要に応じて、音色設定または曲選択を行いません。

- 音色に関する設定をしたい場合(音色メニューを呼び出す場合は、あらかじめ音色を選択しておきます。R1/R2/L音色同士のバランスなどを調整したい場合は、あらかじめデュアル/スプリットをオンにしておきます。
- 繰り返し再生など曲再生に関する設定をしたい場合は、あらかじめ曲を選択しておきます。
- 録音した曲データを編集したい場合(曲メニューの「編集」を呼び出したい場合)、あらかじめその曲を選択しておきます。

2. [メニュー]ボタンを何回か押してメニューを選択します。

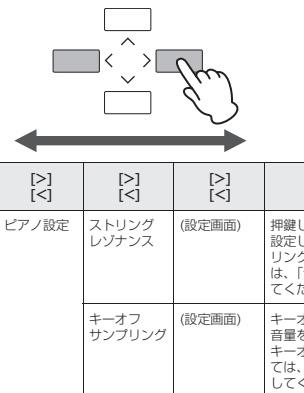
[メニュー]ボタンを繰り返し押すことで、画面左に縦に並んでいるメニューの画面に順次切り替わります。



-  音色メニュー (70ページ)
-  曲メニュー (74ページ)
-  メトロノームメニュー (77ページ)
-  録音メニュー (78ページ)
-  システムメニュー (79ページ)

3. [上]/[下]/[左]/[右]ボタンを使って項目を選択します。

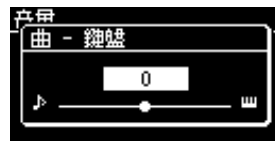
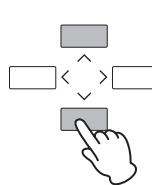
手順2に列挙した各ページ掲載の一覧表につき、縦方向は[上]/[下]ボタンを、横方向は[左]/[右]ボタンを使うことで画面各ページを往来します。



4. 手順3で呼び出した画面上で、数値を選択したり、機能を実行したりします。

ほとんどの画面では数値の選択をすることになりますが、曲メニューの「編集」やシステムメニューの「バックアップ」「USBフォーマット」など一部の画面では、データ書き換えの処理を実行することになります。

右のようなスライダー画面が表示された場合は、[左]/[右]ボタンで値を設定し、[戻る]ボタンで画面を閉じてください。また設定値が2つしかない場合は(オンとオフ、など)、[右]ボタンを押すたびに、2つの値を切り替えられます。



5. 設定が終わったら、[戻る]ボタンでメニュー画面から抜けます。



四 音色メニュー

音色メニューでは、音色をはじめとして鍵盤演奏に関する詳細設定ができます。デュアル/スプリットがオンの場合は、音色(または音色の組み合わせ)ごとに個別に設定できます。鍵盤を弾いて音を聞きながら数値を変更することで、お好みのサウンドを設定しましょう。なお、デュアル/スプリットの音色を設定する(27～29ページ)ときは、デュアル/スプリットをオンにしてから、操作をはじめてください。

NOTE

* が付いている項目は、デュアル/スプリットがオンの場合のみ表示されます。

各項目の呼び出し方： 必要に応じて音色選択やデュアル/スプリット設定をしたあと、[メニュー]ボタンを何度か押して「音色メニュー」を選択し、[^]/[V]/[<]/[>]ボタンで項目を選択します。					
[>] [<]	[> [<	[> [<	説明	初期設定	設定範囲
ピアノ設定	ストリング レゾナンス	(設定画面)	押鍵したとき加わる、弦共鳴音のかかり具合を設定します。一部の音色のみに有効です。ストリングレゾナンスを付けられる音色については、「音色一覧(詳細版)」(85ページ)を確認してください。	5	オフ、1～10
	キーオフ サンプリング	(設定画面)	キーオフ音(鍵盤を離したときの微妙な発音)の音量を変えます。一部の音色のみに有効です。キーオフサンプリングを付けられる音色については、「音色一覧(詳細版)」(85ページ)を確認してください。	5	オフ、1～10
リバーブ	(設定画面)	—	リバーブタイプを選択します。リバーブは、鍵盤演奏、曲再生音、外部から入力されたMIDIデータすべてに共通にかかります。	音色または音色の組み合わせによる	リバーブタイプ リスト参照(72 ページ)
コーラス	(設定画面)	—	コーラスタイプを選択します。コーラスは、鍵盤演奏、曲再生音、外部から入力されたMIDIデータすべてに共通にかかります。	音色または音色の組み合わせによる	コーラスタイプ リスト参照(72 ページ)
バランス*	音量 R2 - R1*	(設定画面)	デュアルオンの場合の2つの音色の音量バランスを調整します。[<]/[>]ボタンで調整後、[戻る]ボタンでスライダー画面を抜けます。	音色または音色の組み合わせによる	R2+10～0～ R1+10
	音量 L - R*	(設定画面)	スプリットオンの場合の左手鍵域と右手鍵域の音量バランスを調整します。[<]/[>]ボタンで調整後、[戻る]ボタンでスライダー画面を抜けます。	音色または音色の組み合わせによる	L+10～0～R+10
	デチューン*	(設定画面)	デュアルで選択した2つの音色のピッチ(音高)を微妙にずらすことで、音の厚みを増します。画面上でスライダーを右へ動かすほど、R1(第1音色)のピッチが高く、R2(第2音色)のピッチが低くなります。スライダーを左へ動かすほど、R1(第1音色)のピッチが低く、R2(第2音色)のピッチが高くなります。調整が終わったら、[戻る]ボタンでスライダー画面を抜けます。	音色または音色の組み合わせによる	R2+20～0～ R1+20
音色編集	音色名*	オクターブ	鍵盤音の高さをオクターブ単位で上下にシフトします。デュアル/スプリットがオンの場合は、音色ごとに設定できます。	音色または音色の組み合わせによる	-2(2オクターブ 下)～0(シフトしない)～+2(2オク ターブ上)
		音量	音色の音量を調整します。デュアル/スプリットがオンの場合は、音色ごとに設定することでバランスを調整します。	音色または音色の組み合わせによる	0～127
		リバーブの 深さ	現在選択されているリバーブの深さ(かかり具合)を調整します。デュアル/スプリットがオンの場合は、音色ごとに設定することでバランスを調整します。設定値が0の場合、効果はかかりません。	音色または音色の組み合わせによる	0～127

各項目の呼び出し方：

必要に応じて音色選択やデュアル/スプリット設定をしたあと、[メニュー]ボタンを何度か押して「音色メニュー」を選択し、[^]/[V]/[<]/[>]ボタンで項目を選択します。

[>] [<]	[>] [<]	[>] [<]	説明	初期設定	設定範囲
音色編集	音色名*	コーラスの 深さ	現在選択されているコーラスの深さ(かかり具合)を調整します。デュアル/スプリットがオンの場合は、音色ごとに設定することでバランスを調整します。設定値が0の場合、効果はかかりません。	音色または音色の組み合わせによる	0~127
		エフェクト	リバーブやコーラスとは別に、鍵盤演奏の音色に対して、個別にエフェクトをかけられます。最大2つの音色にまで設定できます。	音色または音色の組み合わせによる	「エフェクトタイプリスト」参照(72ページ)
		ロータリー SP	エフェクトタイプとして「ロータリー」を選んだ音色にだけ有効です。ロータリースピーカーエフェクトの回転スピードを設定します。	音色または音色の組み合わせによる	速い、遅い
		パイプロー ター	エフェクトタイプとして「パイプローター」を選んだ音色にだけ有効です。パイプローター効果をかける/かけない(オン/オフ)を設定します。	音色または音色の組み合わせによる	オン、オフ
		スピード	エフェクトタイプに「パイプローター」を選んだ音色にだけ有効です。ピブラフォン独特のピブラト(音揺れ)のスピードを設定します。	音色または音色の組み合わせによる	1~10
		エフェクトの 深さ	エフェクト(上記)のかかり具合を、音色ごとに設定します。エフェクトタイプの中にはかかり具合の設定ができないものがあります。	音色または音色の組み合わせによる	1~127
		パン	各音色の音が、左右のどのあたりから聞こえてくるようにするかを、個別に設定します。	音色または音色の組み合わせによる	L64 (左寄り)~C (中央)~R63 (右寄り)
		ハーモニック コンテンツ	フィルターのレゾナンス値を上げることで、音に独特のクセを付けることができます。音色ごとに設定します。 NOTE 音色によっては、効果のかかり具合がわかりにくい、もしくは効果がかけられないものがあります。	音色または音色の組み合わせによる	-64~+63
		ブライツネス	各音色の明るさを個別に調整します。	音色または音色の組み合わせによる	-64~+63
		タッチセンス	鍵盤を弾いたときの強さに対する音量変化の幅/音量の出やすさを設定します。ハーブシコードやオルガンなどの音色は、鍵盤を弾いたときの強さによる音量変化がない楽器なので、初期設定は127 (音量が一定)になっています。	音色または音色の組み合わせによる	0 (音量が出にくい)~64 (音量変化幅が最大)~127 (音量が出やすく一定音量)
		右ペダル	音色ごとに、右ペダルの機能をオン/オフします。たとえばスプリットオン時に、右手演奏にはペダル効果をかけたいが左手演奏にはかけたくない場合などに活用します。	音色または音色の組み合わせによる	オン/オフ
		中ペダル	音色ごとに、中ペダルの機能をオン/オフします。たとえばスプリットオン時に、右手演奏にはペダル効果をかけたいが左手演奏にはかけたくない場合などに活用します。	音色または音色の組み合わせによる	オン/オフ
左ペダル	音色ごとに、左ペダルの機能をオン/オフします。たとえばスプリットオン時に、右手演奏にはペダル効果をかけたいが左手演奏にはかけたくない場合などに活用します。	音色または音色の組み合わせによる	オン/オフ		

各項目の呼び出し方： 必要に応じて音色選択やデュアル/スプリット設定をしたあと、[メニュー]ボタンを何度か押して「音色メニュー」を選択し、[>]/[V]/[<]/[>]ボタンで項目を選択します。					
[>] [<]	[>] [<]	[>] [<]	説明	初期設定	設定範囲
ペダル割り当て	右ペダル	(設定画面)	右ペダルに、ダンパーペダル(サステイン)とは違う機能を割り当てます。	サステイン(連続)	「ペダル機能リスト」参照(73ページ)
	中ペダル	(設定画面)	中ペダルに、ソステヌートペダルとは違う機能を割り当てます。	ソステヌート	「ペダル機能リスト」参照(73ページ)
	左ペダル	(設定画面)	左ペダルに、ソフトペダルとは違う機能を割り当てます。	<ul style="list-style-type: none"> ・メロウオルガン選択時： ロータリースピード ・ピブラフォン選択時： バイプローター ・上記以外の音色選択時： ソフト 	「ペダル機能リスト」参照(73ページ)

■ リバートイプリスト

オフ	効果なし
リサイタルホール	ピアノリサイタル向けの中規模ホールのクリアな響き
コンサートホール	オーケストラの公演が行なわれる大きなホールの華やかな響き
サロン	室内楽に適した、宮廷内の広間の落ち着いた響き
大聖堂	天井の高い石造りの大聖堂の荘厳な響き
クラブ	ライブハウスやジャズクラブのメリハリのある響き
プレート	録音スタジオで使用される往年のリバート装置の明るい響き

■ コーラスタイプリスト

オフ	効果なし
コーラス	豊かな広がりを加える効果
セレステ	うねりと広がりを加える効果
フランジャー	ジェット機の上昇、下降音のようなうねりを加える効果

■ エフェクトタイプリスト

エフェクトタイプ	効果
オフ	効果なし
ダンパーレゾナンス	ダンパーペダルを踏んだときのグランドピアノのような共鳴効果
ディレイLCR	左、中央、右の3つの位置でかかるディレイ(音を遅らせる)効果
ディレイLR	左右2つの位置でかかるディレイ効果
エコー	「こだま」のようなディレイ効果
クロスディレイ	左右2つのディレイを交差してかけた効果
シンフォニック	豊かで奥行きのある響きを作る効果
ロータリー	ロータリースピーカー(回転スピーカー)を使っているようなビブラート感が得られる効果
トレモロ	音量が周期的に変化する効果
バイプローター	ピブラフォン特有のビブラート
オートパン	音が左右、前後に揺れ動くような効果
フェイザー	位相を周期的に変化させ、音にうねりを持たせる効果
オートワウ	ワウフィルターの中心周波数を周期的に変化させる効果

■ ペダル機能リスト

機能	説明	割り当て可能なペダル ○:可能 ×:不可		
		左ペダル	中ペダル	右ペダル
サステイン(スイッチ)	オン/オフスイッチ式のダンパー	○	○	○
サステイン(連続)	踏み込むほど音が長く伸びるダンパー (72ページ)	×	×	○
ソステヌート	ソステヌート(72ページ)	○	○	○
ソフト	ソフト(72ページ)	○	○	○
エクスプレッション	演奏中に音の強弱を付ける機能	×	×	○
ピッチベンドアップ	音の高さを連続的に上げる機能	×	×	○
ピッチベンドダウン	音の高さを連続的に下げる機能	×	×	○
ロータリースピード	メロウオルガンのロータリースピーカーの回転数の変化 (踏むごとに速い/遅いが切り替わる)	○	○	○
パイプローター	ビブラフォンのビブラートのオン/オフ(踏むごとにオン/ オフが切り替わる)	○	○	○

曲メニュー

曲メニューでは、曲再生に関するさまざまな設定や、曲データの一括修正ができます。

NOTE

「実行」は、現在選択されている曲データを修正する機能です。[>]ボタンを押すことで曲データが書き換わるので十分ご注意ください。

各項目の呼び出し方： 必要に応じて曲を選択したあと、[メニュー]ボタンを何度か押して「曲メニュー」を選択し、[^]/[v]/[<]/[>]ボタンで項目を選択します。					
[>] [<]	[>] [<]	[>] [<]	説明	初期設定	設定範囲
トラック オン/オフ	右トラック 左トラック その他トラック	—	曲再生をトラックごとにオフにします。	オン	オン、オフ
リピート	A - B	(設定画面)	現在選択されているMIDI曲の一部(A点~B点)を、繰り返し再生する機能(ABリピート)です。詳細な手順は39ページをご参照ください。	オフ	オン、オフ
	フレーズ	フレーズ マーク	フレーズマークが入っているMIDI曲が選ばれている場合のみ有効です。「リピート」をオンにし、フレーズマークの番号を指定することで、曲の該当フレーズから再生したり、そのフレーズだけを繰り返し再生させたりします。「フレーズ」がオンの場合に[▶/](スタート/一時停止)ボタンを押すと、カウント音に続いて指定のフレーズ番号から再生が開始され、[■](ストップ)ボタンを押すまで繰り返し再生されます。フレーズリピート中は、曲画面にアイコン()が表示されます。	000	000~その曲の最終フレーズ番号
		リピート			オフ
曲	(設定画面)		特定の曲だけを順に再生したり、ランダムに再生したりします。	オフ	オフ、1曲、全て、ランダム
音量	曲 - 鍵盤	(設定画面)	曲再生音と鍵盤演奏音の音量バランスを調節します。	0	Key+64~0~Song+64
	曲 L - R	(設定画面)	曲再生音の右手パートと左手パートの音量バランスを調節します。	0	L+64~0~R+64
移調	(設定画面)	—	鍵盤の音の高さを変えずに、再生する曲だけを、半音単位で移調します。たとえば、移調量を「5」に設定すると、「ハ長調」の曲は「ヘ長調」で再生されます。 NOTE [AUX IN]端子から入力されたオーディオ音声は移調されません。 NOTE MIDI曲の演奏情報(ノートオン/オフ)をMIDI送信する場合、ノートナンバーは本来の値に移調値を加えた値で送信されます。ノートオン/オフをMIDI受信した場合は、受信したままのノートナンバーで発音します(移調されません)。	0	-12(-1オクターブ)~0(標準ピッチ)~+12(+1オクターブ)
ファイル	削除	中止	曲を削除します。 ファイル操作が可能な曲については、54ページをご覧ください。	—	—
		実行			
	コピー	中止	曲のコピーを別の場所に保存します。 ファイル操作が可能な曲については、54ページをご覧ください。	—	—
		実行			
移動	中止	曲を別の場所に移動します。 ファイル操作が可能な曲については、54ページをご覧ください。	—	—	
	実行				
名前の変更	(設定画面)		曲名を変更します。 ファイル操作が可能な曲については、54ページをご覧ください。	—	—


NOTE

「編集」の機能を使う場合は、内蔵曲以外のMIDI曲を選んでください。

各項目の呼び出し方： 必要に応じて曲を選択したあと、[メニュー]ボタンを何度か押して「曲メニュー」を選択し、[^]/[V]/[<]/[>]ボタンで項目を選択します。						
[>] [<]	[>] [<]	[>] [<]	説明	初期設定	設定範囲	
編集	クオンタイズ (曲データ上の音符のタイミングのずれを修正する)	クオンタイズ	現在選択されているMIDI曲の各音符の位置を、8分音符や16分音符などのタイミングに正確に移動することで曲データを修正する機能です。	1/16	「クオンタイズ設定範囲」参照(76ページ)	
		強さ	1. クオンタイズでクオンタイズの分解能(修正する音符の単位)を設定します。	100%	0%~100% (76ページ)	
		実行	2. 強さでクオンタイズをかける効果の強さを設定します。 3. 「実行」にカーソルを合わせて[>]ボタンを押すことでデータ修正を実行します。	-	-	
	トラック削除 (トラックの削除)	トラック	現在選択されているMIDI曲のデータを、トラックごとに削除する機能です。	トラック1	トラック1~ トラック16	
		実行	1. 「トラック」にカーソルを合わせ、削除対象のトラックを選択します。 2. 「実行」にカーソルを合わせて[>]ボタンを押すことで、指定トラックのデータ削除を実行します。	-	-	
	テンポ変更 (曲データのテンポ変更)	中止	現在選択されているMIDI曲のテンポ値を変更し、曲データとして修正する機能です。	曲による	***~***	
		実行	「実行」にカーソルを合わせて[>]ボタンを押すことで、曲データの修正を実行します。	-	-	
	音色変更	トラック	現在選択されているMIDI曲の音色を、トラックごとに現在選択されている音色に変更し、曲データとして修正する機能です。	トラック1	トラック1~ トラック16	
		実行	1. 音色を変更したいトラックを選択します。 2. 「実行」にカーソルを合わせて[>]ボタンを押すことで、曲データの修正を実行します。	-	-	
	その他	クイックプレイ	-	現在選択されているMIDI曲の冒頭部に無音部分がある場合、クイックプレイをオンに設定することで、音のあるところからすぐに再生を開始させることができます。アフタクト(弱起=小節の途中拍から曲が始まること)のMIDI曲を再生する場合に便利な設定です。	オン	オン/オフ
		トラック試聴	トラック	トラック別の中身を確認するために、1トラックだけを選んで再生できます。実際の音が鳴るところからすぐに再生されます。トラック選択後に、「スタート」にカーソルを合わせた状態で[>]ボタンを押している間だけ、選択したトラックが再生されます。	トラック1	トラック1~ トラック16
			スタート			
再生トラック	-	この楽器で再生するトラックを設定できます。「1&2」では、トラック1と2だけが再生され、3から16トラックはMIDI送信されます。「全て」では、トラック1から16すべてが再生されます。	全て	全て、1&2		

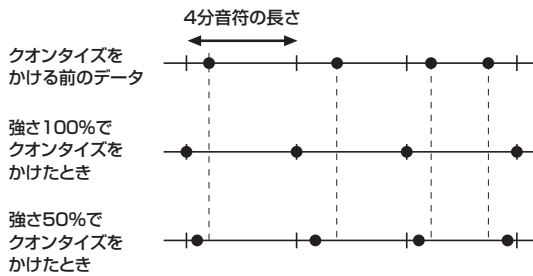
■ クオンタイズ補足説明

クオンタイズ設定範囲

1/4.....		4分音符
1/6.....		3連4分音符
1/8.....		8分音符
1/12.....		3連8分音符
1/16.....		16分音符
1/24.....		3連16分音符
1/32.....		32分音符
1/8+1/12.....		8分音符+3連8分音符*
1/16+1/12.....		16分音符+3連8分音符*
1/16+1/24.....		16分音符+3連16分音符*

* マークが付いた設定は、同時に異なる2つの音符のタイミングにクオンタイズできます。たとえば、8分音符と3連8分音符の両方のタイミングに録音されているトラックに「8分音符」を選択すると、そのトラックの全音符が8分音符でクオンタイズされてしまい、3連8分音符のタイミングの音がなくなってしまいます。しかし、「8分音符+3連8分音符」に設定すれば、8分音符と3連符の両方のタイミングの音をクオンタイズできます。

強さの設定による修正データの違い



☒ メトロノームメニュー

メトロノームメニューでは、メトロノーム再生時(30ページ)またはリズム再生時(43ページ)の音量/テンポ表示のしかたを設定します。また、拍子設定(31ページ)の1拍めにメトロノームのベル音を鳴らすかどうかや、リズムの再生方法に関する設定もできます。拍子とテンポの設定は、[メトロノーム/リズム]ボタン(SCLP-5350は[メトロノーム]ボタン)を押して呼び出される画面上で設定できます。

各項目の呼び出し方： 必要に応じて曲を選択したあと、[メニュー]ボタンを何度か押して「メトロノームメニュー」を選択し、[△]/[▽]ボタンで項目を選択します。					
[>] [<]	[>] [<]	[>] [<]	説明	初期設定	設定範囲
	(設定画面)	—	メトロノーム/リズムの音量を設定します。これにより、鍵盤演奏の音量とバランスをとります。	82	0~127
	—	—	画面上のテンポ表示の基準音価を、メトロノームの拍子設定(31ページ)に連動させるか、拍子設定に関係なく4分音符基準にするかを設定します。「拍子に連動」を選択した場合、拍子設定の分母値が基準音価になります。(ただし、拍子が「6/8」「9/8」「12/8」に限り、符点4分音符が基準音価になります。)	拍子に連動	拍子に連動、 4分音符
	—	—	設定された拍子(31ページ)の1拍目で、メトロノームのベル音を鳴らすか鳴らさないかを設定します。	オフ	オン、オフ
	—	—	リズム再生開始時にイントロを再生する(オン)か、しない(オフ)かを設定します。 NOTE イントロをオンに設定した場合でも、曲再生中にリズム再生を開始した場合は、イントロは再生されません。ただし、曲のシンクロスタート機能(42ページ)をオンにして、[メトロノーム/リズム]ボタンを押すと、曲再生開始と同時にリズムのイントロが再生されます。	オン	オン、オフ
	—	—	リズム再生終了時にエンディングを再生する(オン)か、しない(オフ)かを設定します。	オン	オン、オフ
	—	—	鍵盤を弾くと同時にリズムをスタートさせる(オン)か、させない(オフ)かを設定します。 この機能を使うには、以下の操作を行ってください。 1. この機能をオンにする。 2. [メトロノーム/リズム]ボタンを押してシンクロスタート待機状態に入る。 [メトロノーム/リズム]ボタンが点滅する。 3. 鍵盤を弾いて、リズムをスタートさせる。	オフ	オン、オフ

🔍 録音メニュー

録音メニューでは、録音(44ページ)の詳細な条件を設定します。

各項目の呼び出し方： 必要に応じて曲を選択したあと、[メニュー]ボタンを何度か押して「録音メニュー」を選択し、[△]/[▽]ボタンで項目を選択します。					
[>] [<]	[>] [<]	[>] [<]	説明	初期設定	設定範囲
録音開始	-	-	既存MIDI曲への上書き録音時のための設定で、MIDI録音開始の操作後に実際に録音が始まるタイミングを指定します。「標準」を選択した場合、録音開始の操作と同時に、実際の録音も始まります。鍵盤を弾いていなくても無音部分として録音されます。「押鍵」を選択した場合は、録音開始の操作をしたあと、鍵盤を弾いたときに初めて実際の録音が始まります。	標準	標準、押鍵
録音終了	-	-	既存MIDI曲への上書き録音時のための設定で、MIDI録音終了の操作後に、終了したタイミング以降の曲データを消す(差し替え)か残す(パンチアウト)かを設定します。	差し替え	差し替え、パンチアウト
リズム録音 (SCLP-5450)	-	-	メトロノームの種類として「リズム」を選択している場合、リズム再生をMIDI録音する(オン)/しない(オフ)を設定します。	オン	オン、オフ

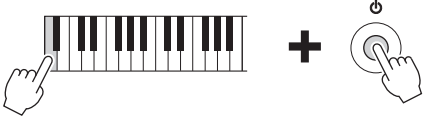
☛ システムメニュー

システムメニューでは、楽器全体にかかわる設定を行ないます。

各項目の呼び出し方： 必要に応じて曲を選択したあと、[メニュー]ボタンを何度か押して「システムメニュー」を選択し、[^]/[v]/[<]/[>]ボタンで項目を選択します。					
[>] [<]	[>] [<]	[>] [<]	説明	初期設定	設定範囲
移調	(設定画面)	—	鍵盤演奏音のキーを半音単位で移調します。ここでの設定により、弾く鍵盤を変えずに、ほかの楽器や歌う人の声の高さにキー(調)を合わせられます。たとえば、移調を「5」に設定すると、「ド」の鍵盤を弾いたときに「ファ」の音が鳴り、「八長調」の弾きかたで「へ長調」の演奏ができます。 NOTE ここでの設定は曲再生音には関係ありません。曲再生音のキー(調)を変えたいときは、曲メニュー(74ページ)の移調で設定してください。 NOTE 鍵盤演奏の情報(ノートオン/オフ)をMIDI送信する場合、ノートナンバーは本来の値に移調値を加えた値で送信されます。ノートオン/オフをMIDI受信した場合は、受信したままのノートナンバーで発音します(移調されません)。	0	-12(-1オクターブ)~0(標準音程)~+12(+1オクターブ)
チューニング	音の高さ (マスターチューン)	(設定画面)	楽器全体の音の高さを微調整します。ほかの楽器との合奏やCDの再生に合わせて演奏するときなどに、それらのピッチ(音の高さ)と楽器本体のピッチを正確に合わせたい場合に使用します。 NOTE マスターチューン設定は、MIDI曲には記録されません。	A3 = 440.0Hz	A3 = 414.8Hz ~466.8Hz (約0.2Hz単位)
	音律	(設定画面)	現代のピアノはほとんどの場合、「平均律」と呼ばれる1オクターブを12分割した音律で調律(チューニング)されています。デジタルピアノでも初期設定は「平均律」ですが、16~19世紀の古代に使われていた音律をフンタッチで呼び出し、当時の音律で演奏することも可能です。	平均律	「音律リスト」 参照(82ページ)
	基音	(設定画面)	上記で選択した音律の基音(演奏する曲の調の主音)を設定します。上記で「平均律」以外を選んだときは、基音の設定が必要です。 NOTE 音律で「平均律」を選んでいる場合は、「---」表示となり、値の変更はできません。	C	C、C#、D、 Eb、E、F、 F#、G、Ab、 A、Bb、B
鍵盤	タッチ	(設定画面)	鍵盤を弾く強さに対する音の強弱の付きかた(タッチ感度)を選びます。 ・ソフト2：弱いタッチで大きい音を出すことができます。 ・ソフト1：ソフト2とミディアムの間です。 ・ミディアム：標準的なタッチです。 ・ハード1：ハード2とミディアムの間です。 ・ハード2：強いタッチで弾かないと大きい音が出にくい設定です。 ・固定：タッチによる強弱は付かず一定のボリュームが出ます。 NOTE ここでの設定は、MIDI録音されたりMIDI出力されたりしません。	ミディアム	ソフト1、ソフト2、ミディアム、ハード1、ハード2、固定
	ペロシティ	(設定画面)	タッチが「固定」に設定された場合のペロシティ値(音量)を設定します。 NOTE ここでの設定は、MIDI録音されたりMIDI出力されたりしません。	64	1~127
	スプリットポイント	(設定画面)	スプリットポイント(鍵盤の右手領域と左手領域の境め)を設定します。	F#2	A-1~C7

各項目の呼び出し方： 必要に応じて曲を選択したあと、[メニュー]ボタンを何度か押して「システムメニュー」を選択し、[^]/[v]/[<]/[>]ボタンで項目を選択します。					
[>] [<]	[>] [<]	[>] [<]	説明	初期設定	設定範囲
ペダル	ハーフペダルの位置	(設定画面)	ペダル機能が「サステイン連続」に設定されている場合のみ有効な項目で、右ペダルをどのくらい踏み込めば「サステイン連続」の効果が効き始めるのかを設定します。	0	-2 (浅い位置で効く)~0~+4 (深い位置で効く)
	ソフトペダルの深さ	(設定画面)	機能として「ソフト」(73ページ)が割り当てられたペダルにつき、そのかかり具合を設定します。	5	1~10
	ピッチバンドの範囲	(設定画面)	機能として「バンドアップ」または「バンドダウン」(73ページ)が割り当てられたペダルにつき、ピッチ(音の高さ)を連続的に変化させる幅を、半音単位で設定します。 NOTE 一部の音色では、ピッチバンドの範囲の設定どおりに音の高さが変化しない場合があります。	2	0~+12 (ペダルを踏むと12半音<1オクターブ>上がる/下がる)
	再生/一時停止	(設定画面)	パネル上の[▶/■](スタート/一時停止)ボタンの機能をいずれかのペダルに割り当てます。ここで[▶/■](スタート/一時停止)ボタンの機能を割り当てられたペダルにつき、音色メニューで割り当てられた機能(72ページ)は無効になります。	オフ	オフ、左ペダル、中ペダル
音響	プリリアンス	(設定画面)	鍵盤演奏音の明るさ(プリリアンス)を設定します。	標準	メロウ1~3、標準、ブライト1~3
	IAC	-	IACのオン/オフを設定します。	オン	オン/オフ
	IACの深さ	(設定画面)	IACの効果のかかり具合を設定します。値が大きいほど、音量が小さいときの低音や高音がよりしっかりと聞こえるように補正されます。	0	-3~+3
	SP オプティマイザー (SCLP-5450)	-	ステレオフォニックオプティマイザーの有効/無効を設定します(16ページ)。	HP (有効)	HP (有効)、オフ(無効)
MIDI	MIDI出力	(設定画面)	楽器本体の鍵盤演奏を、USB [TO HOST]端子およびMIDI [OUT]端子から送信するときのチャンネルを設定します。デュアル/スプリットがオンの場合は以下チャンネルにてMIDI送信されます。 ・右側の第1音色による演奏 = n (設定値) ・左側の音色による演奏 = n+1 ・右側の第2音色による演奏 = n+2	チャンネル1	チャンネル1~チャンネル16、オフ (送信しない)
	MIDI入力	(設定画面)	MIDI [IN]端子およびUSB [TO HOST]端子から受信したMIDIメッセージの各チャンネルにつき、楽器本体のどのパートの演奏をコントロールするかを設定します。 ・曲：曲パートをコントロールします。 ・鍵盤：メイン、デュアル、スプリットに関係なく、鍵盤演奏をコントロールします。 ・R1：右側の第1音色による鍵盤演奏をコントロールします。 ・R2：右側の第2音色による鍵盤演奏をコントロールします。 ・L：左側の音色による鍵盤演奏をコントロールします。 ・オフ：受信しません。	全チャンネルにつき、「曲」	各チャンネルにつき、 ・曲 ・鍵盤 ・R1 ・R2 ・L ・オフ
	ローカルコントロール	-	通常、鍵盤を弾くと楽器本体の「音源部」から音が鳴ります。この状態を、ローカルコントロール=オンといいます。ローカルコントロールをオフにすると「鍵盤」と「音源」が切り離され、鍵盤を弾いても本体から音が出なくなります。ただし、鍵盤演奏の情報はMIDI送信されるので、本体では音を鳴らさずにMIDI接続した外部MIDI音源の音が鳴ります。	オン	オン/オフ

各項目の呼び出し方： 必要に応じて曲を選択したあと、[メニュー]ボタンを何度か押して「システムメニュー」を選択し、[^]/[V]/[<]/[>]ボタンで項目を選択します。					
[>] [<]	[>] [<]	[>] [<]	説明	初期設定	設定範囲
MIDI	受信パラメータ	(設定画面)	外部から受信するMIDIメッセージにつき、その種類ごとに、受信する(オン)かしない(オフ)かを設定します。 ■ MIDIメッセージの種類 ノート、コントロールチェンジ、プログラムチェンジ、ピッチベンド、システムエクスクルーシブ	全メッセージにつき「オン」	各メッセージにつき、 ・ オン ・ オフ
	送信パラメータ	(設定画面)	楽器本体での演奏で発生するMIDIメッセージの種類ごとに、外部に送信する(オン)かしない(オフ)かを設定します。 ■ MIDIメッセージの種類 ノート、コントロールチェンジ、プログラムチェンジ、ピッチベンド、システムリアルタイム、システムエクスクルーシブ	全メッセージにつき「オン」	各メッセージにつき、 ・ オン ・ オフ
	初期設定送信	(実行画面) ・ 中止する ・ 送信する	楽器本体に接続した外部MIDI機器/コンピューターなどへ、音色選択などのパネル設定データを送信します。外部MIDI機器やコンピューターにMIDI録音する前にこの機能を実行しておけば、録音データの先頭にパネル設定が記録され、あとで再生するときに録音時のサウンドが正確に再現されま ■ 操作： 実行画面にて「送信する」にカーソルを合わせ、[>]ボタンを押すと、パネル設定がMIDI送信されます。	—	—
バックアップ	バックアップ設定		これらの説明は、83ページ～84ページをご参照ください。	—	—
	バックアップ				
	リストア				
	ファクトリーセット				
ユーティリティ	USBフォーマット(初期化)	中止	USB [TO DEVICE]端子に接続したUSBフラッシュメモリーをフォーマット(初期化)します。 注記 フォーマットを実行すると、USBフラッシュメモリーに保存されているデータがすべて消去されます。大切なデータはコンピューターなど、他の記憶装置に保存しておいてください。 NOTE USBフラッシュメモリーによっては、USB [TO DEVICE]接続したときに、フォーマットを促すメッセージが表示されます。その場合は、フォーマットを実行してください。	—	—
		実行	[>]ボタンを押すことでフォーマットが開始されます。フォーマットが完了したらメッセージが表示され、数秒後にユーティリティ画面に戻ります。 注記 「操作を実行しています」の表示中は、電源を切ったり、USBフラッシュメモリーを外したりしないでください。データの破損の原因になります。	—	—
	USBプロパティ	—	USB TO DEVICE端子に接続されているUSBフラッシュメモリーの空き容量や全体容量を表示します。 	—	—
	USB自動ロード	—	この項目を「オン」に設定することにより、USB [TO DEVICE]端子にUSBフラッシュメモリーを接続したと同時に、USBフラッシュメモリーのルートにある(フォルダーに入っていない)曲を自動で呼び出せます(画面に表示されます)。	オフ	オン、オフ

各項目の呼び出し方： 必要に応じて曲を選択したあと、[メニュー]ボタンを何度か押して「システムメニュー」を選択し、[^]/[V]/[<]/[>]ボタンで項目を選択します。											
[>] [<]	[>] [<]	[>] [<]	説明	初期設定	設定範囲						
ユーティリティ	スピーカー	(設定画面)	<p>本体スピーカーを鳴らす(オン) / 鳴らさない(オフ)を切り替えます。</p> <table border="1"> <tr> <td>標準</td> <td>ヘッドホンが接続されていないときだけスピーカーが鳴ります。</td> </tr> <tr> <td>オン</td> <td>常にスピーカーが鳴ります。</td> </tr> <tr> <td>オフ</td> <td>スピーカーは鳴りません。</td> </tr> </table>	標準	ヘッドホンが接続されていないときだけスピーカーが鳴ります。	オン	常にスピーカーが鳴ります。	オフ	スピーカーは鳴りません。	標準	標準、オン、オフ
	標準	ヘッドホンが接続されていないときだけスピーカーが鳴ります。									
	オン	常にスピーカーが鳴ります。									
オフ	スピーカーは鳴りません。										
コントラスト	(設定画面)	画面のコントラストを調整します。	0	-5~+5							
オートパワーオフ	(設定画面)	<p>オートパワーオフ機能により電源が自動オフされるまでの時間を設定します。自動的に電源をオフにたくない場合は、「オフ」を選びます。</p> <p>■ オートパワーオフの簡単解除</p>  <p>左端の鍵盤を押したまま電源を入れると、オートパワーオフ解除を知らせるメッセージが表示され、オートパワーオフ機能が解除されます。</p>	30 (分)	オフ、5、10、15、30、60、120(分)							
無線LAN、無線LANオプション		これらの項目については、65ページをご覧ください。									

■ 音律リスト

平均律	1オクターブを12の間隔で等分した音律。現在もっともポピュラーなピアノの調律法。
純正律「長調」 / 「短調」	自然倍音を基準とするため、主要3和音が美しく純粋に響くのが特徴。現在でも合唱のハーモニーなどで見られる。
ピタゴラス音律	ギリシャ時代の哲学者ピタゴラスによって考えられた5度音程だけの組み合わせからできた音律。3度はうなりが生じるが4度と5度の音程が美しく、旋律の演奏に向いている。
中全音律	ピタゴラス音律の3度のうなりをなくすために改良された音律。16世紀後半から18世紀後半までにかけて広く普及し、ヘンデルも使用した。
ヴェルクマイスター / キルンベルガー	中全音律とピタゴラス音律を組み合わせた音律で、両者はその組み合わせかたが異なる。転調により曲想が変化するのが特徴。バッハやベートーベン時代に使用され、現在でもその時代の音楽をハープシコード (= チェンバロ)などで演奏するときにしばしば用いられる。

■ バックアップ設定

(電源をオフしても設定が消えない項目を選ぶ)

この機能により、バックアップ設定(下記)の一部の設定が、電源が切れても記憶されるかどうかを設定します。バックアップ設定は、「音色」(音色選択などさまざまな関連設定)と「その他」(繰り返し再生やチューニングなどの設定)の2グループに分かれており、それぞれ個別に記憶されるかどうかを設定できます。

電源をオフしても消えないデータ

- 本体内部メモリーの「ユーザー」カテゴリに保存されるMIDI曲
- ユーティリティ
- バックアップ設定(本項で説明)

1. [メニュー]ボタンを何回か押して、「システムメニュー」を選びます。
2. [∧]/[V]ボタンを押して「バックアップ」を選び、[>]ボタンで次の画面を呼び出したあと、[∧]/[V]ボタンで「バックアップ設定」を選びます。
3. [>]ボタンと[∧]/[V]ボタンで「音色」を選び、[>]ボタンで「オン」または「オフ」を選びます。
「音色」には下記項目があります。
 - R1/R2/L音色選択
 - デュアル/スプリットのオン/オフ設定
 - 音色メニューの全項目(スプリットポイント以外)
4. [∧]/[V]ボタンで「その他」を選択し、[>]ボタンで「オン」または「オフ」を選びます。
「その他」には下記項目があります。
 - 音色メニュー：スプリットポイント
 - 曲メニュー：曲リピート、曲一鍵盤、クイックプレイ、トラック試聴
 - メトロノームメニュー：音量、BPM、ベル、イントロ、エンディング
 - システムメニュー：チューニング、鍵盤、ペダル、音響、MIDI
5. [戻る]ボタンでシステムメニュー画面を抜けます。

■ バックアップ

(バックアップファイルを保存する)

この機能により、本体内部に作られたデータ/設定をUSBフラッシュメモリーにバックアップファイル(ファイル名：「SCLP-****.bup」)として保存できます。このバックアップファイルは、あとで楽器本体に呼び戻すことができます。

注記

- この機能の実行には1～2分の時間がかかります。
- 実行中(「操作を実行しています」が表示されている間)は電源を切らないでください。データ損失の原因になります。
- すでに同じバックアップファイル(SCLP-****.bup)がUSBフラッシュメモリーに保存されている場合、この機能の実行によりファイルは書き換えられます。

1. USBフラッシュメモリーをUSB [TO DEVICE]端子に接続します。
2. [メニュー]ボタンを何回か押して、「システムメニュー」を選びます。
3. [∧]/[V]ボタンを押して「バックアップ」を選び、[>]ボタンで次の画面を呼び出したあと、[∧]/[V]ボタンで「バックアップ」を選びます。
4. [>]ボタンで次の画面を呼び出したあと、[∧]/[V]ボタンで「実行」を選びます。
5. [>]ボタンでバックアップを実行します。
6. [戻る]ボタンでシステムメニュー画面を抜けます。

NOTE

バックアップファイル内の設定を呼び戻したい場合は、リストア機能(84ページ)を実行します。

NOTE

プロテクト曲はバックアップされません。

■ リストア

(バックアップファイルを読み込んで再起動する)

この機能により、バックアップ機能(83ページ)で保存したバックアップファイル(ファイル名:「SCLP-****.bup」)を楽器本体に読み込むことができます。

注記

- この機能の実行には1~2分の時間がかかります。
実行中(「操作を実行しています」が表示されている間)は電源を切らないでください。データ損失の原因になります。
- プロテクト曲も含め、重要なデータが本体内部メモリーにある場合は、リストアを実行する前に、83ページの操作に従って、必ずUSBフラッシュメモリーなど本体外部へデータを移してください。リストア実行により、これら重要なデータが消えてしまうので十分ご注意ください。

1. バックアップファイルが入っているUSBフラッシュメモリーを、USB [TO DEVICE]端子に接続します。
2. [メニュー]ボタンを何回か押して、「システムメニュー」を選びます。
3. [∧]/[V]ボタンを押して「バックアップ」を選び、[>]ボタンで次の画面を呼び出したあと、[∧]/[V]ボタンで「リストア」を選びます。
4. [>]ボタンで次の画面を呼び出したあと、[∧]/[V]ボタンで「実行」を選びます。
5. [>]ボタンでリストアを実行します。

リストアが終わるとメッセージが表示され、数秒後に楽器が再起動されます。

■ ファクトリーセット

(工場出荷時の状態を呼び出して再起動する)

この機能により、楽器本体を工場出荷時の状態に戻せます。以下の点にご注意ください。

- バックアップ設定(83ページ)は初期設定に戻ります。
- 「ユーザー」カテゴリーに保存されている曲は消去されません。

注記

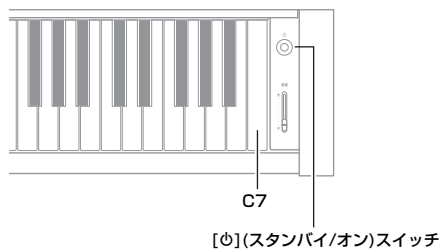
- この機能の実行中(「楽器を初期化しています」が表示されている間)は電源を切らないでください。データ損失の原因になります。
- プロテクト曲も含め、重要なデータが本体内部メモリーにある場合は、ファクトリーセットを実行する前に、83ページの操作に従って、必ずUSBフラッシュメモリーなど本体外部へデータを移してください。ファクトリーセット実行により、これら重要なデータが消えてしまうので十分ご注意ください。

1. [メニュー]ボタンを何回か押して、「システムメニュー」を選びます。
2. [∧]/[V]ボタンを押して「バックアップ」を選び、[>]ボタンで次の画面を呼び出したあと、[∧]/[V]ボタンで「ファクトリーセット」を選びます。
3. [>]ボタンで次の画面を呼び出したあと、[∧]/[V]ボタンで「実行」を選びます。
4. [>]ボタンでファクトリーセットを実行します。

ファクトリーセットが終わるとメッセージが表示され、数秒後に楽器が再起動されます。

● 工場出荷時の状態に戻す他の方法

右端の白鍵(C7)を押したまま電源をオン([φ](スタンバイ/オン)スイッチを押す)にしても、初期設定に戻すことができます。ユーザーに保存した曲は消去されません。



音色一覧(詳細版)

○:あり - :なし

No.	音色グループ	No.	音色名	タッチ 感度	ステレオ サンプリング	キーオフ サンプリング	ダンパー レゾナンス	ストリング レゾナンス	音色 デモ	音色紹介
1	コンサートピアノ	1	CFX グランド	○	○	○	○	○	○	ヤマハ最上位コンサートグランドピアノCFXの音色です。弱く弾いた音から強く弾いた音までの音色変化のダイナミックレンジが広く、表情豊かな演奏ができます。あらゆるジャンル、あらゆる演奏に最適な音色です。
		2	ベーゼンドルファー	○	○	-	○	-	○	ウィナーートンで有名なベーゼンドルファー社のフルコンサートピアノの音色です。ピアノの大きさを感じさせる広がりある音特徴で、曲の優しさを表現するのに最適です。
		3	ステージ グランド	○	○	○	○	○	○	クリアで輪郭のはっきりした表現力ある音色です。
2	メロウピアノ	4	メロウ グランド 1	○	○	-	○	-	○	独特な響きを持ったメロウな音色です。懐かしさを演出するような音で、ゆったりとした曲に最適です。
		5	メロウ グランド 2	○	○	○	○	○	○	ソフトで伸びのある音色で、幻想的な音の余韻を楽しむのに最適です。
		6	メロウ グランド 3	○	○	○	○	○	○	優しい音色で、癒されるような曲に最適です。
3	ブライトピアノ	7	ブライト グランド 1	○	○	○	○	○	○	動きの速いダイナミックな曲に合う音色です。
		8	ブライト グランド 2	○	○	-	○	○	○	輝きのある明るさを持った音色です。明るい楽しい曲に最適です。
		9	ブライト グランド 3	○	○	○	○	○	○	速いパッセージがある軽やかなイメージの曲に合う音色です。
4	モダンピアノ	10	ジャズ グランド	○	○	-	○	-	○	現代のピアノ曲やジャズに最適な、輪郭のしっかりした音色です。
		11	ポップ グランド	○	○	○	○	○	○	現代のピアノ曲やポピュラー音楽に最適な、明るいイメージのピアノ音色です。
		12	ロック グランド	○	○	○	○	○	○	明るく速い動きに適したピアノ音色です。シャープさが目立つ音で、現代のロック音楽にも対応できます。
5	クラシカルピアノ	13	クラシカル グランド 1	○	○	-	○	-	○	一般的にピアノフォルテと呼ばれ、ハーブシコードからピアノへと移り変わる途中の、初期のピアノ音色をシミュレートした音色です。
		14	クラシカル グランド 2	○	○	-	○	-	○	クラシカル グランド 1と同様で、クラシカル グランド 1より少し時代が新しくなったイメージの音色です。
		15	クラシカル グランド 3	○	○	-	○	-	○	クラシカル グランド 1と同様で、クラシカル グランド 2より少し時代が新しくなったイメージの音色です。
6	コレクション	16	ステージ エレピ	○	-	○	-	-	○	金属片をハンマーでたたいて発音させる電気ピアノの音です。弱く弾いたときは柔らかく、強く弾くと芯のある音がします。
		17	DX エレピ	○	-	-	-	-	-	FMシンセサイザーによる電子ピアノの音です。タッチの強弱に応じて音色の変化も楽しめます。ポピュラー音楽に最適です。
		18	ピンテージ エレピ	○	-	○	-	-	-	ステージ エレピと異なるタイプの電気ピアノの音です。ロック、ポピュラー音楽によく使われています。
		19	ソフト エレピ	○	-	○	-	-	-	電気ピアノの独特なパンニング効果を持つ音です。静かなバラードの曲に最適です。
		20	フェイザー エレピ	○	-	○	-	-	-	個性的なフェイザー効果で、フュージョン系の音楽にマッチする電気ピアノの音です。
		21	トレモロ ピンテージ	○	-	○	-	-	-	ピンテージ エレピに適したトレモロ効果を付加した音です。ロック音楽によく使われます。

No.	音色グループ	No.	音色名	タッチ 感度	ステレオ サンプリング	キーオフ サンプリング	ダンパー レゾナンス	ストリング レゾナンス	音色 デモ	音色紹介	
6	コレクション	22	ハーブシコード8'	-	○	○	-	-	-	バロック音楽でよく使われる楽器の音です。タッチによる音量変化はなく、鍵盤を離したときには独特の発音があります。	
		23	ハーブシコード8'+4'	-	○	○	-	-	-	オクターブ上の音がミックスされたハーブシコードの音です。より華やかさが感じられます。	
		24	オルガン プリンシパル	-	○	-	-	-	○	パイプオルガンのプリンシパル系(金管楽器系)の混合音栓の音(8フィート+4フィート+2フィート)です。バロック時代の教会音楽の演奏に適しています。	
		25	オルガン トゥッチィ	-	○	-	-	-	-	バッハの「トッカータとフーガ」で有名なパイプオルガンのフルカブラーの音です。	
		26	ジャズ オルガン 1	-	-	-	-	-	-	歯車回転式電気オルガンの音です。ロータリー SP効果込の豪華なサンプリング音色で、このジャズ オルガン1は、ロータリー SPがゆっくり回転している音です。ジャズ、ロックなどの音楽でよく用いられます。	
		27	ジャズ オルガン 2	-	-	-	-	-	-	ジャズ オルガン1と同じ電気オルガンの音で、こちらは、ロータリー SPが速く回転しているサンプリング音色です。ジャズ オルガン 1と2を切り替えながら、曲の変化を持たせることができます。	
		28	メロウ オルガン	-	-	-	-	-	-	-	メロウな感じの電気オルガンの音です。落ち着いた曲に最適です。
		29	ストリングス	○	○	-	-	-	○	ステレオサンプリングでリアルな立ち上がりや響きする大編成弦楽アンサンブルの音です。ピアノとのデュアルでも楽しめます。	
		30	スロー ストリングス	○	○	-	-	-	-	立ち上がりの緩やかな弦楽アンサンブルの音です。ピアノやエレピとのデュアルに向いています。	
		31	クワイア	○	-	-	-	-	-	空間に広がる心和む合唱の音です。スローな曲で和音の広がりが見られます。	
		32	シンセ パッド	○	-	-	-	-	-	温かくメロウで広がりのあるシンセ音色です。アンサンブルのバックの通奏音や、ピアノ、エレピなどとのデュアルに最適です。	
		33	ビブラフォン	○	○	-	-	-	-	ステレオサンプリングされたビブラフォンの音です。広がりがあり、澄んだ音はポピュラー音楽に最適です。	
		34	アコースティック ベース	○	-	-	-	-	-	アップライトベースを指で弾く奏法の音です。ジャズやラテン音楽などによく用いられます。	

「音色デモ」欄に○がついた音色は、デモ曲が用意されています。曲名や作曲者名は、「曲一覧」(87ページ)でご確認いただけます。

キーオフサンプリングとは

鍵盤を離したときの微妙な発音をサンプリングしたものです。

ダンパーレゾナンスとは

ダンパーペダルを踏んだときの共鳴音をシミュレーションしたものです。

ストリングレゾナンスとは

鍵盤を押さえたときの弦の共鳴音をサンプリングしたものです。

曲一覧

音色デモ曲

No.	音色名	作品名	作曲者
1	CFX グランド	即興曲 第2番 op.90-2	F. P. シューベルト
2	ベーゼンドルファー	愛の夢 第3番	F. リスト
3	ステージ グランド	愛のあいさつ op.12	E. エルガー
4	メロウ グランド 1	亡き王女のための パヴァーヌ	M. ラヴェル
5	メロウ グランド 2	ベルガマスク組曲 「月の光」	C. A. ドビュッシー
6	メロウ グランド 3	子供の情景 「トロイメライ」 op.15-7	R. シューマン
7	ブライツ グランド 1	ピアノソナタ 第1番 op.24 第4楽章 「無窮動」	C. M. v. ウェーバー
8	ブライツ グランド 2	きらきら星変奏曲	W. A. モーツァルト
9	ブライツ グランド 3	ワルツ 第6番 「小犬のワルツ」 op.64-1	F. F. ショパン
10	ジャズ グランド	ジュ トゥ ヴ	E. サティ
11	ポップ グランド	無言歌 op.17-3	G. フォーレ
12	ロック グランド	練習曲 「エオリアン ハープ」 op.25-1	F. F. ショパン
13	クラシカル グランド 1	ピアノソナタ 第15番, K545 第1楽章	W. A. モーツァルト
14	クラシカル グランド 2	エリーゼのために	L. v. ベートーヴェン
15	クラシカル グランド 3	春の歌 op.62-6	F. メンデルスゾーン
16	ステージ エレピ	オリジナル	オリジナル
17	オルガン プリンシパル	オルガン小曲集 「神のひとり子なる主 キリスト」 BWV.601	J. S. バッハ
18	ストリングス	オリジナル	オリジナル

「オリジナル」は、ヤマハのオリジナル曲です。(© 2014 Yamaha Corporation)

「オリジナル」以外のデモ曲は、既存の曲から編集/抜粋したものです。

ピアノ50選

No.	作品名	作曲者
1	インベンション 第1番	J. S. バッハ
2	インベンション 第8番	J. S. バッハ
3	ガボット	J. S. バッハ
4	前奏曲(平均律第1巻第1番)	J. S. バッハ
5	メヌエット 卜長調	J. S. バッハ
6	かっこう	L-C. ダカン
7	ピアノソナタ 第15番 第1楽章	W. A. モーツァルト
8	トルコ行進曲	W. A. モーツァルト
9	メヌエット 卜長調	W. A. モーツァルト
10	リトル・セレナーデ	J. ハイドン
11	ソナタ 第1番終楽章 「無窮動」	C. M. v. ウェーバー
12	エコセーズ	L. v. ベートーヴェン
13	エリーゼのために	L. v. ベートーヴェン
14	トルコ行進曲	L. v. ベートーヴェン
15	ピアノソナタ 第8番 「悲愴」 第2楽章	L. v. ベートーヴェン
16	ピアノソナタ 第14番 「月光」 第1楽章	L. v. ベートーヴェン
17	ピアノソナタ 第20番 卜長調 第1楽章	L. v. ベートーヴェン
18	即興曲 作品90 第2番	F. P. シューベルト
19	楽興の時 第3番	F. P. シューベルト
20	春の歌	J. L. F. メンデルスゾーン
21	狩人の歌	J. L. F. メンデルスゾーン
22	幻想即興曲	F. F. ショパン
23	雨だれの前奏曲	F. F. ショパン
24	黒鍵のエチュード	F. F. ショパン
25	別れの曲	F. F. ショパン
26	革命のエチュード	F. F. ショパン
27	小犬のワルツ	F. F. ショパン
28	ワルツ 第7番	F. F. ショパン
29	ワルツ 第9番 「告別」	F. F. ショパン
30	夜想曲 第2番 変ホ長調	F. F. ショパン
31	トロイメライ	R. シューマン
32	楽しき農夫	R. シューマン
33	乙女の祈り	T. バダジェフスカ
34	人形の夢と目覚め	T. エステン
35	アラバスク	J. F. フルグミュラー
36	牧歌	J. F. フルグミュラー
37	貴婦人の乗馬	J. F. フルグミュラー
38	愛の夢 第3番	F. リスト
39	花の歌	G. ランゲ
40	舟歌	P. I. チャイコフスキー
41	へ調のメロディ	A. ルビンシテイン
42	ユーモレスク	A. ドヴォルザーク
43	タンゴ(スペインより)	I. アルベニス
44	エンターテイナー	S. ジョプリン
45	メイプル・リーフ・ラグ	S. ジョプリン
46	亜麻色の髪の乙女	C. A. ドビュッシー
47	アラバスク 第1番	C. A. ドビュッシー
48	月の光	C. A. ドビュッシー
49	夢	C. A. ドビュッシー
50	ケーキウォーク	C. A. ドビュッシー

これらのピアノ曲は、付属の「ピアノで弾く名曲50選」に楽譜が掲載されていますので、ご活用ください。

クラシック50曲

No.	作品名	作曲者
1	イタリア協奏曲 第1楽章	J. S. バッハ
2	ゴルトベルク変奏曲 アリア	J. S. バッハ
3	きらきら星変奏曲	W. A. モーツァルト
4	ロンド ニ長調 K.485	W. A. モーツァルト
5	メヌエット ト長調 WoO.10-2	L. v. ベートーヴェン
6	ソナチネ ト長調 第1楽章 Anh5(1)	L. v. ベートーヴェン
7	ソナチネ 第1番 第1楽章 op.20-1	F. クーラウ
8	ワルツ 第10番 op.69-2	F. F. ショパン
9	華麗なる大円舞曲 op.18	F. F. ショパン
10	練習曲「エオリアンハーブ」op.25-1	F. F. ショパン
11	前奏曲 第7番 op.28-7	F. F. ショパン
12	夜想曲 第1番 op.9-1	F. F. ショパン
13	夜想曲 第8番 op.27-2	F. F. ショパン
14	夜想曲 第9番 op.32-1	F. F. ショパン
15	夜想曲 第20番 遺作	F. F. ショパン
16	幻想小曲集「夕べに」op.12-1	R. シューマン
17	子供の情景「見知らぬ国と人びと」op.15-1	R. シューマン
18	子供の情景「不思議なお話」op.15-2	R. シューマン
19	子供の情景「鬼ごっこ」op.15-3	R. シューマン
20	子供の情景「炉端で」op.15-8	R. シューマン
21	アラベスク 八長調 op.18	R. シューマン
22	子供のためのアルバム「メロディ」op.68-1	R. シューマン
23	子供のためのアルバム「小さな曲」op.68-5	R. シューマン
24	子供のためのアルバム「輪唱歌」op.68-22	R. シューマン
25	森の情景「森の入り口」op.82-1	R. シューマン
26	ラ カンパネラ	F. リスト
27	コンソレーション 第3番	F. リスト
28	四季「秋の歌」	P. I. チャイコフスキー
29	四季「ひばりの歌」	P. I. チャイコフスキー
30	勿忘草	H. リヒナー
31	抒情小品集 第1集「アリエッタ」op.12-1	E. H. グリーグ
32	抒情小品集 第3集「蝶々」op.43-1	E. H. グリーグ
33	抒情小品集 第3集「春に寄す」op.43-6	E. H. グリーグ
34	抒情小品集 第5集「夜想曲」op.54-4	E. H. グリーグ
35	抒情小品集 第10集「夏の夕べ」op.71-2	E. H. グリーグ
36	森のスケッチ「野ばらに寄す」op.51-1	E. A. マクダウェル
37	ベルガマスク組曲「プレリュード」	C. A. ドビュッシー
38	ベルガマスク組曲「パスピエ」	C. A. ドビュッシー
39	レントより遅く(ワルツ)	C. A. ドビュッシー
40	子供の韻分「グラドゥス アドバルナッサム博士」	C. A. ドビュッシー
41	無言歌 第3番 op.17-3	G. フォーレ
42	ジムノペディ 第1番	E. サティ
43	ジユトゥヴ	E. サティ
44	愛の挨拶 op.12	E. エルガー
45	亡き王女のためのパヴァーヌ	M. ラヴェル
46*	子供の遊び「子守歌」op.22-3	G. ビゼー
47*	ワルツ 第15番 op.39-15	J. フラームス
48*	スラブ舞曲集 第1集 第8番 op.46-8	A. ドヴォルザーク
49*	小組曲「小舟にて」	C. A. ドビュッシー
50*	ドリー「子守歌」op.56-1	G. フォーレ

* 連弾曲です。右手パートが第1奏者用、左手パートが第2奏者用です。

レッスン曲

曲集名	No./作品名	作曲者
バイエルピアノ 教則本	第1～106番	F. バイエル
ブルクミュラー 25の練習曲	1 素直な心	J. F. ブルクミュラー
	2 アラベスク	
	3 牧歌	
	4 子供の集會	
	5 無邪気	
	6 進歩	
	7 清い流れ	
	8 優美	
	9 狩猟	
	10 やさしい花	
	11 せきれい	
	12 さようなら	
	13 なぐさめ	
	14 スティリアの女	
	15 バラード	
	16 小さな嘆き	
	17 おしゃべり	
	18 心配	
	19 アペマリア	
	20 タランテラ	
	21 天使の声	
	22 舟歌	
	23 帰途(かえりみち)	
	24 つばめ	
	25 貴婦人の乗馬	
チェルニー 100番 練習曲	第1～100番	C. チェルニー
チェルニー 30番 練習曲	第1～30番	C. チェルニー
ハノンピアノ教本	第1部 第1～20番、 第1番の变奏 第1～22番	C-L. ハノン

バイエルピアノ教則本の第1～11番、第32～34番、第41～44番、第63番、第64番、第86番、第87番は連弾曲です。右手パートが第1奏者用、左手パートが第2奏者用です。

リズム一覧

カテゴリー	No.	リズム名
ポップ&ロック	1	8ビート
	2	16ビート
	3	シャッフル1
	4	シャッフル2
	5	シャッフル3
	6	8ビートバラード
	7	6-8スローロック
ジャズ	8	スイング
	9	スイングファスト
	10	5ビート
	11	ジャズワルツ
ラテン	12	サンバ
	13	ボサノバ
	14	ルンバ
	15	サルサ
	16	タンゴ
キッズ&ホリデイ	17	2-4キッズ
	18	6-8マーチ
	19	クリスマススイング
	20	クリスマス3-4

NOTE

リズム機能があるのは、SCLP-5450のみです。

メッセージ一覧

メッセージ	内容
お待ちください	データを処理していますので、このメッセージが表示されている間はほかの操作ができません。しばらくお待ちください。
書き込みできないUSBメモリーです	ライトプロテクト機能の付いたUSBフラッシュメモリーに、ファイル操作(54ページ)、録音、保存などを行おうとしています。USBフラッシュメモリーを書き込み可にして操作し直してください。書き込みを可にしてもこのメッセージが表示される場合は、USBフラッシュメモリーに内部的なプロテクトがかかっている可能性があります。その場合は、書き込みできません。
楽器を初期化しています。 「ユーザー」内の曲は消去されません	初期設定に戻していることをお知らせしています。楽器の「ユーザー」内の曲は消去されません。
楽器を初期化しました	この楽器の設定を、初期設定に戻しました。
曲データに不具合が発見されました	曲の選択時や再生中に、曲データに不具合が発見されたことをお知らせしています。もう一度曲を選択し、再生してください。それでもこのメッセージが表示される場合は、曲データが壊れている可能性があります。
曲データのサイズが制限を超えています	以下の原因が考えられます。 <ul style="list-style-type: none"> 再生しようとした曲のサイズが制限を超えています。サイズの制限は、約500KBまでです。 録音中に、曲のサイズが制限を超えました。サイズの制限は、約500KBまでです。そこで自動的に録音が終了されます。そこまでに録音したデータは保存されます。
曲名が不適切です	曲名の変更(58ページ)の際、以下の原因で表示されます。名前を付け直してください。 <ul style="list-style-type: none"> 入力文字がありません。 曲名の先頭/後尾にピリオドやスペースが入っています。
現在の音色に変更します	曲の音色を書き換えようとしています。
現在のテンポに変更します	曲のテンポを書き換えようとしています。
サポートされていないUSB機器が接続されています	動作確認済みのUSB機器をお使いください(61ページ)。
接続したUSB機器と通信できません	USB機器を接続し直してください(61ページ)。正しく接続してもこのメッセージが表示される場合は、USB機器が壊れている可能性があります。
接続したUSB機器の数が、この楽器での制限を超えました	同時に使用できるUSB機器は、2台までです。詳しくは、61ページを参照してください。
接続したUSB機器の消費電力が規定値を超えました	通常はバスパワーのUSBハブの使用を推奨していますが、お使いのUSB機器の消費電力が規定値を超えました。電源付き(セルフパワー)のUSBハブをお使いになるか、動作確認済みのUSB機器をお使いください(61ページ)。
前回、不正に電源を切ったため、楽器の内部をチェックしています	曲ファイルの操作時(54ページ)や、データのバックアップ中(83ページ)に電源を切り、もう一度電源を入れた場合に表示されます。内部をチェックした結果、楽器の設定が破損している場合は、初期設定に戻ります。楽器の「ユーザー」内の曲が破損している場合は、削除されます。
選択したUSBメモリーへの、ファイル操作はできません	以下の原因が考えられます。 <ul style="list-style-type: none"> フォーマットされていないUSBフラッシュメモリーです。フォーマット(81ページ)してから操作してください。 ファイル数が保存できる数の制限を超えました。楽器の「ユーザー」内やUSBフラッシュメモリーに保存できるファイル数は、1フォルダーに、ファイルとフォルダーを合わせて250までです。その制限を超えて保存しようとしたため、表示されました。不要なファイルを削除/移動してから、保存してください。
操作/録音先の容量やファイル数がいっぱいです	楽器の「ユーザー」内やUSBフラッシュメモリー内の容量やファイル数がいっぱい、操作/録音ができません。「ユーザー」内やUSBフラッシュメモリー内の曲を削除するか、別のUSBフラッシュメモリーに移動してから(57ページ)、改めて操作/録音してください。
操作を完了しました	操作の完了を知らせています。「操作を実行しています」メッセージに続いて表示されます。このメッセージが表示されたあと、次の操作へ進めます。
操作を実行しています	操作を実行していますので、このメッセージが表示されている間はほかの操作ができません。しばらくお待ちください。

メッセージ	内容
操作を実行できません	以下の原因が考えられます。原因を解決してから、操作し直してください。 <ul style="list-style-type: none"> 内蔵曲ではできないファイル操作です。操作の制限は、54ページでご確認ください。 空の曲ファイル(45ページ)へはファイルの操作はできません。
同名ファイルが存在します	曲ファイルの操作時(54ページ)、同名のファイルが存在することを知らせています。上書きする場合は「上書き」、キャンセルする場合は「中止」を[△]/[▽]ボタンで選び、[>]ボタンを押します。
バックアップデータの復元が完了しました。 楽器を再起動します	リストア(84ページ)が完了したことを知らせています。このメッセージのあと、楽器は再起動されます。
ファイルアクセスに失敗しました	以下の原因が考えられます。以下に該当しない場合は、操作しようとしているファイルが壊れていることが考えられます。 <ul style="list-style-type: none"> ファイルの操作方法が間違っています。「曲ファイル进行操作する」(54ページ)や「バックアップ」(83ページ)、「リストア」(84ページ)で操作方法をご確認ください。 接続中のUSB機器は、この楽器では使用できません。使用できるUSBフラッシュメモリーについては、61ページをご確認ください。 操作しようとしているプロテクトのかかった曲に不備があります。
ファイル数、またはファイルパス長が上限を超えています	楽器の「ユーザー」やUSBフラッシュメモリーに保存できるファイル数は、1フォルダーに、ファイルとフォルダーを合わせて250までです。その制限を超えて保存しようとしたため、表示されました。不要なファイルを削除/移動して、保存し直してください。
ファイル名が重複しています	曲ファイルの操作時(54ページ)、同名のファイルが存在することを知らせています。ファイル名を変更するなどしてください。
フォーマットされていないUSBメモリーです	フォーマットされていないUSBフラッシュメモリーを使おうとしたため、表示されました。フォーマット(81ページ)してから操作してください。
プロテクトがかかった曲、または読み取り専用のファイルです	プロテクトがかかった曲は、ファイル操作に制限があります(54ページ)。また、録音の編集には使えません。読み取り専用のファイルは、コンピューターで読み取り専用を解除してからお使いください。
プロテクトがかかった曲を操作しようとしています。実行しますか？	プロテクトがかかった曲の操作制限は、54ページを参照してください。
USB/USER FILES/に移動しました	「ユーザー」内の曲ファイルを、USBフラッシュメモリー内の「USER FILES」フォルダーへ移動したことを知らせています。
USB/USER FILES/にコピーしました	「ユーザー」内の曲ファイルを、USBフラッシュメモリー内の「USER FILES」フォルダーへコピーしたことを知らせています。
USB機器に過電流が流れたため、USB機器との通信を停止しました	USB機器をUSB [TO DEVICE]端子から抜き、楽器の電源を入れ直してください。
USBハブが2階層以上になって接続されました	USBハブを2階層で接続することはできません。
USBメモリーが楽器本体から外されました	USBフラッシュメモリーが外されたことを知らせています。
USBメモリーが接続されていません	USBフラッシュメモリーを接続し、操作をし直してください。
「ユーザー」内/USBメモリーの残り容量が少なくなりました	楽器の「ユーザー」内 やUSBフラッシュメモリー内の不要なファイルを削除(56ページ)してから、録音を始めてください。
「ユーザー」内に移動しました	USBフラッシュメモリーの曲を、楽器の「ユーザー」へ移動したことを知らせています。
「ユーザー」内にコピーしました	USBフラッシュメモリーの曲を、楽器の「ユーザー」へコピーしたことを知らせています。
Internal hardware error	巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。

困ったときは

画面にメッセージが表示された場合は、メッセージ一覧(90ページ)をご参照ください。

現象	原因と解決法
電源が入らない。	電源プラグが差し込まれていません。電源プラグを本体と家庭用(AC100V)コンセントに、確実に差し込んでください(12ページ)。
電源スイッチを押して電源を入れたとき、または切ったとき、「カチッ」と音がする。	電気が流れたためです。異常ではありません。
電源が勝手に切れる。	故障ではありません。オートパワーオフ機能が働いたためです。オートパワーオフの設定を変更してください(82ページ)。
画面に「USB機器に過電流が流れたため、USB機器との通信を停止しました」と表示される。また、USB機器が動作しない。	USB機器に過電流が流れたため、USB機器との通信を停止しました。USB機器をUSB [TO DEVICE]端子から抜き、本体の電源を入れ直してください。
鍵盤を弾くと、機構音がカタカタ鳴る。	この楽器の鍵盤機構は、ピアノの鍵盤機構をシミュレートして設計されています。ピアノの場合でも機構音は実際に出ているものです。異常ではありません。
この楽器から雑音が出る。	この楽器の近くで携帯電話を使ったり、呼び出し音が鳴ったりすると、雑音が出る場合があります。この楽器の近くに携帯電話を置かないでください。
iPhone/iPadのアプリケーションと楽器と一緒に使っているとき、本体スピーカーやヘッドフォンから雑音(ノイズ)が出る。	iPhone/iPadのアプリケーションと一緒に使用する場合は、通信によるノイズを避けるため、iPhone/iPadの機内モードをオンにしてお使いいただくことをおすすめします。
全体的に音が小さい。または、まったく音が出ない。	音量が下がっています。[音量]スライダーで音量を上げてください(15ページ)。
	手弾き音の音量が下がっています。曲メニュー画面の「音量」→「曲 - 鍵盤」で調節してください(41ページ)。
	スピーカーの設定が「標準」で(82ページ)、ヘッドフォンを接続しているとスピーカーからは音が出ません。ヘッドフォンのプラグを抜いてください。
	スピーカーの設定が「オフ」になっています。スピーカーの設定を「標準」または「オン」にしてください。 システムメニュー画面の「ユーティリティ」→「スピーカー」(82ページ)。
	ローカルコントロールが「オフ」になっています。ローカルコントロールを「オン」にしてください。 システムメニュー画面の「MIDI」→「ローカルコントロール」(80ページ)。
右ペダルの機能が「エクスペッション」に設定されています。ペダルの機能を「エクスペッション」以外に設定してください。 音色メニュー画面の「ペダル割り当て」→「右ペダル」(72ページ)。	
ヘッドフォンを[PHONES]端子に差ししてもスピーカーから音が出る。	スピーカーの設定が「オン」になっています。スピーカーの設定を「標準」にしてください。 システムメニュー画面の「ユーティリティ」→「スピーカー」(82ページ)。
ペダルが効かない。	ペダルコードのプラグが[PEDAL]端子にしっかり差し込まれていません。本体の電源を切った状態で、ペダルコードのプラグを[PEDAL]端子に確実に差し込んでください。その際、プラグの金属部分が見えなくなるまで、しっかり差し込んでください(96ページ)。
鍵盤で弾く音が曲の再生音に比べて小さい。	手弾き音の音量が下がっています。曲メニュー画面の「音量」→「曲 - 鍵盤」で調節してください(74ページ)。
ボタンを押しても動作しない。	ほかの機能の動作中にはできない操作がいくつかあります。曲の再生中は曲の再生を止めて、その他の場合は[戻る]ボタンを押して音色画面や曲画面に戻ってから操作してください。
特定の音域でピアノ音色の音の高さ、音質がおかしい。	ピアノ音色では、ピアノ本来の音をできる限り忠実に再現しようとしています。その結果、音域により倍音が強調されて聞こえるなど、音の高さや音域が異質に感じる場合があります。異常ではありません。
移調やオクターブを設定したときに、高い方や低い方の音がおかしい。	移調やオクターブを設定したときに、発音できる音域はC-2~G8です。C-2より低くなる音は1オクターブ上の音で、G8より高くなる音は1オクターブ下の音で鳴ります。
デュアル/スプリットで録音したはずの音が録音されていない。または思わぬパートのデータが消えてしまった。	曲の途中でのデュアル/スプリットへの切り替えは録音されません。また、デュアルの第2音色/スプリットの左側の音色の録音パートは自動的に決められます(47ページ)。したがって、それらのパートに既存のデータがあった場合は、上書きされて消えています。

現象	原因と解決法
曲名表示がおかしい。	ほかの楽器で録音した曲の場合は、正しく表示されないことがあります。曲ファイルの名前を変更してください(58ページ)。
メニュー画面が表示されない。	曲再生中/一時停止中/シンクロスタートモード中などは、音色メニュー、曲メニュー以外のメニュー画面は表示されません。[■](ストップ)ボタンを押して曲をストップしてください。また録音モード時は、録音メニュー画面しか表示されません。
メトロノームがスタートしない。	シンクロ再生が「オン」になっています。メトロノームメニュー画面のシンクロ再生の設定を「オフ」にしてください(77ページ)。
USB無線LANアダプターが接続されているにもかかわらず、画面に無線LANの項目が表示されない。	USB無線LANアダプターを接続し直してください。

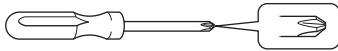
楽器を組み立てる

組み立て時の注意

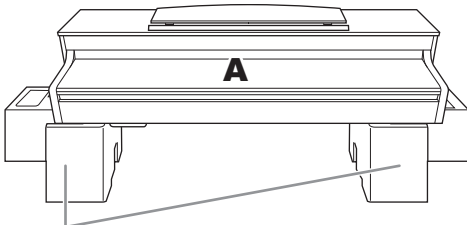
⚠ 注意

- 硬くて平らな場所で組み立ててください。
- 部品をまちがえたり、向きをまちがえないように注意して、手順どおりに組み立ててください。
- 組み立ては、必ず2人以上で行なってください。
- ネジは付属の指定サイズ以外のものは使用しないでください。サイズの違うネジを使用すると、製品の破損や故障の原因になることがあります。
- ネジは各ユニット固定後、ゆるみがないようきつく締め直してください。
- 解体するときは、組み立てと逆の手順で行なってください。

ネジのサイズに合ったプラス(+)のドライバーを用意してください。

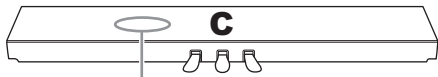


すべての部品を取り出し、部品がそろっているか確かめてください。

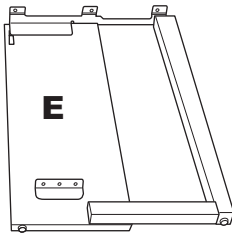
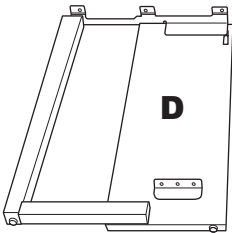


スチロールパッド

スチロールパッドを取り出し、その上にAを置きます。
スチロールパッドは、A底面の端子を避けて配置します。



裏側にペダルコードが束ねてあります。



太いネジ(6×20mm)×10



コードホルダー×2



細いネジ(4×10mm)×2



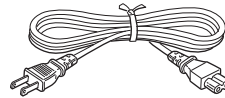
細いネジ(4×12mm)×2



ヘッドフォンハンガー

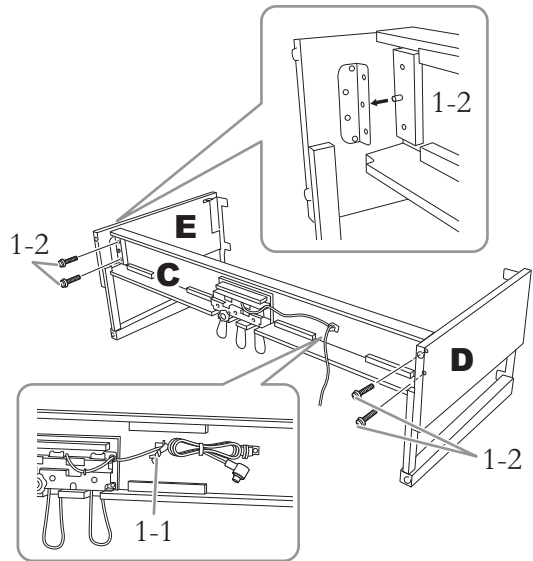


先のとがったネジ(4×20mm)×4



電源コード

1. DとEをCに固定します。

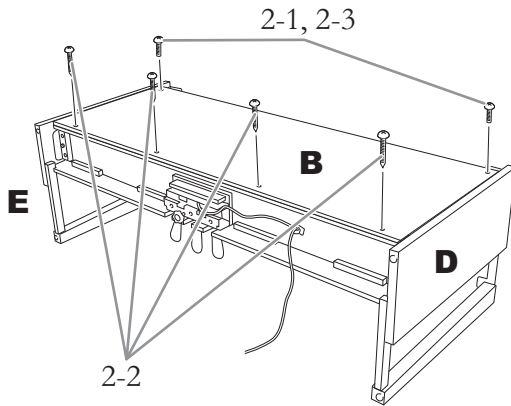


1-1. ペダルコードをほどきます。外したビニールひもは、手順5で使用します。

1-2. 突起を金具に挿入し、太いネジ(6×20mm) 4本できつく締め固定します。

2. Bを固定します。

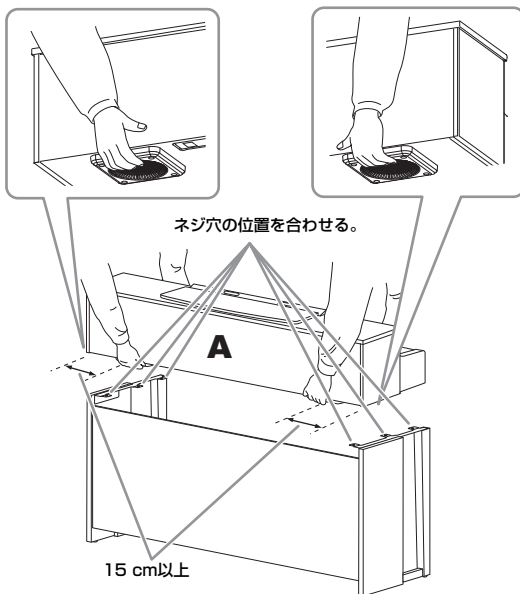
モデルによっては、Bの裏表で色が違う場合があります。
この場合は、演奏者側から見たときにBの色とD、E
の色が同じになる向きで、Bを取り付けます。



- 2-1. Bのネジ穴とD、Eのネジ穴の位置を合わせ、上側を細いネジ(4×12mm) 2本で仮留めします。
- 2-2. 下側を先のとがったネジ(4×20mm) 4本で締め固定します。
- 2-3. 仮留めした上側のネジ(手順2-1)をきつく締め直します。

3. Aを載せます。

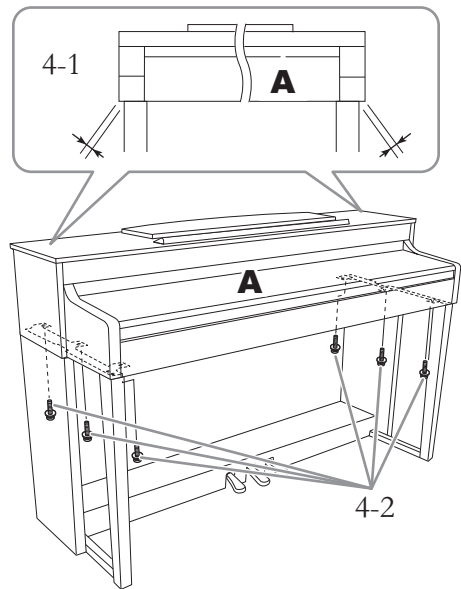
必ず本体底面の左右両端から15cm以上内側を持って載せます。



⚠ 注意

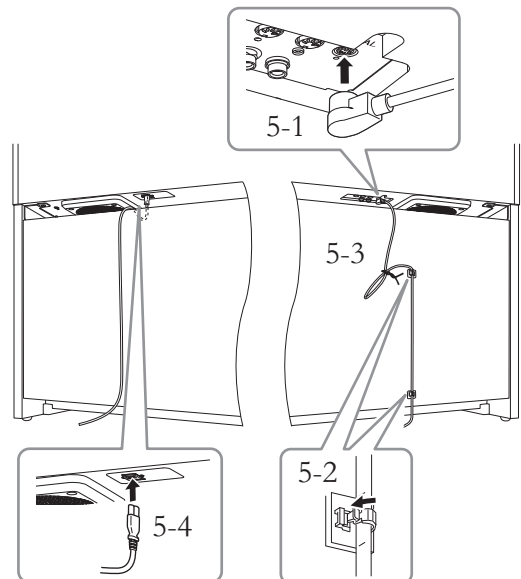
- 指をはさんだり、本体を落としたりしないよう十分ご注意ください。
- 指定した位置以外を持たないでください。

4. Aを固定します。



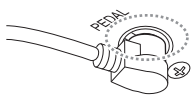
- 4-1. 前面から見て、Aの張り出し部分が左右均等になるように調整します。
- 4-2. 前面から、太いネジ(6×20mm) 6本で固定します。

5. ペダルコードと電源コードを接続します。



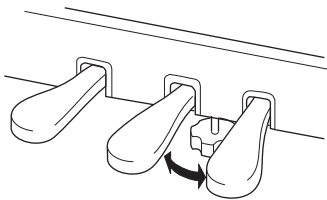
- 5-1. ペダルコードのプラグを[^{ペダル}PEDAL]端子に差し込みます。
- 5-2. コードホルダーを貼り付け、ペダルコードを固定します。
- 5-3. ペダルコードを、ビニールひもで束ねます。
- 5-4. 電源コードのプラグを差し込みます。

プラグの金具部分が見えなくなるまでしっかり差し込んでください。しっかり差し込まれていない場合、ペダルが機能しない原因になります。



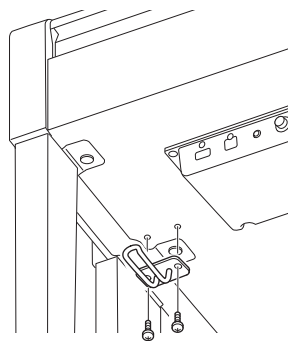
6. アジャスターを回して調節します。

アジャスターを回して、床にぴったりつけます。



7. ヘッドフォンハンガーを固定します。

細いネジ(4×10mm) 2本で、図のように取り付けます。



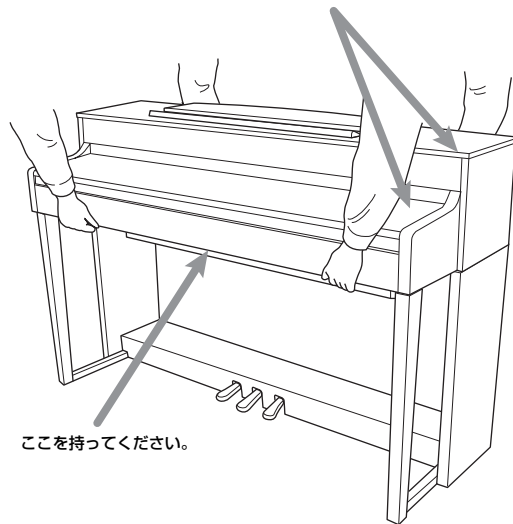
組み立て後、必ず以下の点をチェックしてください。

- 部品が余っていませんか？
→ 組み立て手順を再確認してください。
- 部屋のドアなどが楽器にあたりませんか？
→ 楽器を移動してください。
- 楽器がぐらぐらしませんか？
→ ネジを確実に締めてください。
- ペダルを踏むと、ペダルボックスがガタガタしませんか？
→ アジャスターを回して床にぴったりつけてください。
- ペダルコード、電源コードのプラグが、確実に本体に差し込まれていますか？
→ 確認してください。
- 使用中に本体がきしむ、横ゆれする、ぐらぐらするなどの症状が出たら、組み立て図に従って各部のネジを締め直してください。

⚠ 注意

- 組み立て後、本体を移動するときは、必ず本体の底面を持ってください。
- 本体上部の板やキーカバーを持たないでください。本体が破損したり、お客様がけがをしたりする原因になります。
- 使用中に本体がきしむ、横ゆれする、ぐらぐらするなどの症状がでたら、組み立て図に従って各部のネジを締め直してください。

ここを持たないでください。



ここを持ってください。

仕様

項目		SCLP-5450	SCLP-5350	
サイズ/質量	幅	1461mm		
	高さ	927mm		
	高さ(譜面立てを立てた場合)	1096mm	1081mm	
	奥行き	459mm		
	質量	61.5kg	58.0kg	
操作子	鍵盤	鍵盤数	88	
		鍵盤種	ナチュラルウッドエクス(NWX)鍵盤 象牙調仕上げ、エスケープメント付き	グレードハンマー 3エクス(GH3X)鍵盤 象牙調仕上げ、エスケープメント付き
		タッチ感度	ハード2、ハード1、ミディアム、ソフト1、ソフト2、固定	
	ペダル	ペダル数	3	
		ハーフペダル	○	
		ペダル機能	ダンパー (ハーフペダル対応)、ソフト、ソステヌート ペダルに機能割り当て可	
	ディスプレイ	タイプ	フルドットLCD	
		サイズ	128 x 64ドット	
		コントラスト	調整可	
		言語	日本語	
	パネル	言語	日本語	
本体	キーカバー (鍵盤蓋)	スライド式		
	譜面立て	○		
	譜面止め	○	—	
音源/音色	音源	ピアノ音	ヤマハ CFXサンプリング、 ベーゼンドルファー インベリアルサンプリング	
	ピアノ音源の効果	ストリングレゾナンス	○	
		ダンパーレゾナンス	○	
		キーオフサンプリング	○	
		スムーズリリース	○	
	発音数	最大同時発音数	256	
プリセット	音色数	34		
効果	タイプ	リバーブ	6種類	
		コーラス	3種類	
		プリリアンス	7種類	
		エフェクト	12種類	
		インテリジェント・アコースティック・コントロール(IAC)	○	
		ステレオフォニック オブティマイザー	○	—
	ファンクション	デュアル	○	
		スプリット	○	

項目			SCLP-5450	SCLP-5350	
録音/再生 (MIDI曲のみ； オーディオファイ ル非対応)	内蔵曲 (プリセット曲)	曲数	音色デモ曲：18曲、ピアノ曲：50曲、クラシック曲：50曲、 レッスン曲：303曲		
	録音	曲数	250		
		トラック数	16		
		データ容量	約500KB/曲		
	再生	データ容量	約500KB/曲		
	フォーマット	録音	SMF (フォーマット 0)		
再生		SMF (フォーマット 0、フォーマット 1)			
ファンクション	リズム	プリセット	20	—	
	全体設定	メトロノーム	○		
		テンポ	5~500 (4分音符)		
		移調	-12~0~+12		
		チューニング	414.8~440~466.8 Hz		
		スケール(音律)	7タイプ		
メモリー/ 接続端子	メモリー	内蔵メモリー	約1.5MB		
		外付けメモリー	USBフラッシュメモリー (別売)		
	接続端子	ヘッドフォン	○ (×2) ステレオ標準フォーンプラグ		
		MIDI	[IN] [OUT] [THRU]		
		AUX IN	○ (ステレオミニ)		
		AUX OUT	[L/L+R] [R]		
		USB TO DEVICE	○		
		USB TO HOST	○		
アンプ/ スピーカー	アンプ出力	(25W+25W) × 2	30W × 2		
	スピーカー	(16cm+8cm) × 2	16cm × 2		
	アコースティックオブティマイザー	○			
電源	定格電源	AC100V 50/60Hz			
	消費電力	30W	20W		
	オートパワーオフ	○			
付属品	<ul style="list-style-type: none"> 取扱説明書 保証書 ヘッドフォン ピアノで弾く名曲50選(楽譜集) ユーザー登録のご案内 イス 電源コード 				
別売品	<ul style="list-style-type: none"> ヘッドフォン: HPE-160 iPhone/iPod touch/iPad用USB MIDIインターフェース: i-UX1 iPhone/iPod touch/iPad用MIDIインターフェース: i-MX1 USB無線LANアダプター: UD-WL01 				

仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

別売ミュージックデータ紹介

ミュージックデータのご使用にあたって

ミュージックデータをご使用の際は、下記のサイトで案内している動作確認済みのUSB記憶装置をお使いください。
<http://jp.yamaha.com/products/musical-instruments/keyboards/support/>

音楽データショップ

MIDI形式の曲データ、および楽譜データなどのミュージックデータを、インターネットで購入できるサービスです。J-POPからジャズ、クラシックまで幅広いラインナップをとりそろえており、試聴しながら1曲ずつ簡単に購入できます。下記のURLからアクセスしてください。

<http://www.music-eclub.com/musicdata/>

「ピアノ演奏用ソロ」データ

右手、左手パートなど個別再生して練習したり、好みのテンポに調整して演奏したりできます。

「リスニングピアノソロ」データ

好きな曲の鑑賞やBGM再生を楽しめます。弾き方やアレンジの参考としても活用できます。

Mumaソフト

Muma (ミューマ)とは、ヤマハのお店にあるミュージックデータ販売システムです。お好きなミュージックデータを選び、その場でUSBフラッシュメモリーに収録できます。

* 購入前には試聴も可能です。USBフラッシュメモリーはご持参ください。

ミュージックデータの詳細やMuma設置店については、ヤマハミュージックメディアホームページにてご確認ください。

<http://www.ymm.co.jp/muma/>



ヤマハのミュージックデータのほか、市販のMIDIデータもご利用いただけます。対応するファイル形式は、33ページを参照してください。

NOTE

Mumaと音楽データショップで購入できるミュージックデータは、異なります。

索引

A

ABリピート 39

I

IAC 15

M

MIDI 80

MIDI曲 33

U

USB自動ロード 81

USBフラッシュメモリー 61

USBフラッシュメモリーの容量 81

W

WPS 66

あ

アクセスポイント 68

い

一時停止 36

移調(曲) 74

移調(鍵盤) 79

移動 57

インテリジェント・アコースティック・コントロール
(IAC) 15

イントロ 43

え

エフェクト 26, 71

エフェクトタイプリスト 72

エンディング 43

お

オートパワーオフ 13

オクターブ 70

音の高さ 74

音響 80

音色 20

音色一覧(詳細版) 85

音色デモ曲 23, 87

音色メニュー 70

音色リスト画面 21

音律 82

音量 15

音量(音色) 70

音量(メトロノーム) 77

音量バランス(曲 - 鍵盤) 41

音量バランス(曲パート) 41

き

キー(曲) 74

キーカバー 12

曲 33, 54

曲一覧 87

曲のカテゴリ 34

曲の種類 54

曲メニュー 74

曲リスト 35

く

組み立て 94

クラシック50曲 34, 88

繰り返し再生 38

こ

コーラス 26

コーラストイプリスト 72

効果 25

コピー 56

コントラスト 82

コンピューター 62

さ

再生(曲) 33

再生(パート) 37

再生(リズム) 43

削除 56

し

システムメニュー 79

手動接続 67

詳細設定 69

初期化(USBフラッシュメモリー) 81

初期化(楽器) 84

シンクロスタート(曲) 42

す

ステレオフォニックオプティマイザー 16

ストリングレゾナンス 70

スピーカー 82

スプリット 28

スプリットポイント 28

せ

接続 59

そ

ソステヌートペダル 17

ソフトペダル 17

た

タッチ感度	32
端子	59
ダンパーペダル	17
ダンパーレゾナンス	26

ち

チューニング	79
--------------	----

て

デモ曲	23
デュアル	27
電源	12
テンポ	30, 32, 36

と

トラック オン/オフ	37
トラック録音	47

な

名前の変更	58
-------------	----

ね

ネットワーク一覧	65
----------------	----

は

パート	37
ハーフペダル	17
バックアップ	83
バックアップ設定	83
パネル	10
早送り	36

ひ

ピアノ50選	34, 87
ピアノ設定	70
ピアノデモ	24
ピッチベンド	80
拍子	31

ふ

ファイル操作	54
ファクトリーセット	84
フォーマット(初期化)	84
フォーマット(規格)	33
譜面立て	14
譜面止め	14
プリリアンス	25

へ

ペダル	17, 80
ペダル機能リスト	73
ヘッドフォン	16
ヘッドフォンハンガー	16
ベル	77
編集(音色)	70
編集(曲)	75

ほ

保存(バックアップファイル)	83
----------------------	----

ま

巻き戻し	36
------------	----

む

無線LAN	63
-------------	----

め

メッセージ一覧	90
メトロノーム	30
メトロノームメニュー	77
メニュー	69

ゆ

ユーザー	34
ユーティリティ	81

り

リストア	84
リズム	43
リズム一覧	89
リバーブ	26
リバーブタイプリスト	72

れ

レッスン曲	34, 88
-------------	--------

ろ

ローカルコントロール	80
録音	44
録音メニュー	78

MEMO

保証とアフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターにご連絡ください。

● 保証書

本機には保証書がついています。

保証書は販売店がお渡ししますので、必ず「販売店印・お買い上げ日」などの記入をお確かめのうえ、大切に保管してください。

● 保証期間

保証書をご覧ください。

● 保証期間中の修理

保証書記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

● 保証期間経過後の修理

修理すれば使用できる場合は、ご希望により有料にて修理させていただきます。

有寿命部品については、使用時間や使用環境などにより劣化しやすいため、消耗劣化に応じて部品の交換が必要となります。有寿命部品の交換は、お買い上げ店またはヤマハ修理ご相談センターへご相談ください。

有寿命部品の例

ボリュームコントロール、スイッチ、ランプ、リレー類、接続端子、鍵盤機構部品、鍵盤接点、ドラムパッドなど

● 補修用性能部品の最低保有期間

製品の機能を維持するために必要な部品の最低保有期間は、製造打切後8年です。

● 修理のご依頼

まず本書の「困ったときは」をよくお読みのうえ、もう一度お調べください。

それでも異常があるときは、お買い上げの販売店、またはヤマハ修理ご相談センターへ修理をお申し付けください。

● 製品の状態は詳しく

修理をご依頼いただくときは、製品名、モデル名などとあわせて、故障の状態をできるだけ詳しくお知らせください。

◆修理に関するお問い合わせ

ヤマハ修理ご相談センター

ナビダイヤル
(全国共通番号)



0570-012-808

※全国どこからでも市内通話料金でおかけいただけます。

上記番号でつながらない場合は TEL 053-460-4830

受付時間 月曜日～金曜日 9:00～18:00

土曜日 9:00～17:00

(祝日およびセンター指定休日を除く)

FAX

東日本 (北海道/東北/関東/甲信越/東海)

03-5762-2125

西日本 (沖縄/九州/中国/四国/近畿/北陸)

06-6465-0367

◆修理品お持込み窓口

受付時間 月曜日～金曜日 9:00～17:45

(祝日および弊社休業日を除く)

* お電話は、ヤマハ修理ご相談センターでお受けします。

東日本サービスセンター

〒143-0006

東京都大田区平和島2丁目1-1

京浜トラックターミナル内14号棟A-5F

FAX 03-5762-2125

西日本サービスセンター

〒554-0024

大阪市此花区島屋6丁目2-82

ユニバーサル・シティ和幸ビル9F

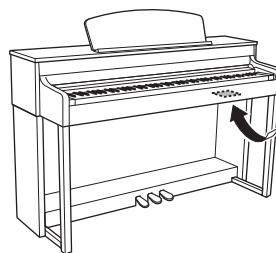
FAX 06-6465-0374

* 名称、住所、電話番号などは変更になる場合があります。

機種名(品番)、製造番号(シリアルナンバー)、電源条件などの情報は、製品の底面にある銘板または銘板付近に表示されています。製品を紛失した場合などでもご自身のものを特定していただけるよう、機種名と製造番号については以下の欄にご記入のうえ、大切に保管していただくことをお勧めします。

機種名

製造番号



銘板は、製品の底面にあります。

● 電子ピアノの機能や取り扱いについては、ご購入の特約店または
下記ヤマハお客様コミュニケーションセンターへお問い合わせください。

お客様コミュニケーションセンター 電子ピアノ・キーボードご相談窓口

ナビダイヤル  **0570-006-808**

※全国どこからでも市内通話料金でおかけいただけます。

上記番号でつながらない場合はTEL 053-460-5272

営業時間：月曜日～金曜日 10:00～18:00

土曜日 10:00～17:00

(祝日およびセンター指定休日を除く)

<http://jp.yamaha.com/support/>

◆ウェブサイトのご案内

ヤマハ株式会社のホームページ

<http://jp.yamaha.com/>

ヤマハピアノ・鍵盤楽器サイト

<http://jp.yamaha.com/piano/>

ヤマハダウンロード

<http://download.yamaha.com/jp/>

ヤマハ音楽データショップ

<http://www.music-eclub.com/musicdata/>

ヤマハ株式会社

〒430-8650 静岡県浜松市中区中沢町 10-1

*都合により、住所、電話番号、名称、営業時間などが変更になる場合がございますので、あらかじめご了承ください。



ZK56360

C.S.G., DMI Development Division
© 2014 Yamaha Corporation

ZK56360

311MWAP*.*-01A0
Printed in Vietnam